

KLIMATO 氣候, 風土

氣候よく風土も清き丸山の  
遺跡にびつクリマートあきれる

KLINI 傾く, 斜にす, 屈む (頭又體を)

備前焼徳クリニ (利に) 盛つた正宗を  
傾くるうちに月もかたむく

KLISTER'O [醫] 灌腸

胃が悪い便秘したその苦しさに  
灌腸するからクリステーロ (栗葉てろ)

KLISI [印] 鉛版にさる, ステロ版にす

完全に人の姿を鉛版に  
さる妙術に田吾びつクリーシたり

KLOAK'O (一) 下水道, きぶ, (二) 下水溜, 芥菜場, 肥溜, (三) [博] 排泄腔 (鳥, 魚などの)

下水道流るゝ汚れはクロアーコ (黒赤ふ)  
色も變りていとも醜し

KLOPODI 盡力す, 努力す, 骨折る

クロポーデ (苦勞坊爺) 自他の區別も辨へずまで  
國の御爲に盡力するなり

KLOŠ'O (一) 鍾形の蔽, 鍾形の物, (二) [植] 鍾狀花

鍾形の蔽をさしてエス語學  
クローシ, ミゴ稱呼するなり

KLUB'O 俱樂部, 會

吾々を争ひ俱樂部に遊ばんと  
クルーホ (來る坊) 主の頭照るかな

KLUZ'O 水門, 堰

水門に毒藥投げんと亂徒等がて  
恐びてクルーザ (來るぞ) 欺てかりけり

KNAB'O 男の子, 少年

又しても幟を産んだ貧乏もの  
男の子をバクナーホ (苦な坊) と云ふ

KNED'I 捏る

くねくねと理窟を捏る偽信者が  
クネーデ (來ないで) 良い坊主息づく

KOAKS'O コークス

石炭で製造したるコークスも  
コークス (入ホスベラント語) コアークリと曰ふ

KOBALTO [化] コバルト

コバルトの色は恰も秋の空  
小春と同じ色を保てる

KOBOLD'O 妖魔, 魅魘, 魅魘

妖魔 (まが神) に誑らかされて眼ざめすば  
科徳コボールド (こぼるい) と教へ戒しむ

KOCENIL'O [昆] 臙脂虫

その樹には臙脂虫族傍いて居る  
コチニエロ (此方に居る) と注意する父

KOEFICIENT'O [數] 係數

係數は數學上の用語なり  
コエファツエントとキス語にて曰ふ



KOFR'O 櫃, トランク 櫃 門木 O'SAKI

トランクはコーブ、ロ(小風呂)敷に代用し  
櫃は重要な容器とぞなる

KOJN'O 楔 (木石を割り又は起しなごする) 楔 木石 O'HAKK

木石を打ち割る様な強意見  
これもコーイノ(好意)楔なりけり

KOK'O 鶏 鶏 鳥 KEIN

藁屋根に國家コーコと伊勢の鶏  
うたふもゆかし國の瑞祥

KOKARD'O 帽章 帽章 帽子 O'KAKO

帽章を見れば忽ち學生の  
學校コカールド(校下流人)判然とする

KOKCINEL'O [昆] 瓢虫 瓢虫 KEIN

コクツ、ネーロ(殺地根露)這出で忽ち羽を生じ  
空中に飛ぶ瓢虫かな

KOKETA 仇つほい、媚びたる、しやれたる 仇つほい KEIN

仇つほい女に見惚れ途の石に  
足つまづいてコケータでれ助

KAKLUŠ'O [醫] 百日咳 百日咳 KEIN

性質の悪い百日咳に犯されし  
コケルーシ(兒苦憂症)をば癒す妙藥

KOKOS'O 古々椰子 [果] 椰子 KEIN

ココーリコ(此處其處)落ちて早く拾はん  
古々椰子の果を小供争ふ

KOKS'O [解] 股 (軀幹と腿との接合部をいふ), 臀, (俗に)

寒くとも雪隠ゆけば臀捲くる  
コーケリ(極暑)の夏は股も蚊が刺す

KOL'O 頸, 頸 頸 KEIN

コーロコロと頸が澤山落ちて居た  
伏見と鳥羽の戦争の跡に

KOLBAS'O 臘腸 臘腸, ソーセージ KEIN

臘腸を舌鼓しつ美味さうに  
喰ふ老爺見て怒コルバーリ(る婆相)

KOLEG'O 同僚, 學友, 同業者 同僚 KEIN

同僚の誼しみをもつて懇ろに  
忠告するコレーゴ(これぞ)身の爲めなり

KOLEGPO 中學校, 高等學校, 専門學校 中學校 KEIN

中學校高等學校専門の  
學校彼コレギーオ(是義意を)教ゆる

KOLEKTI 集む, 蒐集す, 取立つ 集む KEIN

色々と馳走集むる覺式者  
コレーケテ(これ喰ふて)と客にすゝむる

KOLER'I 怒る, 怒つてゐる 怒る KEIN

蓬髪を前後左右に振り立て  
怒るのはコレーリつ(是立)腹の症

KOLIBR'O [動] 蜂雀, 蜂鳥 蜂雀 KEIN

蜂雀最も小さきコリーブ(小離歩路)  
花の蜜吸ふ蜂の鳥かな



KOLIK'O 腹痛, [醫] 痲痛 (脚を傷) 類 (脚) OZKOK

毒茸を知らずに喰ひ腹痛を  
おこして全くコロヤユとにする

KOLIMB'O [鳥] 秋沙の類

木コリムボ山に入りてゆ網かけて  
秋沙の類を捕獲し歸る

KOLOFON'O コロファン (一種の樹脂) OZAKOM

コロファンは一種の樹脂よエス語にて  
(時) コロファンと稱呼してゐる

KOLOMB'O [鳥] 鳩, 家鳩 言葉同, 式準, 訓同 OZELIK

山鳩が椋の密樹に羽を休め  
コロムボと啼き天氣を報ず

KOLON'O (一) 圓柱, 柱, (二) 欄 (新聞などの), [印] 縦行

(三) [軍] 縦糸, 縦列  
圓柱や新聞などの欄を見て  
毛唐の行爲をコロノ (古老の) 繰り言

KOLONEL'O [軍] 陸軍大佐, 佐官 OZKELIK

聯隊長陸軍大佐の訓令に  
兵士は寝るコロ(頃)ネーロ(寝ろ)と傳達

KOLON'O 殖民, 殖民地 OZELIK

夏のコロニーオ(頃荷を)ば船に積み込んで  
殖民地へ殖民が行く

KOLOR'O 色, 彩色 OZELIK

傾城の色に迷ふて馬鹿殿が  
ころコロロと手討をぞする(千代萩参照)

KOLOS'O 巨人, 巨像 OZKELIK

夢に見た巨人を斬つてコロヤ(殺せ)と  
すれば巨像の奈良の大佛

KOLPORT'I 行商す, 賣歩く OZKELIK

重い荷を肩にかついで寒村に  
行商すればコルポールテ(凝る棒テ)となる

KOLUBR'O [動] 一種の毒蛇 OZKELIK

ハブ虫は毒蛇の一種人見れば  
忽ちおコルブロボ(怒るぶろぶろ)と尾をふる

KOLZO [植] 菜種, 油菜 OZKELIK

菜種まで霜凌を下つた嚴寒に  
閉ぢつけられてコールゾ(凍るぞ)忌々しき

KOM'O [文] コンマ OZKELIK

寸毫のコーモ(功も)立てない役員を  
コモ以下とぞエス語にて曰ふ

KOMAND'I [軍] 司令す, 指揮す OZKELIK

コマーンデ(高慢爺)總大將に選まれて  
部下を司令す軍隊を指揮す

KOMBI 櫛にてすく, 梳る OZKELIK

コムビ(公務日)に官吏出勤せんとして  
縮れたる髪を櫛にてすくなり

KOMBIN'I 組み合はす, 合同せしむ, [化] 化合せしむ OZKELIK

コムビーニ(公務日に)月給取りが登壇し  
主義者と資本家組み合はすなり



KOMEDIO 喜劇

コメディオ(米爺を)八木八木八十八と云ひ  
喜劇の中の主人公とする

KOMENCI 始む

コメンツ(古面舞)やつと手に入れ能の舞  
始むる能楽師匠の罹災

KOMENTARPI 註解す, 註釋す

コメンタリー(顧面多理意)受け納れ難き難文を  
註解するは言靈の道

KOMERC'I 商ふ, 商買す

群山はコメルツ(米入る地)の朝鮮市  
商ふものは五穀商のみ

KOMETO [天] 彗星

彗星がまた東天に現はれた  
コメート(米と)綿とが騰貴するだろう

KOMFORT'A 心地よき(衣食住にいふ), 安樂なる

コムフォルタク(金寶琉澤)山持つて心地よき  
衣食住する資本家生活

KOMIK'A 滑稽なる, おどけ, 可笑しき

何人の仕コミーカ(込みか)知らぬ滑稽なる  
事ばかり書く宮武外骨

KOMISAR'O (一) 委員(官の), (二) [軍] 主計官

綱紀をば肅正せん政府委員  
官吏社會のコミサーロ(埃浚らふ)哉

KOMISPI 委任す, [商] 代辨す, 取つぐ

正確な人格見コミス、ーイ(込み地位)與へ  
財政整理の委任するなり

KOMITAT'O 委員會, 委員, 総代(全員をいふ)

委員會委員が集りて復興の  
(見コミタード(込み立うと)評定一決

KOMIZ'O 手代, 書記, 番頭, 店員

大本の手代か書記か知らねども  
見コミーゾ(込みぞ)立ちし人の居るかな

KOMOD'O 箏箏

家のコモード(子もど)かなして嫁入りに  
桐の箏箏を買つてやりたい

KOMPANIO 會社

會社船コムパニー(金波に應)じ航海を  
無事に續けて内地に歸る

KOMPAR'I 比較す

狭霧コムバーリ(こむ巴里)の都に比較すれば  
丹波の霧は一入深し

KOMPARATIV'O [文] 比較級

秋の池コムバラデー(金波等提防)に押しよせて  
(紅葉の錦と比較級する

KOMPAS'O 羅針盤

羅針盤取り外つしたる商店の  
見(こむコムバーリ(困破羅)動は家財分散



- KOMPATI 同情す、憫れむ  
 コムパーデ(輸入)に高尾太夫が同情す  
 目黒にのこせし比翼編これ
- KOMPENSI 償ふ、補ふ、代償す、補整す  
 祖先から積りし罪を償ふは  
 コムペーションシ(困幣運衰)を信する教徒
- KOMPETENT'A 資格ある、権限を有する、適任なる、  
 優れたる  
 資格ある人を集めて究彙會  
 起さんとしてコムペテモンタ(困幣轉倒)する
- KOMPILI 編纂す、編輯す  
 コムビーリ(混否理)色々集め編纂す  
 雑誌漸く認識せらる
- KOMPLEZ'O 深切、叮嚀、懇懇  
 深切にコムプレーゾ(懇富靈像)送り來る  
 好意を謝して厚く祭らん
- KOMPLIK'I もつらす、入組ます、錯綜せしむ  
 秋の田にコムプリーキ(金風力)吹荒び  
 早稻の穂浪をもつらす暴風
- KOMPLIMENT'O 挨拶、お世辭  
 お世辭式挨拶するをエス語にて  
 コムプリメント(懇富利面頭)を稱呼するなり
- KOMPONI 組立つ、合成す、[音]作曲す  
 組立つる會社の主意は世の爲に  
 識者階級のコムポーニ(懇望に)依り

- KOMPOST'I [印] 組む(活字を)、植字す  
 天聲社員野球のまりやコムポーステ(根棒捨て)  
 一生懸命に活版を組む
- KOMPREN'I 了解す、會得す  
 親友が知己が了解するため  
 自由のコムプレーニ(婚婦禮に)廻りつ
- KOMPRES'O (外) 壓定巾  
 壓定布用ゐてコムプレーソー(婚婦禮裝)の  
 支度するかな嫁の親達
- KOMUN'A 共通の、公共の、一般の、共同の  
 共通の言語の餘り研究に  
 焦慮コムーナ(込むな)を英學者曰ふ
- KOMUNUM'PO 地方自治体、市町村  
 コムヌーモ此の言靈はエス語にて  
 地方自治體の稱呼をぞなる
- KOMUNPI [宗] 聖餐を授く  
 聖餐を授くるを云ふクリスマスに  
 コムニーイ(混入)うせんとす乞食團隊
- KOMUNIK'I 傳ふ、通す、通信す  
 コムニーキ(公務日記)詳細明瞭に書きしるし  
 子孫の末まで來歴を傳ふ
- KON'I 識つてゐる、知合である  
 學コーニ(校に)識つてゐるだけ學術を  
 究め盡した博士連中



KONCENTRI 集中す、一點に歸せしむ

何も彼も皆聖域に集中す

コンツェントリ(混痛遠土里)善きも悪きも

KONCERN'I 關す、係はる、當る

コンツェールニ(困痛遠流に)關する書典は鹿ヶ谷

平家を滅ぼす陰謀の巻

KONCERT'O 音樂會、演奏會、合奏

是だけに人が會場にコンツェールト(込んでゐるを)

音樂會も儲かるだらう

KONDAMN'I (一) 罪を宣告す (二) 用に適せずと言渡す

(三) 咎む、責む  
判官が無實の罪を宣告す

辯護もコンダームニ(此度は無に)せぬと曰ふ

KONDIĈ'O (一) 條件、要件 (二) 状態、情狀

御佛の教の條件記したる

コンディーチ(金泥帳)ぞ尊きろかも

KONDOLENC'I 弔慰す、悔みを言ふ

宗教家が震災靈魂弔慰する

コンドレーンツ(昏倒連途)死者のために

KONDUK'I (一) 導く、牽く(牛馬を) (二) 到る、通す(路

が) (三) 指導す、管理す  
生地獄導くものは慾望

コンドラーキ(此度聞)きたり神の教に

KONDUTI 行ふ、振舞ふ

バプテスマ行ふためにヤソ教に

入信したるコンドラーキ(近藤貞)二氏

KONFES'I (一) 自白す、懺悔す、(二) 信仰を告白す

コンフェーシ(困弊し)てかくし了ふせた罪狀を

司の前に鬻虎自白す

KONFID'I (一) 信用す (二) 依托す、頼む

コンフィーデ(困貧爺)なれど正直正道を

世間の人々が信用するなり

KONFIRM'I (一) 確かむ、確定す、確認す、確證す、

(二) 追認す、批准す、(三) [宗]  
正邪をば確かむるため御鎮コン(魂) 接手式を行ふ

フィールミ(晝見)に行く靈學修行場

KONFISK'I 沒收す、取上ぐ

昨是コンフースキ(今非隙)あれば財産を

沒收するを暴政家曰ふ

KONFIT'I 砂糖漬とす

うまさうな青々とした赤大コン(根)

フィーティ(曳て)風味良き砂糖漬とす

KONFORM'O 自然の形態、本來の恰好

二股の大コンフールモ(根堀るも)面白い

自然の形態大黒に供へる

KONFUZI 亂す、混亂さす、惑はす、うろたへさす、困らす

世を亂す惑はすなどを壓制して

鎮コンフーズ(魂封じ)やうとする官

KONGRES'O 大會、會議(諸國又は諸方より集る)

大會に出席せんと貴婦人が

紅白粉でコングレーソ(金具禮装)



KONJEKTI 推量す, 臆測す

推量する君の窮コンエータテ(困永苦地位)に  
僕等は聞いて心配してゐる

KONJUGACPO [文] 活用(動詞の)

湯ヶ島の温泉見れば男子女子  
コンユガツ、一オ(混濁が地位を)活用繁昌

KONJUNKCPO [文] 接続詞

禿げ老爺小言ばかりを接続詞  
こんコンユンケツ、一オ(コン言ふ口を)ねぢたい

KONKLUD'I 決定す, 結論す, 終結す

覺式で神コンクルーテ(魂狂ふ爺)の髭  
皆輕忽に決定するなり

KONKUR'I 競争す, 競合す

境内に敷くコンクレーリト入札に  
競争するなる請負工夫が

KONKURS'O 競技, 競争(懸賞などの)

競技會勝を占めんと勉強すあや  
清き心コンクールリ(魂狂ふさう)なり

KONSCPO 意識, 知覺, 本心

意識をばコンスツ、一オ(魂統地位王)をエス語云ふ  
意識は異色に國語通する

KONSCIENC'O 良心

良心は凡てのコンスツ、エーンツ(魂統地位圓頭)  
切主に却つて無きものぞかし

KONSEKVENC'A 必然の, 當然の

必然の結果はコンセクベーンツ(魂精苦難痛惡)に  
悟れば早く改心をせよ

KONSENT'I 承諾す, 同意す

注文を承諾するを電話すれど  
皆コンセーンテ(混線で)意味が通ぜぬ

KONSERV'I 保存す, 保藏す

家の寶保存する術なかりけり  
貧コンセールビー(困せるビー)ビーの身は

KONSIDER'I 考慮す, 注意す, 觀察す

考慮する價値は充分あるだらう  
コス、デーリ(昏睡底裡)の假死の重病

KONSIL'I 助言す, 勸告す, 忠告す

問題の幹コンス、一リ(根知り)辯護士や  
ト一被告に助言するは眞友

KONSIST'I 一より成る, 成立してあり

神經より成る病人のコンス、一(昏睡一)  
ステ(主治)は最早や匙を投げてゐる

KONSOLI 慰む, 慰撫す

時々遣コンリ、一リやう(根総眞)息子に先だ  
慰むべきもな親き父かな

KONSONANT'O [文] 子音, 子音字

文法の子音をエスペラントにて  
コンソナーント(根素難登)を稱呼するなり



KONSPIR'I 謀叛を企つ、一味徒黨す

信長を殺害せんとい光秀が  
コンスピーリ(困主非理)の謀叛を企つ

KONSTANT'A 不変の、不易の、恒久の

コンスタンタチノブルには昔より  
不変の政綱がある

KONSTAT'I 検証す、確證す(書面を以て)

コンスターティノブルにて洋行の  
旅客を検証するぞ五月蠅き

KONSTERN'I 仰天さす、落膽さす

高姫が自我心我コンステールニ(魂捨てるに)て  
宣傳使をば仰天さすかな(異界物語参照)

KONSTRU'I 建築す、建造す、組立つ、作る

桶伏の山に神殿建築するを  
待つて碎きしコンスト、ルーイ(困敵黨類)

KONSUM'I 消耗す、用ひ盡くす、次第に無くす

神教に一靈四コンスーミ(魂澄み)渡り  
悪悪分子の全部消耗す

KONTAKT'O 接觸

櫻島大コンタクト(根煮く)柔かく  
味よく舌の接觸もよし

KONTANT'A [商] 現金の、即時拂の

現金の儘に手に入れ高飛び  
コンタートく(魂膽企む詐欺師親玉)

KONTENT'A 満足せる、得意なる

金剛不壞寶珠を天道に戴いて  
コンテーンタ(魂轉倒)のきつい満足

KONTINENT'O [地] 大陸

大陸地そのコンテネント(根底粘土)また  
礦物はより構成されたり

KONTOR'O (一) 帖場 (二) 商館、支店 (外國に於ける)

帖場及び支店の奴が氣に喰はぬ  
俺も明日からコントーロ(來んと居ろう)か

KOTRABAS'O [音] コントラバス(一種の低音絃楽器)

コントラバリーとは一種の低音絃楽器  
コントラバスと英語曰ふなり

KONTRAKT'I 契約す

髭虎と修業に來ると契約す  
されどもコントラークテ(來んと樂で)良い

KONTRALT'O [音] 反對中音(最低女聲音)

コントラールト女の聲音反對の  
中音に於てコントラールト(魂取らる)思ふ

KONTRAPUNKT'O [音] 旋律配合法

音學の旋律配合法これを  
コントラプンクトと曰ふ

KONTRAST'O 對照

何につけ良い對照と云ふ言を  
コントラーストと英語英語いふ



KONTRAU [前] に対して、に向き合つて  
 鬘虎が月に對して打仰ぎ  
 猫撫聲でコントラウ(魂奪う)をぞする

KONTROL'I (一) 引合はす, (二) 検査す, 監督す  
 ホヤホヤの若い官吏で判らねば  
 コントローリ(今度老吏)に引合はすと云ふ

KONTURIO 外圍, 周縁, 輪廓 (二) 訓讀 (一)  
 石垣の外圍行けば危険なり  
 コントレーロ(昏倒路)を世人がいふ

KONTURZO 打撲傷, 性傷  
 自警團に〇〇人と誤認され  
 打撲傷を受けてコントーリ(昏倒)をぞする

KONUS'O (一) [幾] 圓錐 (二) [植] 蓂果  
 幾何學のコヌーリは圓錐の  
 稱呼をスペラント語に曰ふ

KONVAL'O (植) すざらん, きみかげさう  
 コンバーロきみかげさうやすざらんが  
 我行く路の左右に匂へる

KOVEN'I 適當す, 相應す, 似合ふ  
 非常時の内閣組織する材は  
 山本コンペニ(權兵衛に)適當するなり

KONVERT'I 改變せしむ (宗教, 黨派, 意見などを) 改めしむ  
 宗教や黨派の意見を根底より  
 改換せしむるコンペマルティ(權平爺)さん

KONVINK'I 納得せしむ, 説服す  
 コンビーンキ(魂敏機)圓滿活用する人は  
 如何なる邪人も納得せしむ

KOVULSPO [醫] 搐搦, 痙攣  
 痙攣を起す度毎憑依せる  
 コンブルスーオ(魂腐流水を)改善せらる

KOPEK'O コペク (露西亞の銅貨凡一錢)  
 コペーコは露西亞の銅貨凡一錢ぞ  
 露語にはこれをコペクとぞ曰ふ

KOPPI 寫す, 謄寫す, 模寫す  
 我姿レンズに寫すのみならず  
 悪評掲ぐるコピーい新聞

KOR'O (一) 心, (二) 心臓  
 タペコーロ(頃)心臓寺の鐘の聲  
 心もなき初秋の空

KORAL'O 珊瑚, [動] 珊瑚虫  
 親ミコラーノ(子等老)人までが珊瑚樹を  
 珍の寶と稱重するなり

KORAN'O コーラン (回々教經典)  
 回々の神の宣示の教典を  
 コラーノ(子等)のために買つて來る親

KORB'O 籃 [軍] 小堡籃  
 玉籃に果物多く盛り重ね  
 提げて歩けば肩がコールポー



KORD'O [音] 絃

三味線の絃が幾度も切斷し  
赤い顔して怒コールド(こる同)人

KOREKTI 訂正す, 誤を正す, 矯正す, [印] 校正す

コレクティ(是食て)泣くなと云はんばかりまで  
訂正するミエライ御厄介

KORESPOND'I 書信を往復す, 交通す

知己朋友書信を往復する様を  
コレスポーディエス語曰ふなり

KORIDOR'O [建] 廊下, 行廊

コンクリート固め締たる土廊下  
コリドーロ(凝り道路)の氣持良きかな

KORK'O コルク, コルク栓

怒コールコ(兒)をなだめんとして湮没水の  
コルクを抜いて機嫌を乳母

KORN'O (一) 角, (二) [音] 喇叭の類

角張つた肩聳かし赤面が  
無暗に怒コールノ(こるの)芝居可笑し

KORNE'O [解] 角膜(眼の)

肩のコルネーオ(疑る姉を)遙々訪ひ見れば  
角膜炎を病んで寝てゐる

KORNET'O [音] コルネット(喇叭の類)

コルネット喇叭の類をコルネートと曰ふ  
英西普埃蘭等語稱呼するなり

KORNICO [建] 軒蛇腹

軒蛇腹着けて造りし人の家は  
雨風起コルニーツく(こるに強く)耐ゆる

KORNIK'O (鳥) 小鶉

是程の肩がコルニーコ(こるに小)鶉が  
氣分の悪いガアガアと啼く

KORP'O 體, 身体, 物体, 實體

流体の水も物体の一つなり  
寒風荒びコールホ(氷る棒)柱

KORPORACPO 會社, 法人, 社團

法人や會社を英西普埃蘭等語に  
コルポラツィーオと稱呼するなり

KORPUS'O [軍] 軍團

暴動が起コルプーリ(こる物騒)な世となりて  
軍團の動員命令

KORSAR'O (一) 搶掠船(敵の商船を捕獲する)

(二) 往時の海賊  
搶掠船敵の軍器や貨物また  
軍夫までをもコルサーロと曰ふ

KORSET'O コルセット(鯨骨なきにて張りたる婦人の胸衣)

鯨骨で張りたる婦人の胸衣コルセット  
之をエス語にコルセートと曰ふ

KORT'O 庭, (壁, 建物に圍まれたる空地)

壁または建築物に圍まれた  
空地の庭に肩コールト遊ぶ



KORVO 鴉, わたり鴉

コールボと鳴くは鼻かミミヅか  
ふの種( )眼( )思ひ初めち鴉なりけり

KORVEFO [海] コルベット型軍艦

コルベット型軍艦之をエス語にて  
コルベトと稱呼するなり

KOSTI 價す, 價を要す, 費用を要す

金剛石以上に價す寶玉  
如意の寶珠をコーステ(買ふ主亭)哉

KOSTUMFO 衣裳, 服装, 服式

花魁の衣裳は令嬢にコストモ(越すも)  
矢張りどこかに品格はなし

KOTO 泥, 泥濘

太古には泥と流れし濁水も  
今はコート(礫土)と固まりしなり

KOTIZI (割前を拂ふ, 醸出す)

割前を拂ふ懇親會に行く  
古い頭のコテーズ(固定爺)翁

KOTLEFO (カツレツ)

精肉を油で揚げたコトレート  
英語は是をカツレツと云ふ

KOTONO 綿(木綿, 綿花)

コトノ(殊の)外肌暖かき木綿服  
綿入れなれば殊更に良し

KOTURNFO [鳥] 鶉

鶉をば飼ふ家問へば其家  
コトールノ(答ふ農)夫顔色も良し

KOVI 巢につく (卵を孵すため)

コービ(交尾)して鶏卵を孵さん  
餌をば喰い飽き巢につくなり

KOVERTFO 封筒, 状袋,

封筒がコペルト(肥る)郵便切手まで  
金を澤山出さじやなるまい

KOVRTI 覆ふ, 被せる, 蓋す, 遮蔽す

大空を覆ふ黒雲の間より  
水分の露コーブリ(小降り)するかな

KOZAKFO コザック人, コザック兵

コザーコざと數多の雜兵横行  
暴威を揮ふコザック人兵

KRABFO [動] 蟹

蟹が行く横さの道を歩み行く  
奴をなまクラーボと曰ふなり

KRACFI 痰唾を吐く, ベツと吐き出す (口中の物を)

クラーチ(暗地)なれば人にかかぬか判らない  
無性矢鱈に痰唾を吐くな

KRADFO (一) 格子 (二) [機] 火床, 火網

光線の流通あしきクラード(暗戸)を  
取除け明き格子戸にする



KRAJON'O 鉛筆

鉛筆は時代遅れとなりけり  
 狩クラヨーノ(場川の)山日記に用ゆ

KRAK'I バチバチと音す

クラキ(暗き)夜にバチバチと音す怪しさに  
 怪しみ見れば室内の火事

KRAKEN'O 薄ビスケット

神業になまクラケーノ(生倉系)の連中が  
 人目忍んで薄ビスケット喰ふ

KRAMP'O (一) [工] 鋸, 變形木, (二) 括弧, (三) [植] 攀縁根

鋸の役を勤むる愛の兒に  
 さクرائمポーを買つて與ふる

KRAN'O 嘴管, 龍頭, 栓口

嘴管が二股クラーノ或點に  
 夜中となれば出沒するなり

KRAN'O [解] 頭蓋骨

生蠻が首狩りなして首祭り  
 頭蓋骨をばクラニーオ(倉にお)さめる

KRATAG'O [植] 山楂(山査子)

野山路の山査子の果を喜んで  
 採りクラターゴ(食つた兒)味よしと曰ふ

KRATER'O [地] 噴火口, 噴泉口

噴火口噴泉口は大地球  
 クラテロー(藏底路)より水火吹くなり

KRAVAT'O ネクタイ, 襟飾,

いクラバートしても是非なしネクタイは  
 皆洋服に必要なりせば

KRE'I 創造す, 創作す

書店から書いてクレイ(呉れ)の督促に  
 この世創造する神話を創作す

KRED'I 信す

ぎれ程に忠告しても入木連中  
 聞いてクレーヂ(呉れで)信するを得ず

KREDIT'O [商] (一) 信用貸, 掛, (二) 貸方(帳簿の), 信用(取引上の)

信用貸してクレーイト(呉れで)商人が  
 銀行頭取を恨む此頃

KREM'O クリーム

クリームを買つて子供に與ふれば  
 又買つてクレーモ(呉れも)一つ欲しいと云ふ

KREN'O [植] わさび

伊豆の國赤城山下のわさびをば  
 年のクレーノ(暮れの)贈り物とす

KREP'O クレブ(薄き縮みにして喪章なきに用ゆるもの)

クレーボ—薄き縮みの布片にて  
 喪章を送る今日ぞ悲しき

KREPUSK'O 薄明(拂曉又は黄昏の)

黄昏れて日をクレブ—スコし(暮れ少し)薄く  
 明くて拂曉の知くなりけり



KRESK'I (一) 生ず (二) 成長す

クレスキ(暮過ぎ)生ずるかさを怪しまる  
燈火に集まる火取虫族

KREST'O 鳥冠てがみ, 冠毛

冠毛を少しクレスト(呉れ)依頼すれば  
周章で鳥冠を僕持て来る

KRET'O 白墨〔鏡〕白至

白墨を買つてクレート教員が  
学校長に注文をする

KREVI 破裂す, はぢける, 割れる

髭虎と三五教の幹部が  
今日クレービ(暮日)談判破裂す

KRPI 叫ぶ

暗の夜に臆病者が芽の穂を  
見てはびつクレーイ幽霊と叫ぶ

KRIBR'I 篩ふ

丸山で拾ふた芝クレーブリ(栗ぶり)ぶりと  
選り分くるため土を篩ふ

KRIMO 罪, 犯罪, 罪惡

本堂もクリーモ(庫裏も)坊主借金の  
低當に入れて罪に間はる

KRIMAL'A [法] 刑事の, 犯罪の

刑事の眼さクリミナーラ(探り見ながら)犯罪の  
證據をらんを變装して居る

KRING'O ビスケットの一種

ビスケットの一種類似の食物を  
ビスケットはクリーンゴと曰ふ

KRIPL'A 不具なる

眼の玉はクリーブラブラ手も足も  
不具なる御子と蛭子生る

KRISP'O (一) 丸襪 (十五六世紀頃用ひたる)

(二) [解] 腸間膜 (俗稱) (三) 縮れ  
十五六世紀の頃に用ひたる  
丸襪をクリースボと曰ふ

KRISTO 基督

基督をクライストまたハリストス  
キエス語は是をクリーストと云ふ

KRISTAL'A (一) 結晶, 結晶體 (二) 水晶, 上等の無色玻璃

クリスターラ(固石數多羅)列せる山中に  
混りて結晶水晶包まれ

KRITIK'I 批評す, 批判す

龜山へクリテーキ(九里地域)なり直径なれば  
御神示を批評する價値更になかろう

KRIZ'O (一) [醫] 分利 (病勢の急變), (二) 危機, 急場

病勢の急變分利危機と曰ふ  
醫者の診定にびつクレーリする

KROC'I 鈎にかける, ひつかける

伊根を鈎にかけるとポトポトと  
クローチ(黒血)が庭に落ち溜るなり



KROKODIL'O [動] 鱷魚

甲冑を身に纏ひたる大鱷魚を  
ムロコデーロ(苦勞甲治郎)と人稱するなり

KROM [前] の外, 以外, のみならず

殊の外クロム(空論)のみ吐くのみならず  
大覺識と大法螺を吐く

KRON'O (一) 冠, 主冠 (二) 花冠, かざし (三) [建] 冠頂(高隆の)

冠をいたゞく前の出生こそは  
日夜クローフ(苦勞の)罷なるべし

KRONIK'O (一) 年代記, 記録 (二) 時事, 雜報(新聞雜誌)

クロニーコミは年代記時事雜報  
などを現はすエム語なりけり

KROPO [動] 飢饉

飢饉の何時も空虚を訴ゆる  
就職口なきクローホー(苦勞坊)あはれ

KROZI [海] 海上を巡邏す, 遊戈す

クローズ(苦勞侍醫)頭髮霜を戴いて  
御國のために海上を巡邏す

KRU'O (一) 十字架 (二) 十字章, 十字形

十字架にエスと諸共釘付られし  
盗人罵言して心クルーツ, 狂ふとる

KRUCIFIKS'O 耶蘇磔像, 十字架像

クルツィフークリ(苦血異不意苦骨)耶蘇磔像を指していふ  
罪の御子をば救ふ神の子

KRU'O 土瓶

土瓶にて酒をばかんし休日に  
酔ひつづればは無理にクルーチ(狂ふちよ)る

KRUD'A (一) 生々の, 未製の, あらの, (二) 生硬なる, 粗野なる

生の芋そのまま噛ぢる野良男  
粗野なる行爲氣がクルーダ(狂うた)のか

KRUEL'A 殘酷なる, 兇猛なる

殘酷なる壓迫がクルエーラ(來る)と豪(豪)そうに  
云つて野望を企む野虎

KRUP'O [醫] 格魯布, 格魯布性喉頭炎

格魯布にて死んだ檀家へ和尚が  
籠鼻がせて急ぎクルーホ(來る坊)さん

KRUR'O 脛, 脚

山道に倒けて脛をば擦傷し  
足のクルーロ(くるぶし)を外づし苦しむ

KRUST'O 硬皮, 外殼, [醫] 皮膚癬

庭園の樹木の外殼硬皮をば  
かんで脱クルースト(くる敷頭)の狂犬

KRUTA 險しき, 急なる

山奥の險しき坂道踏み外づし  
倒けた途端に腰がクルータ

KUB'O [幾] 立方體, 正六面體 (二) [數] 立方, 三乘 (三) 孩子

洋館の室は何れも立方體  
その一室にクローホ(空房)生活す



KUBUTO 肘 腕土 KUBUTO

鬚虎が三五教に襲来し日社に入らぬ所アコ腕土  
 ぶ(ふさふ)肘を張りつゝ一分ニクブート(九角ニ)を争ふ

KUDRI 竈(二) ①さあ、②煙末、③主(一) KUDRI

大空を縫ふて飛び行くクードリ(空鳥)のさ幸の主  
 せ(せ)姿過を小さくなりぬ

KUF'O 頭巾 ぶ(ふ)頭巾、ぶ(ふ)頭巾 KUF'O

クーフ(空砲)の音に驚き逃げ出だす  
 隠居頭巾を落して走る

KUGL'O 弾丸 英(英)弾丸、英(英)弾丸 KUGL'O

敵軍の打出す弾丸クーグロ(くぐろ)ニ  
 味方の兵士這ひつゝ進む

KUR'I 煮る、料理す 煮(煮)料理(煮) KUR'I

板場男多クイーリ(く入り)来て飯を煮る  
 祝宴のため鯛を料理す

KUK'O 菓子(焙きたる) 菓子(焙)菓子(焙) KUK'O

芳ばしく焙きたる菓子を喜んで  
 クーコ(食ふ兒)は常に胃の病あり

KUKOLO [鳥] 郭公鳥 ぶ(ふ)郭公鳥、ぶ(ふ)郭公鳥 KUKOLO

菖蒲咲クコーロ(く頃)になれば郭公鳥  
 彼方此方の森に来て啼く

KUKUMPO [植] 胡瓜 (二) 胡瓜(二)、胡瓜(二) KUKUMPO

夏の夜半人の島に飛び込んで  
 胡瓜取りクターモ(食ふ雲)助人間

KUKURB'O [植] 南瓜 南瓜(植) KUKURB'O

南瓜をば保育するため柵に細  
 かけてはククールボ(くくる坊)主鉢巻

KUL'O [動] 蚊属、蚋 蚊(動) KUL'O

黄昏て四邊がクーロ(暗う)なりし時  
 我物がほに蚊属襲い來

KULER'O 匙 匙(匙) KULER'O

匙加減調べてクレーロ(呉れろ)ニドクトルが  
 代診生に注意與ふる

KULP'A 罪ある、過失ある 罪(罪) KULP'A

送りクールばん太の親爺繩就けて  
 罪ある人を糺問するなり

KULT'O 崇拜、祭祀、禮拜 神(神) KULT'O

神々の祭祀なしある靈山を  
 崇拜のためクールト(くるり)巡ぐる

KULTURI (一) 耕作す (二) 培養す、養成す、(三) 教化す、教育す KULTURI

節のクルト、ーリ(來る通り)百姓耕作す  
 教師は時世を知つて教化す

KUN [前] ニ、を以て、の附いた 附(附) KUN

クン(君)ニ云ふ稱呼の附いた人々は  
 輕蔑を以て迎へられてる

KUNIKL'O [動] 家兔 家兔(動) KUNIKL'O

家兔平素に伺ひ置き祝日に  
 代價も出さずクニークロ(樂に食う)てる



KUP'O (一) [醫] 吸角<sup>キョウ</sup>, (二) (動) 吸盤

吸角<sup>キョウ</sup>醫者が患部に使用する  
音はクーボ<sup>クウボ</sup>クーボ<sup>クウボ</sup>に響きぬ

KUPE'O 車室, 仕切 (列車の)

西伯利亞の汽車の車室は満員で  
コザツク<sup>コサツク</sup>ペーオ<sup>ペーオ</sup> (コサツク兵を) 載せて居るなり

KUPOL'O (一) [建] 圓頂 (二) [軍] 砲塔

建物の圓頂もろクポーロ<sup>クポーロ</sup>ポーロ<sup>ポーロ</sup>  
碎け落ちたり地震の災に

KUPON'O 利札, 券, 切取切符

利札<sup>リサ</sup>また借用券に攻められて  
會計主任クポーノ<sup>クポーノ</sup> (苦謀の) 態なり

KUPR'O 銅

竹の葉を焚クーブ<sup>クーブ</sup>ロ<sup>ロ</sup> (く風呂) の大釜は  
銅もて造る事は禁物

KURI 走る

下り坂は馬も元氣が恢復し  
一時間にクーリ<sup>クーリ</sup> (九里) を走る

KURAC'I 治療す

治療<sup>リョウリョウ</sup>する金さへも無き苦しきよ  
貧乏クラーツ<sup>クラーツ</sup> (暮し) の我々の家

KURAG'A 勇氣ある

優柔で用人何れも生クラーチ<sup>クラーチ</sup>  
チト勇氣ある者と代へたい

KURATOR'O 後見人, 保佐人, 財産管理人, (未成年者なきの)

親族が幾クラート<sup>クラート</sup>ーロ<sup>ーロ</sup> (ら取らう) と企むとも  
後見人がビク<sup>ビク</sup>ともさせぬ

KURB'A 曲れる

心より曲れる人を神の道は  
皆精靈のクールバ<sup>クールバ</sup> (狂ふ婆) と曰ふ

KURIER'O 急使, 飛脚

急使<sup>キウシ</sup>をば遣はしたれど歸らない  
クリエーロ<sup>クリエーロ</sup> (九里永路) の徒歩是非もなし

KURIOZA 珍らしき, 面白き

珍らしきクリオ<sup>クリオ</sup>ーザ<sup>ーザ</sup>メンホフ<sup>メンホフ</sup> (栗をザメンホフ) 博士の  
靈に供へて拜謝するなり

KURS'O 講習, 講義, 教授, 課程

講習<sup>キョウシ</sup>に皆クールソ<sup>クールソ</sup>ー (來る相) 談始めてる  
エスペラント語覺悟んすため

KURSIV'A 草書体の, 走り書きの

草書<sup>ソウショ</sup>体の揮毫を支那人頼まれて  
クルス<sup>クルス</sup>ーバ<sup>ーバ</sup> (苦しい場) 面ごまごついて居る

KURTEN'O 幕, 窓掛, 帳

窓掛<sup>マダカ</sup>や幕<sup>マク</sup>なき盗みにクルテ<sup>クルテ</sup>ーノ<sup>ーノ</sup> (來る低能)  
狐鼠盜人は人間の屑

KUSEN'O 蒲團 (椅子なきの), 座蒲團

椅子<sup>イシ</sup>なきの蒲團<sup>フダン</sup>をかぢるクセ<sup>クセ</sup>ーノ<sup>ーノ</sup> (癖の) ある  
この狂犬を撲殺したい



KUS'I 横はつてゐる, 臥てゐる

頭髮のもつれをさばくクーシ(櫛)こそは  
婦人の頭に横はつてゐる

KUTIMPO 習慣, 常習, 慣例,

麦飯をクティーモ(食ふても)元氣おとろへぬ  
小供時代の習慣なれば

KUV'O 甕, 大桶

大桶や甕にクーホみ(窪み)無き時は  
水容器にはとてもならない

KUZ'O 従兄弟

従兄弟瓜を二つに割りし如く一たけもささ  
きこから見ても良クーゾ(くぞ)似て居る

KVADRATO 〔幾〕正方形, 〔數〕平方, 自乗

幾何學の正方形をエス語にて  
クバド、ラートと稱呼するなり

KVALITO 性質, 品質, 良否, 品等

性質の悪い人間品質の悪い品物  
世にはクバリート(九分ありと)云ふ

KVANKAM 〔接〕と雖も, …すれども

欺さんとすれども富樫承知せぬ  
我主と雖もなぐるクバーンカム(苦番關)

KVANTO 量, 分量, 額

商品の量また額を調べおク  
バート(番頭)氣の利いた奴

KVAR 〔數〕四

四方八方に心をクバル(配る)斥候兵  
敵の様子を探知せんため

KVARANTEN'O 停船 (流行病地より來れる船をして陸に

流行病地より來れる船舶の交通せしめざる事又  
其期間), 交通遮断  
交通絶つをクバランテーノと曰ふ

KVARCO 〔鑛〕石英

八雲立つ出雲の國の鑛山は  
石英鑛がクパールツ(九分あると)曰ふ

KVARTO 〔音〕第四度音程

言靈を放ちクバールト(配ると)山川も  
忽ちなびく第四度音程

KVARTALO 區, (都市の)

傳染病流行豫防の注意書  
區長名義でクバルターロ(配るだらう)

KVAZAU 〔接〕恰も, …の如く, さながら

さながらに嵐のあとの如くなり  
荒れたる状は恰もクバーザウ(工場雜有)

KVERK'O 〔植〕榲屬, 榲

釜の下木の葉をクベールコ(くべる小)使を  
危ぶみ榲の割木あたへる

KVIETA 静かなる, 落着ける, 温しき

生蠻がクビエータ(首獲た)と落着ける  
その行動の静かなるかな



KVIN [數] 五

五大洲難クビン(苦貧)乏に悩むもの  
人類中の多数なりけり

KVINTO [音] 第五度音程

クビントは第五度音程なりと曰ふ  
この聲音はエスペラント語

KVINTESENCO 眞髓, 精髄, 至精

眞髓をクビンテセーンツ、エス語曰ふ  
記憶便法の歌にやならない

KVITA 免除せられたる, 自由なる, 義務を果せる,  
犯罪を免除されたる自由なる 拂ひたる, 負ふ所なき  
人は漸くクビータすかる(首助かる)

KVITANCO 領收證

組合の領收證の契書に  
責任ある人のクビターンツ(首たん)並ぶ  
(首澤山は人名名數の意)

## L

L' 冠詞LAの省略

留守のルはエス語冠詞の省略ぞ  
省略すれば皆ルすに成る

LA [冠詞] 既定の事物を表はす名詞の前に用ふる語

ラ云へば既定の事物を表示する  
名詞の前に用ゆる冠詞ぞ

LABIRINTO (一) 迷宮, (二) [解] 内耳

こわごわに窺ひ見れば其處此處ラ(ら)  
・ ビリント怪し音する迷宮

LABORI 働く, 勤む

小息子も親の命令よく守り  
穴ぐラボーリ(倉堀り)に夜も働く

LACA 疲れたる, 倦みたる

疲れたる身を運びつゝ働いて  
歸れば戀留守はラーツ、つ(腹立つ)なり

LACERTO [動] 蜥蜴

石を以て尾をちぎラツェルト直ぐ切れて  
又生ゑるなり蜥蜴の尻尾

LACO 紐, 打紐, 組紐

外出の時にラーチ(埒良ふ)と平素から  
羽織に紐を着けておくなり

LADO [一] ブリキ, (二) 薄板 (主に金属の)

くラード(倉戸)をば鼠がかぢる用心に  
ブリキの板を張り詰めておく

LAF'O 熔岩, ラバ

櫻島爆發なして熔岩の  
降らばゑラーフ、柱(ゑらい火柱)の立つ

LAG'O 湖

いぶかしや葦の湖中に海魚なる  
はらラーゴに似た魚が住むは



LAK'O 漆

山林の木樵の業にはたラーコミ  
すれば漆にまけて往生

LAKE'O 従僕, 家來

かはラーケオ(土器を)割つた割らぬミ従僕が  
下婢の噂をひそびそとする

LAKS'O [醫] 下痢

腹の中がらがらがラークリしほる  
下痢の病の甚き苦しき

LAKTO 乳汁, 牛乳

乳牛の乳汁多く搾らんミ  
餅米喰はせば樂ラークト出る

LAM'A 跛<sup>び</sup>の

山道を杖つきながらピョコピョコミ  
跛のラーマ一僧が行くかな

LAMP'O ランプ, 燈

ランプをばエスぺラントはラームポーミ  
稱呼するなり名詞に尾をつけ

LAMPIR'O [昆] 螢屬, 土螢

ラムビーロ(ランプ)明き燈火に夜中飛ぶ  
螢の光薄くなりぬる

LAN'O 柔毛(主に羊の)

羊ラーノ柔毛苳りて暖かき  
肌さわり良き織物ミなす

LANC'O 槍

竹槍をたづさへ自警團員が  
自ら戰ラーンツ(亂争)闘をする

LAND'O 國土

神の坐す清き國土も戦ひの  
治まらぬ間はラード(亂土)なりけり

LANG'O 舌

鬼も魔も舌より出づる者なれば  
暴言ラーンゴ(亂語)を人は慎しめ

LANTERN'O 提灯, カンテラ, 燈

カンテラや提灯の火は何處までも  
燦ラン(爛)テールノ(照るの)電燈に及ばず

LANUG'O 幼毛<sup>が</sup>, 綿毛, 柔毛, 薄髭

幼毛をば剃るミ一生不運なりミ  
約ラヌーゴ(誤)解をしてる迷信

LARD'O 獸脂(主に豚の)

マンテーカ獸脂を以て色々の  
膏藥造ラールド(何)處も彼處も

LARG'A 廣き

慾望に吾は驅ラールヂ無けれども  
少しは廣き邸宅が欲し

LARIK'O [植] 落葉松<sup>ま</sup>

落葉松も冬の寒さに當てられて  
さつぱりかラリーコンミ葉が散る



LARING'O [解] 喉頭

走りつつ食たラリンゴ(林檎)が喉頭に  
詰りてしばし途に倒れぬ

LARMO 涙

心から涙しほラールモノぞかし  
震災跡の惨状ながめて

LARVO (昆) 幼蟲, 仔蟲

蜜蜂が幼蟲または蜜蜂を  
取ラールボ(防)禦に人を刺すなり

LAS'I (一) 差し置く, 放す, 遺す (二) 去る, 離る (己の後に

遺す) (三) 任す, 許す  
去る者は追はず自然に任すにて  
何も言はずに差し置くラースィ(らしい)

LAST'A 最後の, 最近の

最近の彼の不禮を捨ておかば  
最後の吾のつラースタ(面スタ)るなり

LATUN'O 真鍮, 黄銅

かラトノ(唐戸)中に納めた真鍮の  
● 燭台取り出し祝宴を張る

LAU [前] によれば, に依りて, に従つて

事によれば三五教をこほちたる  
邪神はラウ(半)に這入る代物

LAUB'O 小亭 (葛, 葡萄, 藤なきを這はせたる), 四阿

葛葡萄藤なき這ふた小亭を  
煙の細いラーウボ(羅宇房)を曰ふ

LAUD'I 賞讃す, 譽む

藤かづらからみ付いたる風流な  
ラーウディ(羅宇亭)を客が賞讃するなり

LAUR'O [植] 月桂樹

芳ばしく四邊に匂ふ月桂樹  
かほりの下に兒ラーウロ付く

LAUTA 聲高き, 大聲の

聲高き唱歌を兒童ラーウタひつつ  
汽車の遠足旅行するなり

LAV'I 洗ふ, 洗濯す

石鹸や洗い粉もちて顔洗ふ  
彼女の女は誰にラービ(戀)初めしぞ

LAVANG'O 雪崩

貞操も雪崩の如く碎け行く  
寝屋淋しさのラバーンゴ(戀ア後)家かな

LAVEND'O [植] ラワンデル (唇形科)

唇形科植物屬のラワンデルを  
ラベンドーをエス語にて曰ふ

LAZUR'A 空色の, 瑠璃色の

諸星ラズラーり並んできらきらと  
光る空色の美はしきかな

LECION'O 課業, 教課, 講義

文官の試験に登第せんもの  
いレツォーノ子(焦ち男の子)の課業勉強



LED'O 鞣皮<sup>シヤ</sup>

レード(零度)以下寒き西比利亞旅行には  
鞣皮の靴貴重なりけり

LEGI 讀む

禮記<sup>レキ</sup>讀む儒者はレーギ(禮儀)を知るものぞ  
思ふに反し不作法ものあり

LEGEND'O 昔噺, 傳説

傳説や昔噺は面白し  
さはあレゲーン(限度)を守りてぞ讀め

LEG'O (一) 古羅馬の軍隊, (二) 軍隊, 軍勢

古の羅馬の國の軍隊は  
晴レギーオ(着を)着け戰陣に臨む

LEGOM'O 野菜

野菜をば副食物に用ふれば  
その身の疲レゴモ(れ毫も)感ぜず

LEG'O 法律, 法則

レーヂ(令狀)を持たず家宅の搜索を  
なさんとするは法律違反

LEK'I 舐める

水晶の眞偽鑑定はレーキ(冷氣)の有無  
舐める舌にてよく判るなり

LEKANT'O [植] 大延命菊

匂ひ良き大延命菊の生産は  
是レカーント(關東)の野に生うるなり

LEKSIKON'O 辭典

レクスィコーノ(歴史考の)辭典買はん<sup>たづ</sup>ぬれば  
人名辭書を教へられたり

LENT'O [植] 扁豆

扁豆の様に頭部が張レントし  
診察すれば扁豆腺炎

LENTUG'O 雀斑<sup>シヤ</sup>, 痣<sup>シヤ</sup>

雀斑や痣の醜容免レント(免れん<sup>シ</sup>)  
ゴ岳(五岳)の阿蘇に妙薬探る

LEON'O [動] 獅子

レオーノ一猛るが如く瑞月が  
人類愛の獅子吼するかな

LEONTOD'O [植] 蒲公英<sup>シヤ</sup>

春の野に匂ふ蒲公英星すみレ  
オントード(温土道)路の兩側に咲く

LEOPARD'O [動] 豹

もろこしの野に住む猛獸豹の名を  
レオバルド(エス語)にて呼ぶ

LEPOR'O [動] 兎, 野兎

野兎が獵狗に追はレポーロポロ  
糞放りながら山を逃げ行く

LEPR'O [醫] 癩病

癩病のために棄てらレプロ(浮浪)して  
四國西國巡禮をする



LERNI 學ぶ

學校に學ぶ小兒の柔順さ  
レールニ汽車の走る様なり

LERTA 上手なる, 巧なる

よく賣レールタク山賣れる上手なる  
細工は羽が生えて飛ぶなり

LESIVO 灰汁

木炭を搾りて出でし灰汁こそは  
洗濯に良きレスィーボ(泥水泡)なり

LETARGIO [醫] 假死, 昏睡

倒レタルギーオ(義意を)稱して假死と云ふ  
人事不省の昏睡状態

LETERO 手紙

草枕旅の安否を報さんど  
我家の妻にレテロー(手紙)出す

LEUTENANTO 陸軍中尉, 海軍大尉

陸中尉海軍大尉はエス語にて  
レウテナントと共に曰ふなり

LEVI (一) 高む, (二) 起す

心性のレービ(麗美)な人は品高む  
慈善事業を頻りに起す

LEVKOJO [植] 紫羅欄

嵯峨の興禪寺の支レブ(寮)コーヨ(紅葉)して  
紫羅欄の花は散り行く

LI [代] 彼, 彼の男

彼は常にリ(利)のみに走る人なれば  
人情なごは容易に解せず

LIANO 葛(藤, 葛の如き)

藤葛軒にからまりアーノ家は  
青葉の節を變りて見ゆる

LIBELO [昆] 蜻蛉

低空を左右に巡リペーロペロと  
羽動かして蜻蛉たつなり

LIBER'A (一) 自由なる, (二) 閑散なる

自由なる主義を述べんとて演壇に  
登リペーラペラ囀ぐる辯士

LIBRO 書籍, 帳簿

文明の世に遅れじと老人が  
眼鏡を力にリープロ(書籍)を読む

LICE'O 中學校

現代の中學校はおしなべて  
リツェーオ(理性を)第一教授するなり

LIEN'O [解] 脾

脾の弱い人はリエーノ(利營の)職業に  
従事することとても出来ない

LIG'I 結ぶ, 結びつける, 結合す

明白なりーギ(理義)の下に學生が  
集まり結ぶ學術研究会



LIGNO 木材, 薪

薪苧<sup>リ</sup>グノ(具の)鎌や斧では手に合はぬ  
木材伐るは鋸の役

LIKENO (一) [植] 地衣, (二) [醫] 苔蘚

地衣茂る庭の面見ればまのあたり  
ヶノ(景の)趣き一入ゆかしき

LIKVIDI [商] 決算す

商會社収入決算する時は  
權<sup>リ</sup>クビ<sup>ー</sup>デ(利首で)大体定める

LIKVORO リキュール酒

リキュール酒之をばエスペラントにて  
リクボ<sup>ー</sup>ロ<sup>ー</sup>と稱呼するなり

LILFO [植] 百合

リ<sup>リ</sup>オ(輪々を)百の數々組合せ  
土に育ちし百合根美味なり

LIMO 境界, 限界, 限度

境界を定めるより<sup>モ</sup>限度をば  
きめて掛れば爭論はなし

LIMAKO [動] なめくじ屬

なめくじを暗夜に踏んで足滑り  
マ<sup>ー</sup>コ<sup>ー</sup>にほんどに吃驚をした

LIMONADO レモナーデ, ラムネ

レモナーデラムネの類をエス語にて  
リ<sup>モ</sup>ナ<sup>ー</sup>ド<sup>ー</sup>と稱呼するなり

LINO [植] 亞麻

緩下劑健胃劑とは聞きつれど  
亞麻<sup>リ</sup>ノ(餘りの)苦しさ吐出して見る

LINGVO 言語, 國語

リ<sup>ン</sup>グボこの言靈は言語をば  
稱呼なしたるエス語なりけり

LINO 線, 野, 行(字の), 列, 線路, 航路 [軍] 横隊

山門に節くれ立つたり氣張つたり  
ニ<sup>ー</sup>オ(仁王)が額に線を張らして

LINKO [動] 大野猫

山猿の様に樹の枝にぶ<sup>リ</sup>ン<sup>コ</sup>ー<sup>ー</sup>  
下がつて遊ぶ大野猫かな

LIPPO 唇

唇が緋<sup>リ</sup>ポー<sup>ー</sup>んぼん云はぬ人  
氣品の高く見ゆるものなり

LIR'O (一) 古代の七絃琴, 詩の記號, (二) 伊太利の銀貨(約四十錢)

古の七絃琴や伊太利の  
銀四十錢貨<sup>リ</sup>ロー<sup>ー</sup>と云ふ

LIRIK'A 抒情的の, 抒情詩の

抒情的の歌詩を作つて現代を  
詠ふ詩人を<sup>リ</sup>リ<sup>ー</sup>カ(理離家)と云ふ

LISTO 目錄, 表, 名簿

キ<sup>リ</sup>ーストの信者名簿と信條の  
目錄教師の便りなりけり



LIT'O 寢床, 寢台

しつほりて寝床に身をば横たへて  
来るべき世の有様おもふ

LITANPO [宗] 連禱, 長談議

ひみりたニーオとさす(一人だに遺さず)漏さず大前に  
連禱するなり秋季大祭

LITER'O 文字

月日よりテロ(照ろう)とばかり思ふかな  
思想を明かすは文字の功用

LITERATUR'O 文學

文學を學べば照リテラト、ロ(照ら燈籠)  
御魂の暗を晴らす光明

LITOGRAF'O 石版印刷

リトグラホ(理透具良法)事實をいとも鮮明に  
世間に示す石版印刷

LITURGPO [宗] 禮拜式, 祈禱文式

リトルギーオ(理徹琉義位王)國祖の神の大前に  
禮拜式を行ふ教徒等

LIUTO'O [音] マンドリンに似たる古樂器

りうーリウト美はしき音聞こゆなり  
マンドリンに似た古代の樂器

LIVER'I 供給す, 支給す

泣く兒等に白紙を供給する時は  
直ぐペリペーリと破つて了ふ

LIVRE'O 揃の服, 一定の服(給仕・僕卒などの), 仕着せ

一同の揃の服は木綿なれど  
餘リブレオ(無禮を)咎めて呉れな

LOD'O 半オンス

ロードエキス(藥名)半オンス程買つて來い  
染物用に必要だから

LOG'I 誘惑す, 誘ふ, 氣を引く

野良息子うまく誘惑するローギ(老妓)  
金さへ見せりや咽鳴らすなり

LOGIK'O 論理學

論理學朝な夕なに勉強して  
雄辯會員ロギーコー(論義意考)究す

LOG'I 住む

貧乏して祖先の家を賣飛ばし  
市中に出でてローチに住むなり

LOGPO 棧敷, 桝(劇場の)

劇場の棧敷を前に買つておく  
家のロチーオ(老爺を)見物さすため

LOJAL'A 忠義なる

忠義なる誠の人は苦ロ(勞)ヤーラ  
諸の誓りの來るものなり

LOJTO'O [魚] 一種の川魚(鱈科)

ローイトは一種の川魚鱈科なり  
清き川瀬を上りつ下りつ



LOK'O 場所, 處, 地方

ローコ(牢固)たる地方に地盤を造らん  
候補者場所を定めてぞ住む

LOKOMOBIL'O [機] ロコモビル(汽罐と汽機を一所にして機關車の如く作りたる小形の蒸汽機關)  
汽機汽罐一つになして造りたる  
蒸汽機關をロコモビーロと云ふ

LOKOMOTIV'O 機關車

ロコモティーボ(老侯も地方)巡遊せんとして  
機關車に乗り旅行せらるる

LOLO'O [植] ロリウム, むぎなでしこ

ロリウムはむぎ撫子の英稱なり  
ローロー(浪々)の身の人に似し哉

LONG'A 長き

小田原の評定會に下らない  
長きローンガ(論が)果し無き哉

LONICER'O [植] 忍冬

忍冬葉はいろいロニツェーロ(散らう)とも  
幹にからみて春を待つなり

LORN'O 望遠鏡

望遠鏡かけて海上見渡せば  
ミロールノ船沖に浮べる

LOT'I 抽籤す, 抽籤により分配す

支那地方ローテ(露地)方へ行商の  
抽籤すなり行商會社員

LOTERIO 富籤, 無籤

或る家のひろテリーオ(廣ろ庭裏を)開放し  
こまこまの物も富籤會の開催をする

LUI 賃借す

親ルーイ(類)の建物賃借する時は  
他に一割の安價とぞなる

LUDI 遊ぶ, 弄ぶ, 演ず, 奏す

音曲を奏す劇をばよく演ず  
祭りがあルーデ子供と遊ぶ

LUKS'O 贅澤

贅澤を盡した奴の放ルークリ(糞)は  
臭氣も強く黄金色なり

LULI 揺りて寝つかす

ぐルーリから泣く兒を抱ね子守等が  
守り歌うたひ揺りて寝つかす

LUMI 光る

包みてし暗晴れ渡り明ルーミへ  
現はれ光る三五の教

LUMB'O [醫] 腰, 腰部

腰折れルームボ(無謀)の計畫行き過ぎて  
再び世に立つ術も無きかな

LUN'O 月

夜ルーノ月早や西山に傾きて  
冬草の上に霜降り來たる



LUNATIK'A 氣の變り易き、時々亂心する

平素氣の變り易きを侮ルナ  
 ティーカ(地位下)のものも神のまにまに

LUND'O 月曜日

今度來ルーン(運動)會は月曜日  
 活動なして賞品を得ん

LUP'O [動] 狼

狼の吠ゆルーホ一角(方角)を指差して  
 がたがた慄ふ臆病連中

LUPOL'O [植] 蛇麻草ササ、ホップス

降り來たルポーロポーロと雨の道  
 蛇麻草の露に濡れつつ

LUSTR'O 裝飾燈架(台又は天井より吊るもの、數條に分岐  
 して種々の裝飾を有す)

ルーストロこの言靈はエス語には  
 裝飾燈架の稱呼なりけり

LUTI らう著す、接合す

らう著す接合するをエス語にて  
 ルーティ(流涕)すると意義を現はす

LUTR'O 水獺クヌギ

水獺が湖池に來ルートローか  
 根棒持つて立番をする

MAC'O 一種の麵包(酵母を用ひざる)

空腹を抱けて一種のパンの來る  
 時をマーツーと罹災者が曰ふ

MAC'I 噛む、咀嚼す

暗闇で尻尾を踏まれマーチがつて  
 主人に知らず足を噛む犬

MADON'O 聖母マリアの像

善道の聖母マリアの像を見て  
 マドーノ(魔道の)と曰ふエス語可笑しさ

MAGAZEN'O 商品置場、商店

納め置くマガゼーノ(間が税納)の損失と  
 主人が悔む商品置場

MAGPO 奇術、魔法

奇術師が魔法使の様な風姿  
 なしてお客をマギーオ(求きを)るかな

MAGNET'O [理] 磁石、磁器体

磁石こそ何時も方向マグネート(狂げ無いと)  
 航海業者に重寶がられる

MAGNETISM'O (一) 磁力、磁氣、(二) 磁氣學

磁力また磁氣學之をエス語にて  
 マグネティースモと稱呼せらるる



MAHAGONO [植] 桃花 心木, マホガニー

マハゴニー(真秀郷の)里のほこりは春の野に  
咲き匂ふなる桃花心木

MAIZO [植] 玉蜀黍 (とうもろこし)

腹荒れて我身は下痢に悩みけり  
餘計喰ふマイーザ玉黍蜀を

MAJO 五月

舊五月新の五月が雛祭り  
どれが良いかにマヨヨ(迷ふ)現代

MAJESTA 威風堂々たる, 尊厳なる

尊厳なる神人威風堂々たる  
貴人のマエー(前)スタスタと逃げる

MAJSTR'O (一) 親方, 棟梁, (二) 大家, 先生

棟梁や親方大家先生を  
マイストロ(通主頭老)とエス語にて呼ぶ

MAKARON'O 糖杏菓 (杏仁, 蛋白, 砂糖等にて作る)

マカローノ負からないの何と云ふ  
杏仁蛋白砂糖で作る糖杏菓

MAKARON'FO マカロニ, 管麵

マカロニの管麵料理して喰へば  
うマカロニー(甘かろうに)オれも喰いたい

MAKLER'I [商] 仲買手

堂島で仲買する人損をして  
ヤケ囊になり尻をマクレーリ

MAKUL'O 斑点, 汚点

マクロー(真黒)の斑点汚点顔にある  
赤兒を産んだ親の心配

MAKZEL'O [解] 顎骨, 上顎骨

顎骨を前後左右に動揺し  
管マク(巻く)ゼーロ(贅ロ)ク上方に居る

MAL- [接頭] 反對を示す

反對を示す接頭語をマルと云ふ  
〇〇〇は反對の文字

MALEOL'O [解] 踝

踝を踏マレオーロ(まれ往路)に打ち倒れ  
顔をしかめて若伏して居る

MALGRAÜ [前] にも拘らず, の甲斐なく

彼れ程の聖者にも拘らず世の人を  
誤マールゲラウ(愚弄)するぞ不審

MALIC'O 悪意, 意地悪

悪意以て決して意地悪なしはせぬ  
つマリーツ(つまり強)きは瘖我慢のみ

MALV'O [植] 錦葵

錦葵日車の如くくるくる  
マールボ(丸坊)なる花苔あり

MAM'O [解] 乳房

母親の乳房が腫れて痛み出し  
兒を養はんさマモ(様も)無きかな



MAN'O 手

マ<sup>ノ</sup> (魔の) 手に捕へられたる人の耳は  
 誠の道を聴く事を得ず

MANA'O (一) [藥] 滿那(緩下劑), (二) 天糧(太古イストラ)

エル人が荒野旅行中に得たりといふ  
 緩下劑滿那をばエス語マナーオ

各國人にマナばして居る

MANDA'O (一) 委任狀, 委託書, (二) 爲替手形, 爲替券

委任狀爲替手形の請渡し  
 マンダー(未だ)トラぬと催促をする

MANDOLIN'O [音] マンドリン

マンドリン樂器は英語の呼び聲ぞ  
 マンドリーノはエス語なりけり

MANGAN'O [化] 滿俺

滿俺の礦脈探し求めん  
 思へどマンガ(運が)ノー(無う)て困りぬ

MANG'I 食ふ

上棟式祝ひで小供あつまりて  
 投げるマ<sup>ン</sup>チ(饅頭)拾うて食ふ哉

MAN'PO 狂, 熱中, 狂癖

狂人の如く熱中する時は  
 凡てマ<sup>ニ</sup>オー(間に合ふ)ものとなるなり

MANIER'O (一) 仕方, 仕様, 方法, (二) 風, 様子, 状態

知らぬマ<sup>ニ</sup>(間に)エ<sup>ー</sup>ロー(偉ふ)様子<sup>ノ</sup>が變つて  
 どんな仕方でどんな風にて

MANIFEST'O 令, 布令, 告示, 宣言書(政黨などの), 檄

令または告示をエスベラントにて  
 マニフェストと稱呼するなり

MANIK'O 袖

知らぬマ<sup>ニ</sup>(間に)コロもの袖は破れけり  
 茨の茂る山路行く間に

MANK'I 無し, 不足す, 缺乏す

返金のマ<sup>ン</sup>キ(満期)は來る金は無し  
 其上米も不足す着物も不足す

MANOVR'I [軍] 演習す

陸軍の兵士の演習する見れば  
 マ<sup>ノ</sup>ブ<sup>リ</sup>(魔能振り)をば十分發揮す

MANTEL'O マント, 外衣

上表に被るマ<sup>ン</sup>トの便利よさ  
 しばしマ<sup>ン</sup>テ<sup>ー</sup>ロ(待つてろ)買つて來てやろ

MANUSKRIP'T'O 草稿, 原稿, 書き物

草稿や原稿書くマ<sup>ヌ</sup>スクリ<sup>ー</sup>  
 プト氣が付けばいねむつて居た

MAR'O 海

海の上乗り行く上に怪多し  
 客は恐れてマ<sup>ー</sup>ロ(魔路)とぞ云ふ

MARCIPAN'O 一種の果物入パン菓子

果物の入ったパン菓子エス語にて  
 マ<sup>ル</sup>ツ<sup>、</sup>パ<sup>ー</sup>ノと美味く呼ぶなり



MARĈO 沼, 沼澤

夜逃げした人を捜索するため沼の周囲  
灯燈つけて多勢マールチ。ろ(まはつてゐる)

MARĈAND'I 値切る

テカテカと頭の光るマールチ。ーンディ(間塗泥)  
市に出てもよく値切る奴かな

MARD'O 火曜日

火曜日は基督教信者嫌忌して  
マールド(魔留道)日と定めてぞ居る

MARGARIN'O 人造牛酪(脂肪より製す)

マルガリーノ(丸苺)の男が牛の脂肪以て  
人造牛酪製造販賣

MARGEN'O (一) 欄外, 頁邊, (二) 端, 縁

マルヂェーノ(全贅の)記事を欄外又端へ  
掲載してゐる田舎新聞

MARIONETO 操り人形

玩具店にマリオネート(途を無いと)断ばられ  
操り人形求めて歸る

MARK'O (一) 印, 記號, 符牒 (二) 附札, 貼札(切手, 封  
緘紙など)

マールコは記號に印附札や  
切手封緘紙などの貼札

MARKIZ'O 侯爵

庭内にマルキーラー(丸末造)作亭を建て  
豊かに遊ぶ侯侯爵

MARKOT'I [園藝] 壓條さす(枝を親木より切り離さずして  
挿木すること)

壓條する親木の枝は土の中に  
包マルコーテ(固地)なして根を出す

MARMELAD'O 果糕かき, (砂糖にて煮詰めたる果肉)

マルメロや梅肉などで造りたる  
果糕をマルメラードと云ふ

MARMOR'O [鑛] 大理石

大理石大礦山を發見し  
工夫主人に大マルモーロ(金貨ふ)

MARMOT'O [動] 山搔鼠ずし, もるもつと

山搔鼠もるもつとをばエス語にて  
マルモートと稱呼するなり

MAROKEN'O モロッコ革

マロケーノ(魔系の)家の寶の長刀は  
モロツコ革の鞘を用ゆる

MARS'I 進む, 進軍す, 行進す

過激團天災の際マールシるし(丸標)  
合圍をなして進む進軍す

MARSAL'O (一) 元帥, (二) 式部官

元帥や式部官をばエス語にて  
マルシ。ーロ(魔流遮路)と稱呼して居る

MART'O 三月

三月がマールト桃の花咲いて  
田舎の軒も人の訪ひ來る



MARTELO (一) 鐵槌, (二) [解] 槌骨

髯虎が終に縮マルテロ(低頭)して  
出た用で打つた鐵槌泣いて投げ出す

MARTIRO (一) [宗] 殉教者, 難行者, (二) 殉難者, 難苦者

殿ぐられて腕まで染マルテロ(血色)こそ  
三五教の殉教者なり

MAS'O (一) [理] 質量, (二) 塊, 大塊, 大量物

マーリシはエス語の質量第二義は  
大塊などの稱で有りマーリ(鉦)

MASAG'O [醫] 按摩, マッサージ

マサーヂ。(まさー嬢)肩を凝らして按摩呼び  
病氣平癒のマッサージさせる

MASIV'A 質量多き, ぎつしりした, たつぷり目方のある

ぎつしりした質量多き靈能者  
日にマスーバン(日に増し萬)有愛を説く

MASK'O 假面

マスコーし假面を被ぶつて居るがよい  
髯虎邪神がボロを出すまで

MASON'I [建] 石, 煉瓦などを積みて築く

石煉瓦などをば積みて築きたる  
マリーニ(馬槽に)軍馬嘶いて居る

MAST'O [海] 帆柱, 樁

帆柱を造りマースト彦山へ  
祈願こらした豊臣秀吉

MASTIK'O (一) 乳香 (二) [工] 漆喰の一種

漆喰の一種乳香高價なれば

賣る店にてはマステーコ(樹小こう)する

MASTR'O 主人, 亭主, 親方

御主人も親方さんも貴狩で  
留守でおマーストロー(老)僕が云ふ

MAŠ'O 網の結目, 網目

大鯉がかかれば網の結目が  
破れマーシ。に僕注意す

MAŠIN'O 機械, 機關

天聲社に今度求めた印刷機  
前はマシーノ機械なりけり

MAT'O 蕙, 壘, 蘆葦

新らしき蕙や壘入れ代へて  
其美々しさにマート驚く

MATEMATIK'O 數學

數學は幼い子供では六ヶしい

マテマテ。コ供(待て待て小供)年が行くまで

MATEN'O 朝

今晚は俄の用で行かれない

明日の朝までしばしマテロー(待てのうー)

MATERIO ([理] 物質, 有形物

物質や有形物が望みなら

しばらくはマテリーオ(待て利を)與へる



MATERIAL'O 材料, 原料

材料や原料品が安く来る  
それまではマテリアロー(待て利あろう)から

MATRAC'O 臥褥, 敷蒲團, 蓆蒲團

敷蒲團臥褥の上にマトラーツ(まどろむと)  
旅した山野の苦しさおもふ

MATUR'A 成熟せる, 成人せる

マトラー(魔道等)に迷はず成人せる人は  
よく成熟せる人格を持つ

MAZURK'O 一種の舞踏(波蘭の)

愛する兒かマズールコかは知らねども  
一種の舞踏に優しき乙女

MEBL'O 家具, 備品, 什器

家具備品一切揃ふた温泉屋  
世人賞してメープロ(名風呂)と云ふ

MEC'O 燈心(ランプ, 蠟燭などの)

瑞月のメーチ(名著)はランプ燭燭や  
燈心よりも暗夜を照らす

MEDAL'O メダル, 賞牌, 記功牌

メダルをばぶらぶら下げて世に響る  
是も此世の變りメダーロー

MEDALION'O (一) 像牌, 寫真入メダル, (二) 圓形浮彫

メダリオノ(名達理王の)像牌寫真入メダル  
喜び敬ぶ印度の土人

MEDICIN'O 醫學, 醫術

敏醫者メ(奴)ディツィーノ(實地の)病つかますに  
醫學博士とよくもシヤレたり

MEDIT'I 沈思す, 冥想す, 思案す

藍胎の机は久留メ(米)ディーティ(實地)の  
品にもたれて沈思するかな

MEDUZ'O [動] 水母

月の夜に海に浮べる水母見れば  
蓮の花咲くメドロー(冥途ぞ)忍ばる

MEĤANIK'O 機械學

機械學研究したる弟メ(目)カ  
ニーコ(兄公)は馬鹿と罵つて居る

MEJL'O 哩

五哩のマラソン競争に勝つて來た  
選手のメイロ(眼色)血走つて居る

MEL'O あなぐま, 貉

狩人を早くも止メーロあなぐまや  
貉を捕れば末代祟たる

MELAS'O [化] 糖蜜

惱みある乾癬病を濕メラソーと  
糖蜜着けて苦痛免がる

MELEAGR'O 七面鳥

顔色の刻々變る七面鳥  
メラアーグローとエフ語にて呼ぶ



MELK'I 乳を搾る

何時迄も飲メールキ(氣)持ちか幼稚園兒  
寝ながら母の乳を搾るなり

MELODI'O [音] 旋律, 曲調

メロディーオこの言靈は音樂の  
旋律曲調のエス語なりけり

MELODRAM'O [劇] 準歌劇

準歌劇メロドラーモ(女郎童等も)集つて  
歌ひつ舞ひつ俳優をする

MELON'O [植] 甜瓜

甜瓜味も佳ければ形も善い  
メローノ(女郎の)瓜を割つた様なる

MEM [副] 自ら, 自身に

白MEM(目む)き自身に仇する曲者に  
對して自ら腹が立ち来る

MEMBR'O (一) [解] 肢(四肢の一), (二) 部, 部分, (三)  
[工] 構材, 部材, (四) 員, (會員, 社員, 議員な  
ぎ), (五) 方程式の邊

四肢の一部分と員と會社員  
議員なきをばMEMプロと曰ふ

MEMBRAN'O [解] 膜, 膜皮

腺膜が破れ出血繁ければ  
MEMブラーノ(綿布羅の)崩帯をする

MEMOR'I 記憶す, 紀念す, 覚えてゐる

去年の夏夕立がしてあメモーリ(雨漏り)  
困つた事を今も記憶す

MEND'I 注文す, 豫約を申込む

木メーンデ(綿地)河内の國の野遠邑で  
飛切上等の品を注文す

MENSOG'I 嘘言す, うそをつく

嘘言する人はメンソーギ(面相欺)詐々々ど  
落付きの無い姿するかな

MENT'O [植] 薄荷

口中の臭氣を拂ひ清メント  
薄荷の入りし煙草飲むかな

MENTON'O 頤

メントーノ(面倒の)起らぬ様に注意して  
輕卒的に頤を振るなよ

MENU'O 獻立, メス

獻立の馳走と酒に酔ひ潰れ  
未だ眼が醒メヌーオ(男)の子ありけり

MERIT'I 値す, 當る, …の資格あり

大臣に値す程の資格あり  
心魂澄メリーテ(智)勇備はり

MERIZ'O [植] 野生櫻の一種

メリーゾは野生櫻の一種なり  
花樂しメリーゾ(雜)兵たちが

MERKRED'O 水曜日

震災の跡を治メルクレード(苦泥土)を  
除き清むる水曜の空



MERL'O [鳥] つぐみの類

冬深みつぐみの類が悲しげに  
鳴く聲聞けばメールロ(弱る老)人

MES'O [宗] 供養, 彌撒

彌撒供養行はんとて大寺に  
メーソー(名僧)數多集り來たる

MESI'O [宗] 救世主

惟神神のおメスィーオ(召しを)蒙りし  
人を導く天晴れ救世主

MET'I 置く

メーティ(明智)の大將明智光秀が  
城趾に瑞祥會を置くかな

METAFIZIK'O [哲] 形而上學, 純正哲學

形而上學は所謂神靈學  
研究極メタフィズィーコー(微事考)なり

METAFOR'O [修] 隱喻, 暗比法

隱喻をば使ふ坊主の奥の手は  
メタフ、ーロー(滅多法浪)の惡手段かな

METAL'O [化] 金屬

金屬商始メターローか此頃は  
隣の家に着打ちの音

METAMORFOZO'O [動] 變化, 變態(昆蟲兩棲類等の)

昆蟲や兩棲類等の變態を  
メタモルフ、ーゾミエス語にて呼ぶ

METPO 手職, 手工

手職人手に喧嘩おつ始め  
メテ、ーオ(眼血)を出して睨み合ふかな

METHOD'O 方法, 方式, 手順

方法や手順の限り竭せども  
一ローとて解決メトード(目當)付かない

METR'O メートル

我こそは暗世を救ふメートロ(明燈籠)と  
きつくメートル揚げる鬚虎

MEV'O [鳥] 鷓鴣

メーホ(眼疾)が俄に起り眼の形  
鷓鴣の如くなりけるかな

MEZO 中央, 正中, 中間, 中等

中央に齋き祭りしメーソー(名像)は  
弘法大師の彫刻觀音

MEZUR'I 量る, 計る, 測量す

あメズーリ(雨落)土砂は線路を埋めけり合  
技師は損害程度を計る

MI [代] 私, 我

我身にか私の身にか利己主義に  
溺れし人のミこそうたてき

MIASM'O 惡氣, 邪氣, 傳染毒, 瘴癘

病がミアースモ(神明日も)昨日も毒惡氣  
傳染毒を世に撒布する



MIAŪ'I 鳴く (猫に云ふ)

天井のねづミアーウイ聲潜む  
猫の鳴く聲耳に入りてゆ

MIEL'O 蜜, 蜂蜜

蜂蜜の蜜の効能病人に  
施してより直ぐにミエーロー(見ねる)

MIEN'O 顔色, 容貌, 面持

外ミエーノ良くなるやうに化粧すりや  
容貌顔色以前に變る

MIGDAL'O (一) [柿] 巴且杏 [果] (二) 杏仁

巴且杏作る島に注意せよ  
凸坊きもがミグダーロ(果食ふだーろ)から

MIGR'I (一) 遍歴す, 國々を漂らふ (二) 遠方へ移住す,

魂ミミーグリ(身俱に)世界を遍歴す  
神示の儘に遠方へ移住す

MIKS'I (一) 雑す, 混合す, (二) 混同す, 取違へる

混合す雑す言靈はミークス,  
エスペラントは稱呼するなり

MIL [數] 千

千年の未來をミルの明あらば  
伊都の御魂に等しかるべし

MILPO [柿] 稷, 粟

稷粟のミリーオ(實入り)多くせんもの  
田吾作島を耕してゐる

MILIARD'O 十億

十億のミリアールド(収入り有る土)地を譲れよ  
露西亞に樺太問題を出す

MILTI 戦争す

ミリーテ(實入地)鐵道權利を握らん  
國と國とが大戦争する

MIMIK'O 身振, 手眞似

ミミーコ(耳擦)り手眞似身振で古への  
人は互に意志を通する

MIN'O (一) 鑛坑 (二) [軍] 火坑, 雷坑, 水雷 (敷設の)

鑛坑に日夜活動する時は  
何れもミーノ健康を害す

MINAC'I 脅かす, 脅迫す, 威嚇す

來る敵にミナーツ(皆血)を見せて脅かす  
日清戦争の時の我軍

MINARET'O 招塔 (回々教寺院の尖塔)

回々教寺院の招塔空高く  
市中の人はミナレー(見慣れ)トるなり

MINERAL'O [鑛] 鑛物

鑛物の火口求めて山の尾や  
ミネラーロく(峰裏六)人探し居る哉

MINIATUR'O (一) 微細の畫像(頸飾などに附する) (二) 縮圖

微細なる畫像や縮圖の名稱を  
ミニアトローとエス語曰ふなり







MIZER'O 貧窮, 困窮, 難澁

貧窮と難澁すれば博識の  
人のミゼーロ(身零)となるぞ歎てき

MOBILIZ'I [軍] 動員す

元帥が動員するをエス語にて  
モビリーズと稱呼するなり

MOD'O (一) 流行, 時好り (二) [哲] [文] 法, 様式, 形態

横縞が此頃又も時好出した  
時代は昔へモード(戻)るなるらん

MODEL'O 摸型, 模範, モデル, 手本

この模型寫して院展に出したなら  
よくモデロー(もてる)と畫伯云ふなり

MODER'A 適度の, 中庸の, 中和の, 程よき, 節度ある

小くモデーラ(小雲寺)適度の場所に建つてゐる  
是中庸の人の設計

MODERN'A 近代の, 現今の, 今様の

近代の劇より勝れて舊芝居  
何處モデールナー(も出るなア)田舎に限り

MODEST'A 謙遜なる, 質素なる, 慎ましき, 控目の

質素なる僧侶ころモデー(衣で)スタスタと  
托鉢廻る謙遜なる風で

MODUL'I [音] (一) 變調す, 轉調す (二) 調節す,

高低緩急あらしむ  
音律が變調するモドーリ(も道理)なり  
いつも調節する間なければ

MOK'I 嘲弄す

年ばかり取つて向ふの見よぬ人  
モーキ(盲龜)と云つて嘲弄するなり

MOL'A 柔かき, 柔軟なる

柔かき心の人のみモーラ(網羅)して  
紳士淑女の會員募る

MOLEKUL'O [化] 分子

困難も積モレクーロー(苦勞)もやつて來い  
我も宇宙の分子なりせば

MOLUSK'OJ [動] 軟体動物

水田モルー(守る)スコイ(凄い)蛭奴が足を吸ひ  
血を流すなり軟体動物

MOMENTO [一] 瞬間, 片時, (二) [機] 能率

瞬間に見た盛装は絹物と  
モメント(木綿と)區別付かぬものなり

MON'O 金錢, 貨幣

金錢がありさへすれば何モノも一子(山本)  
自由に手に入る金の世の中

MONAĤ'O 僧, 修道士, 出家

役僧や出家に出逢ひ石童丸  
高野で今モナーコー(も泣かう)とせる

MONARĤ'O 君主, 國君

何時モナールコー(高)恩夢に忘るるな  
君主は我等の親にゐませば



MONAT'O 月(歳月の)

月満ちて女房分嬖近づきぬ  
我をモナート(友なりと)呼んで来ようか

MOND'O 世界, 人界, 世間, 森羅万象

やんれぶし鈴木モードの流行歌  
世界に一人知らぬものなし

MONED'O [鳥] 鳥の一種

何時までもガアガアガアとやかましい  
一種の鳥モネード(もう寝所)に歸れ

MONOLOG'O [劇] 獨白

時代モノローゴ(物老後)の政岡殿様の  
御用を聞いて獨白してる(老後の政岡千代萩)

MONOPOL'O 專賣權, 一手販賣, 獨占

專賣權を以て賣るモノポロー(者ポロ)かろう  
俺も何とか發明して見よう

MONSTR'O 異形醜怪の動物, 妖怪, 畸形

本山のモーンストロ(門主頭顔)よく見れば  
異形動物妖怪をぞ思ふ

MONTO 山

本願寺山門前に澤山の  
モント(門徒)集り開門を待つ

MONTR'I 見す, 示す, 表現す, 指示す, 顯はす

表モントリ(門取り)つくろひて佛徳を  
示す坊主が心を表現す

MONUMENT'O 紀念碑, 紀念塔, 紀念物

紀念牌や紀念物をばエス語にて  
モノメントと稱呼するなり

MOPS'O [動] 狎

モーブリー(毛布ソツ)敷つめ狎の寢床をば  
造りて隠居樂み暮す

MOR'O 風俗, 風儀

我國の羽織袴もモーロ越の  
風俗うつせし服装なりけり

MORAL'A (一) 道德的の, 德義上の, (二) 精神上的の, 無形の

モラーラ—道德的の精神上的の  
言義をエスペラント語云ふ

MORBIL'O [醫] 麻疹

麻疹をばモルビーローとエス語曰ふ  
近所合壁危険感する

MORD'I (一) 咬む, (二) [工] [化] 腐蝕す

無住寺守モールディ(爺)さん夜行けば  
後追ひ來る犬が足咬む

MORFIN'O [藥] モルヒネ

木の間モルフィーノ(漏る日の)下にて悲觀者が  
自殺せんとてモルヒネを飲む

MORGAŨ [副] 明日

雨がモールガウ(漏る轟々)風が吹いて居る  
明日は必ず晴天となれ



- MORT'I 死す、  
死すとも此神國を永久に  
守モールテ、(守る度い)者の心たふさき
- MORTER'O [工] 灰泥、漆喰、モルタル  
灰泥や漆喰を以て修理せよ  
炊事場水がモルテロー(漏るて老)翁曰ふ
- MORUS'O [植] 桑  
堆高くモルーリー(盛る桑)葉を五齡兒が  
瞬くうちに桑(食は)んどぞする
- MOSK'O (一) 麝香 (二) 麝香獸  
モースコし(もう少うし)遠くに居ても匂ふべし  
芳香強き麝香なりせば
- MOSKE'O 回々教寺院  
モスケーオ(喪主磔を)叩いて進む回々教  
寺院の葬式奇妙なりけり
- MOST'O (一) 葡萄搾汁 (二) 糖液 (酸酵せしむべき)  
風味良き葡萄搾汁チトばかり  
御願ひモースト(申すに)僕遣はず
- MOST'O 陛下、殿下、閣下、等 (一般に上長に對する尊稱)  
モーシュトつ(もう一つ)昇級すれば少將で  
閣下ならん陸海大佐は
- MOTIV'O 動機、誘因、理由  
モチーホ(持ち棒)で殴ぐり付けたる動機こそ  
理論につまりし髭虎の腕

- MOTOR'O [機] 發動機  
發動機いと勇ましく瓦斯力で  
ジャキジャキジャキと獨りモトロー(廻うとろう)
- MOV'I 動かす  
モービ軀とも動かすものか狂人を  
取り押わたる柔道三段
- MUELI 挽く(穀物を)、製粉す  
穀物を挽く粉臼をムエーリーと  
エスペラントは稱呼するなり
- MUF'O (一) 暖手套 (毛皮なきにて作れる圓筒状のもの)、  
(二) マントル (瓦斯燈の)、(三) [機] 輔筒  
ムーフ、(無法)者知らずウカウカ暖手套貸して  
貸し下されに奪られけるかな
- MUG'I 吼ゆ、怒號す  
獅子の吼ゆ如くに怒號する辯士  
つムーヂ(頭)曲りの男なるらん
- MUK'O [生理] 粘液  
新らしく貰ふたムーコは粘液性で  
花嫁さんの顔色青し
- MUL'O [動] 騾(驢と馬との雜種)  
騾馬の背にまたがり三ムーロ(室)指して行けば  
宇治の川瀬に白波が立つ
- MULT'A 多数の、多量の  
多数の金出して求ムールタ(田)畠には  
殊に多量の收穫がある



MUMI'O 木乃伊<sup>ミイラ</sup>

愛想なき木乃伊の様な人物に  
逢へば殊更ムミーオ(無味を)感ずる

MUNICI'O [軍] 軍需品(主に彈藥)

軍需品殊に彈藥置く場所は  
ムニツィーオ(無二地位を)選ばにやならぬ

MURMUR'I (一) つぶやく, こぼす, (二) 囁く, (三) さわ

さわ音す(流水, 風などの)  
ムルムーリ(無留無理)聞いてつぶやく又こぼす  
流水風のやうに囁く

MUS'O [動] 廿日鼠<sup>ムジネ</sup>

小さうても矢張鼠の種類なれば  
廿日鼠も咬ムーリーである

MUSK'O [植] 苔<sup>モス</sup>

庭の面にムースコけ(蒸す苔)青く美はしく  
水苔の如滑々してる

MUSKAT'O [醫] 肉豆蔻<sup>ムスカト</sup>

漢法醫餅ムス(蒸す)カート(門)に往診し  
肉豆蔻患者ながめて驚く

MUSKOLO [解] 筋, 筋肉

筋肉を勞して震災救護班  
ムスコロー一人(息子老人)共に活動す

MUSLIN'O モスリン

モスリンの反物買つて驛けり込ム  
スリーノ(掏摸の)奴があみを付け来る

MUSTARD'O 芥子<sup>カイシ</sup>

わさびをば澤山畑に作り込ム  
スタールドー(棄る同)様の芥子の運命

MUSTEL'O [動] 鼬<sup>ムステル</sup>

ムウムウミムステーロ(蒸す低爐)の傍にゐて  
鼬屁嗅いだ時の苦しさ

MUS'O [昆] 蠅

拂へどもムーショー(無性)矢鱈に蠅の奴  
臺所さして集まり來たる

MUTA 啞の

啞の事思へば人はムータ(無駄)口を  
たたかす沈黙守る第一

MUZO [神] 詩神, ミューズ

ムーゾ(無雜)作に詩神ミューズの神様は  
世の有様を悲しく謳ふ

MUZE'O 博物館, 陳列所

めムゼーオ(免税を)公然として受けて居る  
博物館の陳列商品

MUZIK'O 音樂

音樂を常に樂しムズーコ(自己)のため  
又世のためと稽古するなり







NAUZI 嘔吐を催さす

ナーウズィ(脳髄)の貧血したるその時は  
 〇一忽ち嘔吐を催さすなり

NAV'O [建] 本堂(禮拜堂の)

本堂にみナーボ一(皆坊)さんが集まりて  
 阿彌陀禮拜式を舉行す

NAZ'O 鼻

淨瑠璃の連中を天狗連と云ふ  
 鼻高しとのナーヅ(謎)なるべし

NE [副] (一) ……ぬ, ……せぬ, (二) [間投] 否, いゝね

知らぬせぬいゝね否よとネ一(姉)さんが  
 妹の問ひを一々いなむ

NEBUL'O 霧, 靄

霧か靄か知らネブ一ロプロとして  
 うすい雲奴が山の根さまよふ

NECES'A 必要なる, 必須の

風害を防がんために必要なる  
 菊の幹にもネツ一サそうる(根杖支ふる)

NEGLIG'O 便服(起床後就寝前なぎに着る)

ネグリーチ。この便服は起床後また  
 就寝の前に着るものぞかし

NEGOCI (一) 談判す, 交渉す, 商議す, (二) [商] 取引す, 賣  
 買す, 流通す, 裏書譲渡す

あやまらな(謝罪)ネゴ一ツィ(願うて)やらうと談判す  
 取引するも商業掛引

NEGRO 黒人, 黒奴

肉體の色のしづろぬ黒人を  
 エス犬(ト)はネ一グロ(根黒)と曰ふ

NEG'O 雪, 氷

今朝見れば雪吐面の銀世界  
 さあネ一チ(姉女)さんが歡こんで居る

NEK [接] 亦なし, 亦……せず, 亦然らず

神様に信仰すれば胸晴れて  
 山に積みてしネク(根苦)も亦なし

NEKTAR'O (一) [神] 神酒, (二) 美酒, 甘美の飲料, (三)  
 [植] 花蜜

神酒美酒花蜜なきをエス語にて  
 ネクター一ロ(根苦多漏)と稱呼するなり

NENIA [相] 何等の……ぬ

ネニーア(姉兄は)何等の〇〇ぬ事だらう  
 皆兩親の御意見の儘

NENIAM [相] 決して……ぬ, 嘗て……ぬ, 何時までも……ぬ

ネニーアム(姉兄あん)決して〇〇ぬ父さんが  
 私に……私に……私に……教へて居るゆへ

NENIE [相] 何處にも……ぬ

ネニーエ(姉兄へ)何處にも〇〇ぬ土産物  
 上げよと弟買つて歸り來

NENIEL [相] 如何しても……ぬ

ネニーエル(姉兄選る)嫁は如何しても〇〇〇ぬ  
 戀愛至上主義者の私は



NENIES [相] 何人のも…ぬ 以黒人黒 O:HEITZ

ネニーエス(姉兄耶蘇)基督教に入信し○の○  
ふ日○(黒附)何人のも○○ぬ忠告

NENIO [相] 何れも…ぬ, 何も…ぬ, 無, 虚無, 零

ネニーオ(姉兄を)誤解してるか世の人は  
何れも○○ぬ清きこころを

NENIU [相] 誰も…ぬ

誰も○○ぬネニーウ(値に賣)りてボロも上げ  
蔭で舌出す悪い商人

NEP'O 孫

親の癖孫にうつりてネーホ(寝坊)よ  
姑婆さんの小言八百

NEPR'E 必ず, 全く, 是非に, ぎうしても

全くの腰抜けなれば是非に一度  
必ずネーブレ○○○腎を

NERV'O [解] 神経

神経が過敏となりて鼠啼き  
聞くさへネールポ(寝る妨)害となる

NEST'O 巢

夏山に入りてホジロの巢を採れば  
藻抜けのからのネースト(無い巢)なりける

NET'A (一) 純粹の, 無垢の, 正味の, 掛値なしの, (二) 鮮明なる

純粹の品物にして掛値なしの  
商品の子一タづね(値尋ね)て購ふ

NEV'O 甥

我甥は生れ付いてのネーイ(寝坊)ゆへ  
(ハシ)ロ不良青年になるかと危ぶむ

NI [代] 我等, 私共, 吾人, 朕

私共は二人以上の集合に  
行かぬときめたる我等の覚悟

NIC'O [建] 壁面の凹所(肖像を飾り又暖爐等を置くための)

壁面の凹所に肖像暖爐おき  
ニーチ。(日曜)毎に遊び楽しむ

NIGR'A 黒き

毛色黒き牛の背中にニーグラ(荷鞍)を  
乗せて農夫が薪運ぶかな

NIKEL'O [化] ニッケル

この時計銀側でないニッケル  
日はれて偽商ニケーロ(逃ろ)とする

NIMF'O (一) [神] 山林水澤に住む女神, 仙女, 美少女(二)

山林や水澤に住む女神また  
[昆] 活動蛹  
仙女をさしてニームフと曰ふ

NIVEL'O 水準, 水平

水準を取り外づしたるハイカラが  
水平社員ニペーロり舐めらる

-NJ [接尾] 女性の人名等に附する愛稱

ヌイ(縫ひ)針を持つふ女性の人名に  
附する愛稱ヌイと曰ふなり



NOBEL'O 貴族

貴族にて恐るゝ事は要らないよ  
遠慮せずして意見ノペーロ(述べろ)

NOBL'A 高尚なる, 貴き, 立派なる

世に貴き人ノープラプラして居る状態  
餘り高尚なる人格を見れない

(NOD'O) 結び目, 節, 交点

人間のノード(咽喉)は生命の結び目  
その節々の食物を喰へ

NOK'TO 夜

太陽の光ノークト(退く)鳥羽玉の  
夜の帳は降り来るなり

NOM'O 名, 名稱, [文] 名詞

豪ノーモ(農も)名を欲しがつて代議士の  
名稱得んぞて選挙競争す

NOMBR'O 數

極道が酒をばノームプロ(呑む浮浪)して  
人に數々厄介をかける

NOMINATIVO'O [文] 主格

文法の主格はエスペラントにて  
ノミナティーボと稱呼するなり

NORD'O 北, 北國, 北地

北國雷北尊翁が暴民に  
打たれてノルード(伸倒るごつ)と後へ

NORMALIA 順當の, 正格の, 正規の

順當の道シトシトノルマール(乗る馬等)  
正格の軍馬勇し

NOSTALGIC'O 思郷病, 歸思病

家系ノスタルギーオ(の棄る義齒を)悲しみて  
思郷病をば發す出稼ぎ

NOT'O (一) 注意書, 標計, (二) 覺書, 手控, 書附, [三] 音符

注意書覺書をば公開し  
演説すればノート反對す

NOTARIO 公證人

世の人ノタリーオ(の多科を)保証するために  
公證人の必要あるなり

NOV'A 新しき

新しき村を開いて武者小路  
廣いノーバ(農場)を作るゆかしさ

NOVEL'O 小説

三界の経緯一切詳細に  
小説にしてノペーロ(述ろう)と思ふ

NOVEMBR'O 十一月

初冬の十一月の大祭に  
ノベームプロ(能辨振らう)と待ちかまへ居る

NOVIC'O (一) [宗] 僧尼見習, 見習坊主, (二) 見習, 初心者, 新參者

見習の坊主や尼は初心者  
まだノビーツ(延び毛)の頭の髪は



NU [間] さあ、さて、<sup>そとで、いざ、それ</sup> (注意を呼び又は他を促す語)  
 さあさでも時節が来たに違いない <sup>さあさでも時節が来たに違いない</sup>  
 いざ又かるなよ又し(主)の御爲 <sup>いざ又かるなよ又し(主)の御爲</sup>

NUANC'O (一) 色合、濃淡、<sup>限、</sup> (二) 意味合、同じ意味の種  
 かの相違  
 ヌアーンツ、(何んを)また色合の良い染物だ  
 呉れた意味合更に分らぬ

NUB'G 雲  
 ヌ一ホ式入道雲が現はれた  
 また干魘の續く事だろう

NUD'A 裸体の、裸出せる  
 先生が海邊に立ちて招かる  
 裸体の儘に行くはずまヌ一ダろ

NUK'O 背、頂、頸、襟首  
 襟首や背に思はヌ一コぶが出来た  
 餘り按摩を頼み過して

NUKS'O [植] 核果、胡桃、<sup>(俗に)</sup>  
 ヌ一クリ(暖くそう)を核果胡桃の湯に入りて  
 疝氣療養してゐる老人

NUL'O 零  
 見も知らヌ一ロ(ぬ路)傍に咲ける花散るぞ  
 見し夢の跡零となりぬる

NUMER'O (番號)  
 暗の夜に足元見ぬヌメ一ロ(ぬ迷路)を  
 歩めば家の番號も知れぬ

NUN [副] 今(二) <sup>今(二)</sup>  
 今ヌン(の)は木であるまい自轉車にでーエて水  
 乗つて出て来る青年の影

NUNC'O 法王特派公使 <sup>法王の特派公使</sup>  
 法王の特派公使をキス語にて  
 ヌンツ、一オと稱呼するなり

NUR [副] 唯、僅に、ばかり、のみ  
 一夜の宿の宿りは唯夢ぞ  
 僅に寝ヌルばかりなりせば

NUTRI 養ふ、營養を與ふ、飼ふ  
 猫の子を貰つて養ふ愛らしさ  
 またいヌ一トリ(犬通り)大切に飼ふ

一〇 [語尾] 名詞の語尾  
 尻にオ(尾)を狭んで名詞(飯)を喰つて居る  
 乞食犬奴が恐はさうにして

OAZ'O 沙漠中の沃地、オ一シス  
 オ一シスは沙漠中の沃地なり  
 エス語は之をオア一リと曰ふ

OBE'I 順ふ、服従す  
 尾を振つてオベ一イか(おべつか)ばかり媚び順ふ  
 服従するも金のためなり



OBJEKTO (一) 物, 物体, 物件, (二) 目的物, 對象

オブジェクト(覺悟丸)一石二石は對象し又今  
五穀物をば帳に記入す

—OBL [接尾] (……倍)の義

人よりは〇〇倍の義務オブル(帯ぶる)海の上  
我は責任多き身なれば

OBLATO (一) オブラート (藥物を包み又は封緘なごに用

ふ), (二) 煎餅  
藥物の包み封緘なごに用ゆ  
オブラートをばオブラートと曰ふ

OBLIKV'A 斜なる, 筋違の

斜なる街道やちまた筋違の  
町をばオブリークバ(尾振り狗は)走るなり

OBSERV'I 観察す, 注目す, 監視す, 観測す

我罪を人にオブセールヒ(負せる人)こそは  
監視す必要ありと観察す

OBSTIN'A 頑固なる, 強情の, 我慢強き

頑固なるオブステイナー(男夫主地位なる)高姫は  
強情の限り盡す悪婆を(靈界物語参照)

OBSTRUKCI 塞ぐ, 遮ぎる, 阻碍す

穴塞ぐ遮ぎるためにオブストル(汚布守通る)  
クツ(驟逢)せんて騒ぐ奸狸等

OCEAN'O 大洋

大洋を渡りて歸る帆前船  
オツアーノ(汚漬(あ)の)いたましきかな

OD'O (一) 吟詠詩句 (古代の), (二) 短歌, 短詩

吟詠詩句短歌短詩は古代の  
日本オード(王土)の國粹なりけり

ODOR'O 香, 臭

麝香の香を思ひ居たるに屁の臭  
餘りくさくにオードロ(驚)いて居る

OFEND'I (一) 侮辱す, 凌辱す, 犯す, (二) 氣を悪くさす,

怒らす  
人々を侮辱す氣をば悪くさす  
やうな方ではオブエーディ様

OFER'I (一) 捧ぐ, 獻す, 奉納す, (二) 寄附す, 提供す

眞心を捧ぐる爲に寄附すれば  
オブエーリ(おひねり)さんを呉れる三五教

OFIC'O 官, 職, 職務, 任務

官と職免じられたる人の家は  
いつもオブエーツ(お櫃)空にしてゐる

OFICIAL'A 官の, 公の, 職務上の, 法定の

八百屋オブイツ(お七)アラーぬ(あらぬ)情火に放火して  
官の罪人公の真連

OFICIR'O [軍] 將校, 士官

戦は利あらず士官將校が  
オブイツーロ(天非血路)を開いて逃げる

OFT'E 屢々

女房に屢々意見して見たが  
又もしくじるオブエ(大不貞)腐れ奴が



OGIV'O [建] ゴシツク式迫持ゴシツク式

オギーボ—(大き棒)ゴシツク式の迫持  
肩こらしてゐる手傳人足

OK [數] 八

オク(奥)の間の八疊敷に床を取れ  
狸ではない安心をして

OKAZI 生ず, 起る, 有る(事が)

亂生す此まゝオカーズ(置かじ)國のため  
起る紛擾鎮定するまで

OKCIDENT'O (一) 西, (二) 西國, 西洋

西又は西國西洋の言聲は  
オクツィデント(お口へ出ぬ)老翁が曰ふ

OKSIGEN'O [化] 酸素

オクスィゲーノ(奥繁の)病氣は肺の患いと  
聞いて酸素を吸入させる

OKSIKOK'O [植] つるこけもツルコケモ

オクスィコーコエスベラント語にて  
つるこけもツルコケモと稱呼してゐる

OKTOBR'O 十月

十月や小男鹿紅葉踏みしめて  
オクトーブロー(奥飛ぶ鹿)の聲ぞ悲しき

OKUL'O 眼

波羅門のオクーロ(大黒)主の眼の玉は  
鏡の如く光りも凄し

OKUPI (一) 占む, 占領す, 占有す, 塞ぐ, (場所, 時間を)

(二) 係はらず(身を)忙しくす  
場所を占む時間を塞ぐじれつたさ  
オクーピ(おくび)にも出さぬ人のゆかしさ

OKZAL'O [植] 酸模クサ

酸模小供が澤山採つて食ふ  
併し長けたの捨てオクザーロ(置くだろ)

OL [接] より, よりも, より一層(比較を示す場合にpliと共

に用ひらる)  
鬼がオル(居る)大江山よりよりも一層に  
恐ろしき哉今の世の中

OLE'O 油

油をば搾つてオレーオ(俺を)困らせる  
覺識一途の鬚虎の奴

OLIV'O [植] 橄欖クサ [果] (二) [解] 橄欖體

橄欖の山に鎮まる主の神は  
再び地上にオリーボ(降りい望)月

OMAR'O [動] うみざりがに

人の顔見るより直に走り出す  
うみざりがにオマーロ(を歴)追つかける

OMBR'O (一) 陰, 影, 日陰, 暗がり, (二) 亡靈

オームプロ(歿霧浮浪)陰府の空は暗がり  
亡靈數多うごなはり居る

OMBREL'O 洋傘, 傘

春の日はオムブレロ(温風玲瓏)空清く  
花見に行くも洋傘を持つ



OMNIBUS'O 乗合馬車

田舎道乗合馬車に乗る時は  
オムニブーリ(重荷物驢)を軽くして出る

—ON' [接尾] 数の分割を示す

オンな(女)には身に分割のなやみあり  
接尾語数の分割を示す

ONDO' 波

盆踊り人波の打つ中央の  
高座に立ちてオンド(音頭)取るかな

ONI [代] 某, 或人, 世人

世人皆オニ(鬼)ばかりと思ひしに  
或人某は神にぞありける

ONKLO' 伯父, 叔父

父母は早世されて我を救ひ  
育つる爲に伯父のオングロ(御苦勞)

—ONT' [語尾] 發動未來分詞の語尾

オント(音頭)をば發動未來分詞の  
語尾に附すとは天地轉倒

—OP' [接尾] 集合を示す

集合を示す接尾語オブ(尾附)を云ふ  
尻に着くもの凡て汚腐なり

OPALO' [鑛] 蛋白石

蛋白石は金剛石に次ぐ寶石  
持ちて四ツ足オパーロ(尾張ろう)とする

OPER'O 歌劇, オペラ

歌劇をば見物せんと行き見れば  
女優が舌オペーロを出す

OPERACIO' (一) 學術上の作業, (外) 手術, (數) 運算

(二) [軍] 作戰 (三) [商] 取引  
學術上の作業手術をエス語にて  
オペラツィーオと稱呼するなり

OPPO' 鴉片

鴉片をばオビーオエス語曰ふ  
帯を解かない會へん(鴉片)時には

OPENTI' 思推す, …と思ふ, …その意見なり

オビニーイ(帯兄イ)締めて私は出たと思ふ  
遊所通ひと思推する外なし

OPORTUNA' 便利なる, 都合よき, 調法なる

便利なる貯水池また都合よき灌溉溝オ(を)  
ボルトナツ(堀る當夏)の干魃百姓

OPTIK'O [理] 光學

光學の研究せんと理學者が  
オブテューコ(負ぶ稚兒)の顔色迄見る

OPTIMIST'O 樂天主義者, 樂天家

汚れたるオブテ、ミースト(汚風地見す)樂天家  
世は天國と思ふ樂天主義者

ORO' 金, 黄金

黄金を最も貴重するものは  
オーロ(歐露)を始め清米の週



ORAKOL'O 神託, 神宣

洋行の益良武オラコーロ(男等航路)をば  
何れに取らんと神託を乞ふ

ORANGO (一) [植] 蜜柑, 香橙 (果) (二) 柑橘類の總稱

枝オランヂ。(折らん條)件附けて蜜柑畑へ  
度五錢で客を引入る

ORATOR'O 辯士, 演説者

演壇に立ち現はれた演説者  
やオラトローロ(やをら當路)の彈効をする

ORD'O (一) 次第, 順序, 秩序, (二) [軍] 隊次 (三) [博] 目

次第順序秩序の立つてオールド(居る道)場は  
瑞祥會に若くものはなし

ORDEN'O (一) 盟社, 教團, (二) 僧班, 僧位, 騎士の品級

品級, 勳位, (三) 勳章, 僧班又は品級  
僧位勳位勳章帯びた貴人達  
ホルデーノ(居るでのう)に本門講社の自慢

ORDINAR'A 通常の, 並の

並の松の祥雲閣にオルデナーラ(居る爺なら)  
何れ通常の人であるまい

ORDON'I 命す, 命令す

雨漏りのしてオールドーエ(をる壁に)和尚が  
大工を呼んで修繕を命す

OREL'O 耳

耳澄んで居る真人世の音オ(を)  
レーロ(玲瓏)玉の聲を聴き入る

ORF'O 孤兒

澤山に孤兒オールフ。(居る方)を尋ねつゝ  
拾ひあつむる小子部の臣

ORGAN'O (一) [生] 器, 器官, (二) 機關, 機關新聞

生物の器官機關新聞を  
以てオルガーノ(舌のが能)動活躍

ORGANISM'O (一) 有機體 (二) 組織, 機構

有機體團體組織を企て  
オルガニースモ(居る蟹文)字のエス團

ORGANIZ'I (一) 組織す, 編成す, 構成す, 創立す, (二) 生氣

學會を創立すべく有志者が  
集りオルガニース。(居るが二次)に組織す

ORGEN'O 風琴, オルガン

幼時から記憶してオルゲーノ(居る藝の)うちで  
風琴オルガン最も堪能

ORIENT'O (一) 東, (二) 東國, 東洋

東洋の東の國はオリエント(遠離遠島)  
日出づる島の神仙の國

ORIGIN'O 本原, 起原, 出所

幽靈會社起原はオリギーノ(汚吏技能)  
頭にかざして建てたが本原

ORIGINAL'A (一) 本原の, 本來の, 創作の, 原造の, (二) 新

奇の, 新機軸の, (三) 奇抜な, 變な  
奇抜なる大本團にオリギナーラ(居る氣なら)  
世の本原の新奇の眞理教ゆ



- ORKESTR'O 樂隊, 囃方はした,  
樂隊や囃方のみ澤山に  
オルケーストロ(居る藝主徒勞)芝居も出來ず
- ORNAM'I 裝飾す  
荒れてオルナーミ(居る浪)を書き造り物  
裝飾すなり奉祝祭典
- ORTOGRAFIO [文] 正字法, 文字論  
正字法文字論をばエス語にて  
オルトグラフィオーと曰ふなり
- OS [語尾] 動詞未來形の語尾  
今生んだ猫の赤兒オスカメスカ  
未來でなくばさても分らぬ
- OSCED'I 欠伸びす  
群衆が欠伸する迄開會せぬ  
多勢込み合ひ尻オスツエーディ(押す杖爺)困る
- OST'O 骨  
打身傷醫者が局部を指先で  
一寸オースト(押す)骨にこたねる
- OSTR'O [動] 牡蠣かき  
牡蠣料理喰つて見やうと入百政へ  
行けばお客が詰りオーストロ(多過ぎる)
- OT [語尾] 受動分詞未來の語尾  
受動分詞未來の語尾をオト(落)さずに  
注意して言へエス語の談話

- OVO 卵  
鶏の卵を蒸して割つて食ふ  
オーボ(黄部)されとオーボ厭ふ小兒等
- OVACPO (一) [古羅馬] 小凱旋式 (二) 歡迎, 喝采  
オバツ, 一オ(お婆乳を)呑む兒を抱に歡迎の  
ために小凱旋式に列する
- OVAL'O [幾] 卵形  
オバーロ(お婆老)の頭に卵形の瘤出來て  
嫁は泣き泣きお醫者へ走る
- P**
- PAC'O 平和, 和親  
又しても世間戦争の氣配あり  
平和の神がパーツ,(罰を)當てたのか
- PACIENC'O 忍耐, 我慢  
神様のパツ, エーンツ,(罰得ん)する所をば  
忍耐力で漸く免かる
- PACIENT'O 患者 (醫師に對して)  
パツ, エーンツ(罰得ん)したのかこの頃醫者の家  
患者來らず困窮してゐる
- PACULO [植] バチリ (唇形科の芳香樹)  
芳香樹バチリは何か知らねども  
これパチューロ(は中老)人に不必要



PAF'I 射る 44 070

弓的を射る連中が矢を番へ  
弦を放てばパーフ命中

PAG'I 支拂ふ 44 070

パーギ(萩)の茶屋葡萄酒呑んだ酔さめて  
パーギ(剃ぎ)取的の金を支拂ふ

PAGOD'O 塔 (印度, 支那等の) 伽藍 44 070

この塔パゴード(は郷土)の穴太寺にある  
印度支那式塔に似しかな

PAG'O 頁, ページ 44 070

十頁五十頁は夢の間に  
八百ページ。吾は書くなり

PAGPO 小姓, 近習 44 070

お小姓が主人の命令間違つて  
思ひもよらぬバチーオ(恥を)かくかな

PAL'O 藁, 麥稈 44 070

秋近み藁のパーイロ(葉色)黄金の  
波打ち寄する如く見ゆめり

PAK'I 包む, 荷造す 44 070

パーキパーキと荷物を包む運送店  
荷造する様見るも勇し

PAL'A 蒼白き, 青ざめたる 44 070

むかつパーラ(腹)立つた時には蒼白き  
顔の色まで赤くなり行く

PALAC'O 宮殿 44 070

宮殿に詣で、祈り冤罪を  
バラーツ(晴らさう)とする人の憐れさ

PALAT'O [解] 口蓋, 上顎 44 070

急速にバラート前歯脱げてより  
口蓋骨の舌障り變る

PALETR'O 繪具板, バレット 44 070

繪具板必ず用意しておげよ  
明日の空はバレートロ(晴れて居らう)から

PALIS'O 杭 44 070

堤防が薩バリーツろうて(はり揃うて)崩れたり  
杭持つて来い修繕のため

PALISANDR'O [植] 紫檀 44 070

山路ですつパリサードロ(山盜賊)に紫檀棹  
奪られて藝者ベツをかくなり

PALM'O [植] 棕櫚 44 070

棕櫚帯持つて頭をパールモの(張る者)を  
播摩の守と仇名するなり

PALP'I 觸覺す, 觸知す 44 070

柔軟な手にてさパールピンピンと  
觸覺する度頭擡げる

PALPEBR'O [解] 眼瞼 44 070

眼瞼をばエスペラントで稱呼して  
バルペープロと曰ふぞ可笑しき



PALTO 外套, 外衣

現代はパールト(春)冬との區別なく  
紳士は何れも外套を被る

PAMFLETO 誹謗の小冊子, 悪口本

パンフレットは人を誹謗の小冊子  
エス語に之をバムフレートと曰ふ

PANO 麵麩

人は皆麵麩のみにては生きるを得ず  
宗教末パノ(派の)教でも食はねば

PANTALONO ズボン

このズボン少しく吾足に合ひ兼ねる  
パンタローノ(番太郎の)奴に與へむ

PANTER'O 〔動〕豹(亞細亞産の)

亞細亞産の豹は恰も山神の  
パンテーロ(番丁老)の如きものなり

PANTOFL'O 上靴, スリッパ

上靴やスリッパを脱ぎ店に歸る  
パントーフロ(番頭風呂)に浴つて息する

PANTOMIM'O (一)手まね, 身振. (二)身振狂言, だんまり芝居

手まね劇身振狂言する役者  
パントミーモ(麵麩と身服)得んが爲なり

PAP'O 法王, 羅馬法王

加特利區一パボ(派坊)王はおしなべて  
羅馬法王の配下なりけり

PAPAGO 〔鳥〕鸚鵡

姥櫻色香の残る未亡人  
鸚鵡これ見てババゴ家と鳴く

PAPAV'O 〔植〕罌子粟

罌子粟の花持つてお寺へ參るババ(婆)  
ボ(坊)主これ見て眼尻を下げる

PAPER'O (一)紙, (二)文書

文書また手紙に老女筆採りて  
御機嫌伺ひバペーロ(侍る)と書く

PAPILPO 〔昆〕蝶

蝶花を育てあげたる娘の子  
増長なしてバビリーオ(破非倫汚)なす

PAR'O 一對, 一足(靴なきの), 一挺(銃なきの), 一組(火箸なきの), 匹偶

遠路をば徒歩して來た田舎人  
一足の靴パロ(破露)する拇指

PARAD'I (一)〔軍〕分列行進す (二)見せびらかす

岩つバラデー(原で)進み兼ねたる軍隊が  
止むを得ずして分列行進す

PARADIZ'O 〔宗〕極樂, 天國

關ヶバラディーリ(原地藏)に禪被ぶせつゝ  
一休極樂天國を稱ふ

PARAFIN'O 〔化〕パラフィン

パラフィンは柔かい蠟の様なもの  
エス語に之をバラフィーノと曰ふ



PARAGRAFO 〔文〕(一)項、節(二)同上の符號

項節を正しく區別する文法

パラグラフ、(爬俱良法)ニエス語云ふなり

PARALEL'A 〔幾〕並行なる

大野パラレーラ(原玲瓏)花の匂ふ道

並行なるは二八の娘

PARALIZO 〔醫〕麻痺

精神の麻痺した鬚虎爺さんは

ザックバラリーゾ(雑)言を吐く

PARAZITA 寄生の、寄食の

朝つバラズ、たく(爺澤)山に養老院

寄生の蟻のやうにより来る

PARDONI 宥す、恕す

肱をバルドーニ(を張るごうに)も斯うにもならぬ奴

咎めをなさず宥す善人

PARENCO 親族、親類

舊惡がパレーンツ、(ばれん)するその時に

もみ消し運動してる親族

PARENIEZ'U (一)括弧(二)挿入句、註句、(括弧内の)

括弧内挿入句をばする文法

尻結パレンテーリ(結はれん態ぞ)見わけ

PARFUM'O 薫香、薫香物

腹のパルフ、ーモ(張る風も)なけれお尻から

薫香物がブンブンと出る

PARGET'O 嵌木、細工(床の)、嵌木床

嵌木細工俺より上手なものないぞ

威バルゲート(張る下等)の細工人かな

PARK'O 公園

ほのほの陽氣が立ちて公園に

パールコ(春小)供を連れて行くなり

PARKER'E 暗に暗んじて

神宮の前に向へばチョックバル(跪座る)

ケーレ(敬禮)は誰も暗に暗んじてゐる

PARLAMENTO 國會、議會

國會や議會に出で、頑バルラー(張る)

メントー(面倒)臭い事を持ち出す

PARODIO 戲翻、詩文 地口

パロディーオ(破呂字意を)並べて作る滑稽家

戲翻詩文を生命とする

PAROHO'O 牧師管區、教區

教區には不適任者と認めたら

牧師管區追パローコが良い

PAROKSISMO 發作、(病の)激昂、高潮、(病又は感情の)

感情の高潮または病熱の

發作をパロクスィースモ(八六九四五十百)と云ふ

PAROLI 話す

木枯に木の葉のパローリ散る如く

齒落ち話す事が苦しい



PARTO 分, 部分, 分け前

分過ぎて餘り威バールト(張るを)承知せぬ  
我町内の一部分でも

PARTER'O [劇] 平土間

平土間で劇を見ながら酒に酔ひ  
餘り頼バルテロー(張るで牢)に投げ込む

PARTPO (一) 黨, 同類, 社中, 班, 一行, (二) 相手方, [法] 原告又は被告, 當事者, (三) 黨一行原告被告相手方 [音] 部(樂曲の)

當事者どもはバルテロー(破流智を)出す

PARTICIP'O [文] 分詞

文法の分詞をエスペラント語で  
バルテツ、ローと稱呼するなり

PARU'O [鳥] 山雀ツグの類

四十から山雀の類山奥に  
潜みてバルロー(春を)待つぞ愛らし

PASI 過ぐ, 通過す, 經過す

紀の國の蜜柑林を過ぐる時  
いそかんバース, 風が吹き来る

PASAMENT'O 平打紐, 笹縁ササノヘ, レース(絹又は金銀糸などの)

今買った平打紐の立バサ(派さ)  
メント(面倒)の無きやう腰紐にせむ

PASER'O [鳥] 雀

小雀はなは榛はなの木の枝に数千バ(羽)  
セーロ(井籠)喬たけに止まり囀なげづる

PASIO 情, 熱情, 情慾,

熱情の寵つた人は世の中の  
貧しきものにシンバスイ、オー(心配を)する

PASIV'A 受身の, 守勢の, [文] 受動の, [財] 負債の

やつバスイ、バ(婆)が本當の事云ふさ  
受身の嫁が服従をする

PASK'O [宗] 復活祭

チガレートバースコ、バースコ喫んで居る  
復活祭に何のこさだい

PASKVIL'O 落首, 諷刺文

諷刺文落首を爲せバスクビ、ロー(ば直く横う)  
あらぬ噂の花が咲くなり

PASPORT'O 旅行免狀

旅行免狀折角貰ふたパスポールト(パス放棄ると)  
最早洋行の目的立たず

PAST'O (一) 糊, (二) 糊状の物, 煉物

姫糊をうすく伸バースト洗濯の  
衣類も柔はく肌障り良し

PASTEÇ'O コロツケ, 肉バイ

階段をコロツ、落ちてても汽車のバス  
テーチ。(丁重)に放さず手に持つてゐる

PASTELO 香錠, [藥] 錠劑

醫者が来て草根木皮をバステロー(ば捨ろ)山  
そして錠劑飲めを勧める



PASTINAK'O [植] オランダぼうふう

風薬 オランダぼうふうをキス語にて  
 パスティナーコ(葉酸小葉香)を稱呼して居る

PASTR'O 牧師, 僧

現代の牧師や僧はおしなべて  
 長い髪をば伸パーストロ(延ばす頭顱)

PASTI 歩む

一パシは車に乗れど山路は  
 テクテク歩むが趣味あるなり

PASTI 飼ふ, (家畜を) 牧す,

家畜をば放ち飼ふパシテ(須知)野にあり  
 花の園部を距る西二里に

PATO フライ鍋

フライ鍋油溢れて白煙り  
 パート立つ時お鍋おどろく

PATENT'O 専賣特許, 特許

偽品をバテント(ば店頭)に並べ暴利商が  
 専賣特許を人を詐る

PATOS'O [修] 激語

激語して宗旨敵を討たんぞす  
 パトーツ(罵倒僧)因の意地の悪るさよ

PATR'O 父

山海の恵みを受けし家の主未用草丁を青醬  
 父をパートル(ば頭老)を敬ひ仕ゆ

PATRIOT'O 愛國者,

愛國者赤心つくし朝夕に  
 パトリオート((覇取王統)の萬世を祈る

PATRIOTISM'O 愛國心, 愛國

愛國心深き人ほびパトリオ(覇取王)  
 テアスモ(地主も)の權利を守る

PATROL'O [軍] 巡察隊

何事かあらパトローク(ば浪々)する奴を  
 巡察隊の鶴の眼鷹の眼

PATRON'O (一) 守護神, 護國神, 守本尊, (二) 保護者, 恩主

守護神あらパトロノ(あらば徒勞の)事はせぬ  
 保護者も餘程樂であらうに

PAŪZO (一) 休止, 停息, 中止, (二) [音] 休止符

一旦は休止を爲して試し見し  
 さらパーウゾ(有象)無象は影かくすだろ

PAVO [鳥] 孔雀

立派なる玉を尾に持つ孔雀をば  
 エスペラントはパーボ(富有實)を云ふ

PAVIM'O 鋪石, 鋪料 (煉瓦, 木材, アスファルトなど)

鋪石を表門から敷詰めて  
 見たれパビーモ(美偉も)一入に増す

PEC'O 片, 碎, 一片, 一塊,

一片の土器の碎も考古學者  
 格ベーツ(別)大事に保存するなり



PEC'O 瀝青<sup>アスファルト</sup>, 松脂

ペーチ。ペーチ。と泥田のやうな冬の道も  
瀝青で固めりやチヤンと良くなる

PEDAL'O ペダル (自轉車, 風琴などの) 踏板, 踏子

風琴や自轉車などの踏板を  
調ペダーローに乗つて見て居る

PEDANT'O 街學者, 生物識

街學者知つた顔してエネ語をば  
エスベダントと云ふぞ可笑しき

PEDELO 寺院の小使, 大學の使丁

三ペデーロ(三平出ろ)呼ばれて寺の小使や  
大學の使丁走り出て来る

PEDIK'O 爪[見]虱 (二) 土中 鼠探して

爪の甲でペディーペディーコロしてる  
衣類にわいた虱探して

PEG'O [鳥] 啄木鳥<sup>ツグモリ</sup>

ペーゴペゴと頭や體を振りながら  
木に住む虫をあさる啄木鳥

PEJZAG'O 風景, 山水

もろこしの長ペイザーチ(平山上)の風景は  
東洋唯一のながめなりけり

PEK'I 罪を犯す(宗教又は道德上にいふ), 教に背く

宗教や道德上の罪を犯す  
賣主はペーキペーキ平げてやれ

PEKLI 鹽漬にす, 鹽水漬にす, 鹽藏す

名物の安ペークリ(平栗)を鹽漬に  
すれば一しほ重寶となる

PELI 逐ふ

曲津神猿世彦をば神人が  
スペーリオル湖の中までも逐ふ(靈界物語参照)

PELIKAN'O [鳥] 塘鵝<sup>カウ</sup>

塘鵝吾はまだ見ぬ鳥なれど  
ペリカーノーとエネ語云ふなり

PELTO (一) 毛皮外套, 裘衣, (二) 毛皮

指先で毛皮外套撫で見て  
よくも滑ペールト田吾作が云ふ

PELV'O (一) 鹽, 水盤, 水鉢, (二) [解] 骨盤

よくしやペールボ(喋る坊)主が淋しき道の傍に  
鹽廻しで人の金取る

PEN'I 努力す, 力む

残るもの唯一ペーニ(一兵に)至るまで  
努力すべしと乃木將軍の令

PENC'O ペニー (英國の貨幣)

英國のペニーと云ふ錢出して  
汽車のペーンツ(辨當)買つて食ふ客

PEND'I 懸りてあり, ぶら下つてあり, 垂れてあり

山中に装置した狐落し具に  
唯一ペーンディ(一遍で)懸りてありき



PENDOL'O 振子, さげふり

往來のペンドーロ(便道路)を廣く開作し  
振子をふつて案内をする

PENETRI 透入す, 穿入す, 徹底す, 見抜く, 洞察す

透入する燈火に見抜く巢の中の  
逸ベネートリ(逸平寝鳥)をしめて食ふなり

PENS'I 考ふ, ……なりと思ふ

物事を深く考ふ人なれば  
三通三ペーンス(三通推)考するなり

PENSIO 恩給, 年金

永の年官に仕わた報酬は  
一ペーンス、一オ(一片志意を)表はす恩給

PENT'I 後悔す

ペーンテ、を造らざりしを後悔す  
是だけ人出あると知らずに

PENTEKOST'O [宗] 五旬節

今年の五旬節の法會には  
是非に一ペンテコースト(一遍出越す)良い

PENTRI 畫く(彩畫に云ふ), 彩色す

ペーントリて水彩畫をば畫くにて  
寫生板をば持ちて家出る

PEP'I 鳴る, チツチツと鳴く(雀など)

庭前の松の梢にペービーと  
朝も早よから小鳥鳴る

PEPSIN'O [生理]胃液素, ペプシン

胃液素の缺乏したる人の胃は  
ペプス、一ノ(屁風小便の)變調を來たす

PER [前] を以て, を用ひて, にて

才子にて喋ベルを以て表面から  
賢明らしく見ゆる偽せ者

PERCEPT'O 知覺, 識得

知覺をばペルツェプトミエス語にて  
稱呼するなりエスペランティストは

PERC'O [魚] 鱸の類

美味さうに舌舐して鱸の類  
食ペールチ、ルチョン口腔が鳴る

PERD'I 失ふ, なくす

年々に山も畑もペールデ、注(減る地主)  
忽ち銀行の信用失ふ

PERDRIK'O [鳥] 鷓鴣

鷓鴣の小鳥をエスペラントにて  
ペルド、リ、一コと稱呼するなり

PERE'I 斃る, 滅亡す,

屁ペレーイけ(へべレケ)に酔つて斃る、身知らずは  
一家滅亡するのも知らぬ

PERFEKT'A 完全なる, 圓滿なる

完全なるペルフェクタす(鈴不策苦助)かる爲に  
皇大神の御前に献つる



PERFIDI 叛く, 裏切りす, 變節す, 賣る (友や國など)

水平社ペルフィーティ(尻流非事)を以て叛く  
世人の期待に全く裏切りす

PERGAMENO 羊皮紙

ベルガメーノ(波留船の)甲羅に擬ふ羊皮紙を  
以て聖書の表紙に造る

PERIOD'O (一) 期間(一定の) (二) [科] 週期

一定の期間が來ると神系病  
醜言しやペリオード(喋舌嘔吐)を備す

PERTONE'O [解] 腹膜

腹膜をペリトネーオーとエス語云ふ  
醫者が診断危篤とぞ曰ふ

PERK'O [魚] 鱸き

側近く待ペールコ(べる小)姓に命令し  
鱸の魚を買つて味ふ

PERL'O 眞珠

眞珠をエスペラントは稱呼して  
ペールローとぞ使用するなり

PERLAMOT'O 眞珠母, 青貝

眞珠母エスペラントは命名して  
ペルラモートと云つて使用する

PERMES'I 許す

旅客をば警官宿屋に出張し  
調ベルメース(べる名刺)で心を許す

PERONO 昇降段, 戸外段, (家の入口の階段)

我家の昇降段をペロペローノ  
瘠せた野犬が窺がつてゐる

PERSEKUTI 迫害す, 追迫す, いぢめる

よく滑ベルセクーティ(べる急く口)ながら腕力で  
迫害する奴澤山にあり

PERSIK'O [果] 桃

桃の實を食ベルスィーコ(べる小便)が澤山に  
寢床に出ると姥の心配

PERSISTI 固執す, 固守す, 頑張る

固執する意義をばエスペラントにて  
ベルスィースティと稱呼するなり

PERSON'O (一) 人物, 人(人格ある個人として), (二) [劇] 登場人物, (三) [文] 人稱

ペルローノ(喋舌僧)の人格よりも演劇の  
登場人物餘程優る

PERSPEKTIV'O (一) 遠近, 配景, (二) 遠景

ベルスペクティボ(消息すべく地方)の様子遠近の  
知己へ送る富士の遠景

PERUK'O 假髮かみ

首振れば滑ペルーコ(べるこ)ろげる安假髮  
舞台上で氣を付け馬の脚共

PESI 秤る

ペースィペースと警吏商店に出張し  
秤る度量衡の検閲をする



PESTO (一) [醫] ペスト, (二) 悪疫, 疫病

ペストをば豫防せんぞて衛生員

猫入らずにてペスペスト奪る

PETI 請ふ, 願ふ

ペーテ(平地)に坐して往來の人々に

救助請ふてる常習乞食

PETOLI ふざける, 悪戯す

若者はペトローリペトローリと長い袖

着けて娼妓にふざける醜さ

PETROL'O 石油, 燈用石油

石油の礦坑に年中出入する

ペトローロー(斃倒労働)者憐れなりけり

PETROMIZO [魚] やつめうなぎ

ペトロミーザ(斃途難溝)浸みて見れば澤山に

やつめうなぎがうごめいて居る

PETROSELO [植] オランダ芹

エヌ語にてオランダ芹を命名して

ペトロセローと稱呼するなり

PEZI 目方あり, 重さを有す

西洋の書籍は日本の書に比して

同ページ(頁)にも目方ありけり

PFENIG'O ペンニッヒ, (獨逸の貨幣凡五厘)

ペンニツヒは獨逸の貨幣凡五厘なり

エヌ語に之をプフニーゴと曰ふ

PI'A 敬神の, 信心深き, 敬虔なる

敬神の至誠一貫する人を

信心深きビーアの師と云ふ

PIANO ピアノ

ピアノをば神の御前に奏樂し

ピアノとしてエヌ語用ゆる

PICE'O [植] 樅, はりもみ

樅またははりもみの木を皮むいて

糸ビツオー(蝦杖を)作る老人

PIED'O 足

雪のみち遠く歩みて我が足は

氷のごとくビエード(冷通)しなり

PIEDESTAL'O [建] 臺, 基礎, (碑, 銅像などの) 柱脚

冬の日に臺石の上の銅像碑

夜は殊更ビエデスターロ

PIG'O [鳥] 鶺鴒, 肥前鳥

肥前ビーゴ(肥後)日向の國は鶺鴒の

最も多き靈地なりけり

PIGME'O 小人, 一寸法師

ビグメーオ(非具女男)小人の一寸法師さん

寄席の南瓜の舞踊るなり

PIK'I 刺す, 突く

二三ビーキ(匹)漸くに刺す生洲の鯉

冬のお客の馳走せんぞて







PIRATO 海賊

海賊の横行近頃猛烈と  
警告發するピラート(平戸)警察

PIROLO 〔鳥〕鷺<sup>2</sup>屬, てりうそ

鷺鳥が山から山へピローロー(飛浪々)  
處定めず移り行くなり

PIROZO 〔醬〕むなやけ

むなやけの激しき時に焼芋を  
喰へば益々身ピローゾ(疲勞ぞ)する

PISTI 春<sup>く</sup>, 春き碎<sup>く</sup>

泥道を歩みながらもピースティを  
轉げて途上に虎餅を春<sup>く</sup>

PISTAK'O 〔植〕ふすだしう〔果〕

ふすだしうなる果物の名稱を  
ピスターコーミエス語云ふなり

PISTOLO ピストル, 拳銃

ピストルをエスペラントの言語にて  
ピストーローミ稱呼するなり

PISTO 〔機〕唧子, ピストン, 活塞子

唧子器のピストン上下に動く時は  
澤山な水ピーシト出る

PIZO 〔植〕豌豆

豌豆の花の盛りの初夏の  
空に雲雀がピーピーゾ鳴く

PLACO 廣場(市中の空地)

ア、暑い市中の空地大廣場  
マ、涼みがてらにフルーツ(ぶらつ)いて見る

PLACI 氣に入る, 意に適ふ, 好く

ブランチ(不埒)なる下女が旦那のお氣に入る  
なぞと奥さんやき餅をやく

PLAD'O (一) 皿, 大皿, (二) 品(料理の)

ぶらブラード輕業師の曲藝を  
眼を皿にして手品見てゐる

PLAFONO 〔建〕天井

天井の裏に吊したブラフーノ(振らほうの)  
下駄に燕が巢をば懸けてる

PLANO (一) 圖面, 平面圖, 設計圖, 雛形 (二) 設計, 方案

あプレーノ(油の)染みたる紙に設計の  
圖面書くのは餘程困難

PLAND'O (一) 〔解〕あしのうら, (二) 底(靴なごの)

あしのうら底をば天に向けながら (置界物語参照)  
ブランドミ高姫智利の山見る

PLANED'O 〔天〕遊星, 惑星

此頃は雨もプラネード(降らねご)天上の  
遊星見れば光變れる

PLANK'O 〔建〕床

床の上三寸ばかり離れてる  
天上からプレーンゴ往生した奴



PLANTI 植う, 植付く,

春の田を植うるがために架け釣瓶  
野井戸に建て、プランティに汲む

PLASTRO 〔藥〕硬膏, 貼膏

ブラストロ(浮浪主頭老)酩酊の餘り頭割りで  
硬膏はつて苦い顔する

PLATA 平たき, 扁平なる,

平田をば出雲でプラータと呼んでゐる  
故にプラータは平たきなるべし

PLATANO 篠懸木ハシ

プラターノ(平田の)宮の境内に茂りたる  
篠懸木は世に鳴り響く

PLATENO 白金, プラチナ

プラチナ(不埒な)る金屬商もあるものだ  
天プラターノ偽物を賣る

PLAUD'I 水音をさせる, バチャバチャいさせる

ブラーウディ(浮浪爺)忍術使いが忍び込み  
仙水涉りて水音をさせる

PLEJ 〔副〕最も, 最も多く

プレイ(無禮)もの最も多く集まれる  
○團隊は最も悪しし

PLEKTI 編む, 組む, 結ぶ(髪を)

ブレークティ(振れ口)があるを目當に稗史編む  
原稿持ちて活字組む小僧

PLEN'A (一) 充實せる, 全き, 全部の, (二) 多く含める, 豊富に富める

充實せる智慧と全き徳あれば  
神にプレーナ(不禮な)行爲はせず

PLEND'I 不平を云ふ, 苦痛を訴ふ, こぼす

無二膏をば幾何はつても腫れ物が  
少くも潰プレーンディ不平を云ふなり

PLET'O 盆, 盤

盆持たず手掴みで客に茶を進む  
下女をプレート(不禮に)叱る親方

PLEZUR'O 愉快, 快感, 悦び

迷信にかプレズーロ(被れず老)後を愉快氣に  
悦び暮す真人の徳

PLI 〔副〕より, より多く, 一層

去年より又より多く丹後プリ(鱒)  
豊漁のため安價に買へる

PLIK'O 〔醫〕糾髮病

美人プリーコしらへ(振り装へ)立派にして居れど  
糾髮病で人に嫌はる

PLOR'I 泣く, 涕泣す

迷子が橋の袂に泣く見れば  
プローリプロリと涙してゐる

PLOT'O 〔魚〕諸子鱒サマの屬

夏川の諸子鱒をば釣り上げて  
防腐の爲に火に焙プロートする



PLU 〔劇〕 更に、もつと、其上に

今更に利巧ブル(振る)奴氣が利かぬ  
もつと捨てまきや世から捨らる

PLUG'I 鋤く

百姓の僕ブルーギ(古着)身に纏ひ  
牛の後から春田鋤くなり

PLUM'PO 〔一〕羽, 羽毛, 〔二〕ペン

新人ブルーモのは(振る者は)鷺鳥の羽のペン  
使つて洋紙に手紙書いてる

PLUMB'O 鉛

鉛なす極道息子のブルームボ(ブルん坊)  
活字拾ひも碌に出来ない

PLUV'I 雨ふる

暖かき雨ふる春の野邊の色  
いと新らしくブルービ(古び)たるなし

PNEUMATIK'O 〔理〕氣體學

氣體學理學上からエス語にて  
 Pneumatik'oo と稱呼するなり

PO 〔前〕 づつ, の割合で

九年ホ(母)九人の子供に一づつの割合で  
與れば決して苦情起らず

PODAGR'O 〔醫〕脚痛, 足痛風

脚痛で行く足元もホダーホダー  
ゲロ(苦勞)の多い因果者かな

POEM'O 詩, 韻文

俗歌より韻の立派な詩の聲は  
一ポエーモのみやびやかにて

POENT'O 点数(トランプの)

トランプの点数他より數百ホ  
エーント(得んこ)力む勝負連中

POET'O 詩人

彼の女こそ戀の白蓮大詩人  
指雙外道の著者とおポエート(覺るこ)る

POEZI'O 〔一〕詩(藝術としての), 〔二〕詩才, 〔三〕詩集

藝術としての詩また詩才詩集をば  
ポエズーオーとエス語曰ふなり

POLEMIK'O 筆戦, 論争(新聞紙上などの)

新聞紙雑誌の上の論争や  
筆戦などをポレミーコと曰ふ

POLIC'O 警察

澤山のポリーツ,(ポリスを)使ふ警察は  
人民保護を標榜してゐる

POLIGON'O 〔植〕蕎麥, 麥屬

エス語にてポリコーノと稱呼するは  
日本語の蕎麥の名詞なりけり

POLITIK'O 政治學, 政治, 政略

ポリテーコ(捕吏屯公)政治學をば振りかざし  
政治家振つて居るぞ可笑しき



POLK'O ポルカ(一種の舞蹈)

ポルカは一種の舞蹈面白い  
おぎりに溺ポールコ(ほる心)戒しむ

POLUR'I 光澤を出す, 磨く, 研ぐ

光澤を出す爲に諸道具磨くなる  
椋の葉ポルーリ木枯に散る

POLUS'O 極

今の世は黄金萬能の極なれば  
ポルーリー(ほる相)談のみぞやかまし

POLV'O 塵, 埃

塵埃捨場に尼僧忍び行き  
四邊うかがひポールボ(棄る坊)の産兒

POM'O 林檎 [果]

ポーモ(坊も)また一つ欲しいと云ひながら  
林檎畑に飛込む小供

POMAD'O 髮油, ポマード

書生ッポマードして(まあ如何して)美しくなつたか  
頭を見れば光る髮油かな

PONARD'O 短劍, 匕首

ほつポナールド(懐中なる道)具何かと調べ見れば  
不良少年短劍を呑む

PONTO 橋

板橋を渡りて行けばほんポント  
響くなりけり一足毎に

POPL'O 白楊, ポプラ

珍の原白楊の枝に引かゝり (靈界物語参照)  
黄金の珍ポー(寶)プロプロ揺れる

POPOL'O 民, 人民

耶蘇教の先ボ(鋒)ポーロ(人名)は神の民  
人民のため石にて殺さる

POR [前] 爲めに, に對して, に取りて, だけ(價額なき)の間

(時間), [接]……せんがため, ……するには  
辯護士が謝金ポル爲めに被告人に  
對して種々の問題持ち出す

POR'O 細孔

悲みの果てはポーロポーロ眼瞼の  
細孔もれて涙流るゝ

PORCELAN'O 磁器

磁器の名はエスペラントの名詞には  
ポルツェラーノと稱呼してゐる

PORCFO 一人前, 分量 (食物の)

一人前昇ポルツィーオ(ほる地位を)得んとして  
日々食ふものの分量まで減らす

PORD'O (一) 戸, 扉 (二) 出入口, 戸口

出入口戸まで破れて雨毎に  
ポールド(破露路戸)となりし貧人の家

PORFIR'O [地] 斑岩

青礫斑岩以て造りたる  
ポルフィーロ(寶珠富色)の寶献上する



PORK'O [動] 豚

石瓦除いた外は何物も

ポールポールコなす豚かな

PORT'I (一) 持運ぶ, 運搬す, (二) 携ふ, 着てゐる (衣服を)  
被つてゐる (帽を), 穿いてゐる (靴なごを), (三) 耐

變災に應じて物品持運ぶ

兇器携ふポールティ坊

PORTER'O ポルター (英國のビール)

英國のビールポルターエス語にて

ポルターローと稱呼するなり

PORTRET'O 肖像

極道の肖像ながめ親父さん

怠ポルトレート(さほる通例)顔をしかめる

POSED'I 所有す

所有する資産残らず独占の

亂ボセーティ(亂暴政治)を主張する奴

POST [前] の後<sup>2</sup>に, の後<sup>2</sup>に

手紙投げ歸る使ひの後には

黒いポストが獨り立つてる

POSTEN'O 持場, 受持, 職, 任 [軍] 哨所

受持ちし持場教會治まらぬ

擔任教師のポステーノ(坊主低能)で

POSTUL'I 要求す

本山のポストーリ(坊主通り)なる布施呉れ

末寺坊主も要求するなり

POŠ'O ポケット, 衣囊<sup>レ</sup>

洋服のポケットの内に在る名刺

見ればポーシ(某署)の査公なりけり

POŠTO 郵便

葉書では無禮なれば郵便を

封書で送るポーシュト(保守黨)爺さん

POTO 壺, 瓶, 缸

酔ひざれが騒いだ揚げく壺瓶を

ポート投げやる亂暴狼籍

POTAS'O [化] 苛性加里, ポッタース, 炭酸加里

ポターツは苛性加里のエスペラント語

うつかり呑めば生命失ふ

POTENCA 力ある, 勢ある, 権力ある

梅ヶ谷蹴足で逃げる力ある

肥わたポテーンツ(布袋奴)〇〇に在り

POV'I 出来る, 能ふ

ポービ(防備)が出来るかどうか疑はし

大震災で潰れた砲臺

POZ'I 姿勢を作る, 容儀を正す, らしき見ねをする

ポーズ(房事)を行ふたらしき見ねをする

落語家舞臺で姿勢をつくる

POZICTO 位置, 地位, [軍] 陣地

ポズィツィーオ(防水地位を)何れの位置に定めん

村會議員が堤防巡視す



POZITIV'A (一) [哲] 實證の, (二) 積極の, [電] 陽の, [數] 正の

ボズィティバ(防水地場)定まり實證の了へた後  
皆積極の設備初むる

PRA— [接頭] (時間的に遠き意を示す)

ブラブラミ時間を空費する人は  
此世の中の穀潰しなり

PRAKTIK'O 實地應用, 活用, 實用, 實習

農村に灌漑筒を活用し  
プラクティコ(部落地兒)が實地應用

PRAM'O 渡船, 平船

プラーモの(浮浪者)身の置き處失ひて  
渡船守となりうき世を渡る

PRAV'A 正當なる, 正しき, 誤なき

プラーバ(浮羅婆)四國巡禮企てた  
正當なる理由なげきも嫁が憎さに

PRECIPE 殊に, 就中, 主に

國法にかプレツィーベ(かぶれてべ)けをして  
殊に尊き功勞章得る

PRECIZ'A 正確なる, 明確なる, 精密なる

正確なる調査を了へて長官が  
プレツィーザ(府令途雜)誌に載せて告示す

PREDIK'I 説教す

彼岸會に説教するを市中へ  
坊主はブレディーキ(觸れ時期)待つて

PREDIKAT'O [論] 賓位, [文] 説述部, 從部

論理學の賓位文法の説述部  
エクスプレディカト曰ふ

PREFEKT'O 知事

内相の怒りにプレフェクト(觸れ屁苦間)  
いろいろとして知事になるかな

PREFER'I 選ぶ, 寧ろ, ……を好む, ……の方を取る

忽ちに潰プレフェリ(ぶれ減り)の無い品を  
好むは人の選ぶ所ぞ

PREFIKS'O [文] 接頭語

文法上プレフィケツは接頭語  
エクスプレラントの稱呼なりけり

PREG'I 祈る, 祈禱す

信徒は顯曲二界の律法は  
プレーチ(觸れじ)ものご朝夕祈る

PRELAT'O [宗] 管長, 教長, 高僧

宗教の管長は部下を監督し  
プレラート(布令等統)御の役に任ずる

PRELUD'O [音] 序曲

音樂の序曲を下手に奏づれば  
忽ち耳にプレルード評子

PREM'I (一) 壓す, 壓迫す, 壓搾す, (二) 握り締む, 抱き締む, (三) 虐ぐ, 苦むる

人を壓す虐ぐ翠丸握り締む  
プレーミ(無禮自)づから成せる陶器窓



PREMI'O (一) 賞, (二) 景物, 添物, プレミアム

神の道教に對し**プレミーオ**(無禮身を)  
賞し景物に上級させる**陶器慾**

PREN'I 取る, 手に取る

**プレーニ**(無禮に)も教主奪ひ取る虚報をば  
手に取る如く新聞に出す

PREPAR'I 用意す, 準備す, 支度を整ふ

**プレバリー**(無禮罵詈)して用意す新紙  
陶器慾者世人の批難防がんに

PREPOZIC'IO [文] 前置詞

エス語にて文法上の前置詞を  
**プレボズィツィーオ**と稱呼するなり

PRES'I 印刷す

**プレースィ**(布令紙)なきを印刷する職工  
無味乾燥とつぶやいて居る

PRESKAŮ [副] 殆んど

**プレースカウ**(布令數頂)殆んど無用となりけり  
知事が變つて改正令出し

PREPA 用意せる, 身構せる, 將に……せんとする

不徳官將に紛亂せんとする自治政に  
用意せる**プレータク**(布令澤)山に出す

PRETEKST'O 口實, 託言, 名義

阿蘇山の勝景に**プレテークスト**(觸れて九州人)等が  
口實設くる小國天國

PRETEND'I 権利を主張す, 要求す

無茶苦茶に権利を主張する男  
**プレテンディ**(無禮轉爺)と人に嫌はる

PRETER [前] 沿ひて, 傍を通りて

川水に沿ひてうろろする男  
餘程精神**プレーテル**(氣がふれてる)と見ゆ

PREZ'O 代價, 定價

下されし品の代價を査ぶるは  
餘りの**プレーゾ**(無禮ぞ)と隠居戒め

PRESENT'I (一) 差出す, 提出す, 呈示す, (二) 示す, 表は

す, 表現す (三) 披露す, 紹介す  
直接に手紙差し出す**プレゼンティ**(無禮善智)識  
敬意を示す爲に寺僕に頼む

PREZID'I 統轄す, 司會す

一地方統轄するため知事公が  
**プレズィーディ**(布令自治)の政策發表す

PRI [前] に就いて, 關して

今回の事件に就いては我が不利と  
頭**プリプリ**振るおやぢかな

PRIMOL'O [植] 櫻草

久し**プリモーロ**(振り貰ふ)た土産は櫻草  
花も實も無い心知らるゝ

PRINC'O (一) 君主, 王(小國の)(二) 皇子, 親王 (三) 公爵

**プリンツィ**(プリント)して威ばつて居る怪國の  
君主に皇子公爵の從者



PRINCIP'IO (一)原理,原則,原論,主義,(二)素,精,元質

萬有の原理や素を研磨して

プリンツィーボ(富倫地歩)を占むる博士等

PRINTEMPO 春

春の日の陽氣に浮かされ青年が

公園内にプリンテームボ(不倫轉無法)する

PRISM'IO [幾]角柱,角壘,[理]稜鏡

角柱を四隅に建て、賑はしく

天晴れ大關ブリースモ(振り角力)取る

PRIVAT'A 私の,一個人の,内證の,私設の

信女プリパータク(振り婆澤)山に寺の堂で

私の一個人の佛だぞ云ふ

PRIVILEGI'IO 特權,特典

男プリビレギーオ(振り美麗妓を)待らすは

吾特權なりと今業平が曰ふ

PRO [前]の爲に(原因),に因りて,の結果として

父の死後伯父等のために遺産をば

捲き上げられてプロ(浮浪)するなり

PROBLEM'IO 問題,設題(學術上の)

問題と云へる名詞はエス語にて

プロブレモーと稱呼するなり

PROCENT'IO 百分比,利率

百分比エス語の名詞はプロツェント

番台女もプロツェント(風呂錢と)るなり

PROCES'IO 訴訟,訴訟行爲

公事訴訟負けて腹立て團三プロ(郎)下も家燕

ふ曰は人出と(大進)ツェーソ(進訴)して居る證據求めて

PROCES'IO [宗]禮拜行列

プロツェス(一オ(浮浪弟子を)集めて奇僧四國地を

ふ曰通照金剛と禮拜行列

PRODUKT'IO (一)生ず,産す,(二)製出す

名人は人の捨てたるプロド、ークテ(古道具で)

利益生ずる逸品製出す

PROFES'IO 職業,本職

戦争後プロフェス(一オ(浮浪兵士を)救ふため

職業紹介所をば開始す

PROFESOR'IO 教授

大學の教授の身こそ苦しけれ

プロフェロー(風朗閉窓籠)遊ぶ暇なし

PROFET'IO 豫言者

豫言者は何時も郷里に容れられず

されど靈肉プロフェート(不老平途)行く

PROFIL'IO (一)横顔,横顔の像,(二)[工]縦断面圖

瑞御魂横顔そつと窺へば

プロフィーロ(不老英雄)の俤ぞ見ゆ

PROFIT'I 利益を得,利用す,利す

プロフィーテ(富老曾祖父)番名利用する時は

利益を得ると悪い孫曰ふ



- PROFUND'A 深き  
 愆<sup>チン</sup>深<sup>シン</sup>き不孝息子を育てたる  
 プロフ<sup>フ</sup>、ー<sup>ン</sup>ダ(父老不運だ)と世人が曰ふ
- PROGNOZ'O [醫] 豫後  
 プロク<sup>ク</sup>ノー<sup>ノ</sup>ゾ(父老偶咽)腫れて病勢昂進して  
 豫後は不良とドクトルが曰ふ
- PROGRAM'O (一) 番附け, 次第書, 番組書 (二) 日割表, 日程  
 神界のプロク<sup>ク</sup>ラー<sup>ラ</sup>モー<sup>モ</sup>を調べれば  
 番附け日割表が記しあり
- PROGRES'I 進歩す  
 進<sup>シン</sup>歩<sup>ポ</sup>すと云へる動詞をエス語にて  
 プロク<sup>ク</sup>レー<sup>レ</sup>ス、と稱呼するなり
- PROJEKT'O 計畫, 設計, 案  
 吾プロ<sup>ロ</sup>エ<sup>エ</sup>ーク<sup>ク</sup>ト(父老永苦闘)して漸くに  
 世界改善計畫立てぬ
- PROKLAM'I 宣言す, 布告す  
 プロク<sup>ク</sup>ラー<sup>ラ</sup>ミ(父老倉見)て我亡き跡は兄妹が  
 財寶分配せよと宣言す
- PROKRAS'I 延期す, 繰延ぶ, 遅くらす  
 何處までも延<sup>シン</sup>期<sup>キ</sup>するのは當然だ  
 プロク<sup>ク</sup>ラー<sup>ラ</sup>ステ、(浮浪暮す爺)が會長だもの
- PROKSIM'A 近き  
 近<sup>シン</sup>き内プロク<sup>ク</sup>ス、ィ<sup>ィ</sup>マ(風浪來水魔)の用心を  
 せよと豫言者沿海に觸れる

- PROLOG'O 序言, 序詞, 開場辭, 前口上  
 プロ<sup>ロ</sup>ー<sup>ロ</sup>ゴ(父老々後)作り置いたる珍籍の  
 序言と前口上は自筆なりけり
- PROMEN'I 散歩す, 遊歩す  
 プロ<sup>ロ</sup>メ<sup>メ</sup>ニ(父老目に)眼鏡を箆めて孫を連れ  
 芝公園を散歩するなり
- PROMES'I (一) 約束す (二) …の見込あらしむ  
 プロ<sup>ロ</sup>メ<sup>メ</sup>ス、(父老名刺)用ゐて購賣約束す  
 ○○○の見込みあらしむ
- PROMONT'R'O 海角, 岬 (山又は岩角の突出せる)  
 海<sup>カイ</sup>角<sup>カク</sup>のや<sup>ヤ</sup>ぶ<sup>ブ</sup>頭<sup>トウ</sup>を振り立てよ  
 プロ<sup>ロ</sup>モ<sup>モ</sup>ント<sup>ント</sup>ロー(浮浪門徒老)僧が行く
- PRONOM'O [文] 代名詞  
 代名詞<sup>ダイメイジ</sup>エス<sup>エス</sup>ペ<sup>ペ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ントは改稱して  
 プロ<sup>ロ</sup>ノ<sup>ノ</sup>ー<sup>ノ</sup>モと云つて用ゆる
- PROPAGAND'I 普及せしむ, 弘布す, 傳道す  
 神教を普<sup>フ</sup>及<sup>キ</sup>せしむる救世主  
 綾の聖地のプロ<sup>ロ</sup>パ<sup>パ</sup>ガ<sup>ガ</sup>ン<sup>ン</sup>ディ(富老婆眼慈偉)
- PROPON'I 申込む, 申し出づ, 提議す, 提供す  
 白蓮を預り呉れと申<sup>シン</sup>込<sup>コ</sup>む  
 青苔庵のプロ<sup>ロ</sup>ボ<sup>ボ</sup>ー<sup>ノ</sup>ニ(不老法尼)まで
- PROPORCI'O 割合, 比準, 權衡, [數] 比例  
 喧嘩して頭割<sup>ウチ</sup>合<sup>アヒ</sup>ふたその跡に  
 プロ<sup>ロ</sup>ボ<sup>ボ</sup>ル<sup>ル</sup>ツ、ィ<sup>ィ</sup>オ(ポロポロ血を)溢ほしてありき



PROPR'A 固有の, 持前の, 自己の, 特有の, 獨特の

フローラを遊んで暮す極道もの  
天性固有の魂が出て

PROSPEKT'O (一) 趣旨書, 目論見書 (二) [續] 踏査

屁の様な趣旨書を配る周章者  
プロスペクト(風浪洲屁糞土)の臭気紛々

PROSPER'I 旺なり, 榮ねてあり, 隆盛なり, 順境にあり

雄辯なプロスペリ(富老滑べり)口繁く  
勇氣益々旺なりけり

PROTEKT'I 守る, 防ぐ, 保護す, 擁護す

プロテクト(風浪低空地)飛行機は御國を守る  
外敵を防ぐに必要な軍器なりけり

PROTEST'I 異議を唱ふ, 抗議す, 拒絶す

家屋敷賣らんとすれば奮然な  
プロテステ(父老亭主爺)異議を唱ふる

PROTOKOL'O 調書, 議定書

調書をば作製せんと欲すれば  
プロトコロ(浮浪處)の知れぬ人物

PROV'I 試む, ためす

老人組毎日清遊試むる  
休日をしてフロービ(父老日)を曰ふ

PROVERB'O 諺, 俚諺

諺を云へる名詞はエス語にて  
プロベールホーを稱呼するなり

PROVIDENC'O 加護(神の), 攝理, 神意

神々の加護に由りてぞなやみ居し  
プロビデーンツ(父老尾臀痛)を忘れ玉ひぬ

PROVINC'O (一) 州, 國, 省 (二) 地方, 田舎

各州の地方を巡るプロビーンツ(浮浪貧黨)  
殊に四國は好き得意なり

PROVIZ'O 貯蓄, 用意

資産家のプロビーズ(富老美裝)し美味を食ふ  
貯蓄豊かな樂隠居して

PROVIZOR'A 一時の, 假の

米相場騰つて俄にプロビゾーラ(富老美裝羅)  
驕るも一時の夢となりぬる

PROZ'O 散文

散文や詩歌に秀でし文士をば  
風雅の道のプローゾ(富老ぞ)を曰ふ

PRUDENT'O 分別, 思慮, 用心

學者ブルデント(振る電燈)老爺が分別も  
思慮をも爲さず藝者に狂ふ

PRUJN'O 霜

身ブルーイノ(振いの)する程寒き冬の朝  
起出て見れば霜ぞ積れる

PRUN'O 梅[果]

木々の枝冬の寒さにブルーノ(慄ふ野)に  
梅のみ獨り知らず顔なる



PRUNEL'O [植] こすもも [果]

肩をブルネーロ(振る寝ろ)ねろミ子守歌  
こすももの木の下に聞こゆる

PRUNTI 貸す, 借る

貸す借ると云へる詞はエス語にて  
ブルンティとぞ稱呼するなり

PRUV'I 證す, 證明す, 證據立つ

ブルービ(古び)たる書巻箱から探し出し  
家系の尊を證する百姓

PSALM'O [宗] 讚美歌, 聖詩

信徒が七ブサールモ(七分去るも)讚美歌の  
聲聞き付けて再び歸り來

PUBLIK'O 公衆, 公共

公衆と云へる名詞はエス語にて  
プブリーコーとぞ稱呼するなり

PUDEL'O スパニール種の犬

スパルニール種の犬をばエスペラントにて  
プデーロとこそ稱呼するなり

PUDING'O プディング(蒸菓子の類)

蒸菓子のプディングをばエス國にて  
プディンゴーとぞ稱呼するなり

PUDR'O 白粉<sup>ル</sup>, 化粧粉

白粉を着けたる美人ブードロ(風盜)が  
夜の都に徘徊ぞする

PUF'O 膨れ, 膨らみ(衣服なごの), 膨れ襪, 空氣枕

プーフ, と連發したる屁の音に  
膨れた腹も小さくなりけり

PUGN'O 拳, 拳固

プーグノ(武具の)鐵扇よりも拳もて  
なぐつた方が餘程こたへる

PUL'O [昆] 蚤

我肌を蚤に刺されて腫れ上がり  
餘りかゆさに朝プーロ(風呂)に浴る

PULCINER'O 道化操り人形(伊太利大道芝居の)

ブルチネーロ道化操り人形で  
伊太利國の大道芝居ぞ

PULM'O [解] 肺

火と水の息つかさざる肺臓を  
プールモ(風雨流網)とエス語云ふなり

PULS'O [生理] 脈搏, 鼓動

がたがたと身をプールリ(振る僧)の脈搏を  
調べて見ればおこり震てる

PULV'O 火藥

此寺に火藥を隠して居るだろと  
問はれて驚きプールボ(慄う坊)主等

PULVOR'O 粉末, 細末

水囊で堅横にブルポーロポロと  
抜けて出るなり麥の粉末



PUMIK'O [鑛] 輕石, 浮石(軽石) ある種 浮遊 する

噴火山ブミーコ(踏み越)に登る脚下に、  
ゴロ付いて居る輕石の數

PUMP'I ポンプにて水を揚ぐ, 汲み出す 揚ぐ 汲み出す

ポンプにて水を揚ぐるを形容して  
プームビ(風無火)とぞキス語云ふなり

PUNI 罰す 罰す

國プーニ(風に)従ひ外國犯人の  
罪を罰する獨立強國

PUNC'O 深紅色 深紅色

ぶんプーンツ(ブンブン)菊の畠が匂ふでる  
深紅色の花が開いて

PUNC^O ポンス(飲料) 飲料

プーンチ(芬著)なる飲料水が欲しくなり  
バーに立寄りーポンスを見る

PUNK'O 點, 句點 點 句點

神典を著作する時十二ブーン(分)  
クト(句讀)點をば注意して書く

PUNT'O レース レース

レース(泥酔)した人の跡から道行けば  
ブーント熱肺の匂ひするなり

PUP'O 人形 人形

人形の様な美し顔をして、  
人が居らねば尻からプーホ

PUPIL'O [解] 瞳瞳, 瞳孔 瞳 瞳孔

プビーロ(分廣い)眼瞼の中にキラキラと  
黒い瞳が底光つて居る

PUPITR'O 簿記机, 寫字檯, 樂譜載等(斜面を有するもの)

簿記机名詞はエスペラントにて  
プビートロと稱呼するなり

PUR'A 清き, 清潔なる, 純粹の, 無垢の

プーラブラ(無垢)の男の子手を曳いて  
終日清き遊覽をする

PURPUR'O 紫色 紫色

プルプーロ(震ひおの)のき唇も  
紫色に變りてぞ居る

PUS'O [醫] 膿, 膿汁 膿 膿汁

膿汁が身体一面滲み出だす  
扱もプーリー(物騒)な面付きなるかな

PUSTUL'O [醫] できもの できもの

できものを潰プスト(頭顱)ーロ血が流れ  
膿が溢れて兩眼に入る

PUS'I 押す, 衝く, 推しやる 押す 衝く 推しやる

プーシブシ(尻押す)奴が現はれて  
ヘグレ神社を邪神が祭る

PUTO 井戸 井戸

ふうプートお井戸の穴から吹き出だす  
科戸(科戸)の風のいと臭きかな



PUTOR'O [動] 臭猫

はプーロミ草に潜みて臭猫が  
いとも神妙に窺ひ居るかな

PUTRI 腐る, 腐敗す, 朽つ

溺死者の身体見れば恐しや  
太鼓のやうにプートリ(太り)腐る

## R

RABI 奪ふ, 劫掠す

わラービ狩突然千々岩現はれて  
川島浪子の心膽を奪ふ

RABARBO [植] 大黃ダイオウ

はラパールボ(腹張る坊)の胃病を癒さんぞ  
大黃末を服用せしむる

RABATI 値引す

あラバーテ(新鉢)まだ其儘しるものの代物を  
値引するのは眞平御免

RABENO [宗] 夫子, 先生 (猶太講法博士尊稱)

わラベーノ(章の)智能を啓發するために  
孔夫子の道を教ゆる先生

RABO [醫] 狂犬病, 恐水病

飼犬が狂犬病に罹りしか  
人を見る度荒ラビーオ(らび雄)たげぶ

RABOT'I 鉋にて削る

檜のはしラ(柱)ボーテ、らほていと棟梁が  
鉋にて削る大宮普請

RACIO [哲] 理性, 辨理力

人情に淺く理性に富む人は  
何事もよくラツィーオ(塔を)付ける

RAD'O 車輪, 車

行列の車輪の音の聞ねてゆ  
うラード(裏戸)開けて覗き見る下女

RADPO (一) 光線, [理] 輻射線, 放射線 (二) 輻(車の)

萬病に効くぞふラディーオ(ラジオ)シンターは  
吞めば腹中光線が刺す

RADIK'O 根, 根本 [數] 根 [文] 語根

信するに足ラディーコ(らじこ)北の根なし草  
根本からして邪神の教 (靈界物語参照)

RADIKAL'A (一) 根本の, 根源の (二) 過激の, 急進的の

根本のあラディカーラ(荒力)無い癖に  
いつも過激の言辭を弄する

RAFAN'O [植] だいこん

だいこんの皮膚の如きしラファーノ(白歯の)  
美人と見れば入歯なりけり

RAFIN'I 精製す, 精煉す, 醇化す

海藻草あラフィーニ(洗ひに)洗ひ白に搗き  
冬の霜夜に寒天精製す



RAJDI 乗りて行く (馬なきに), 騎す 騎す

落<sup>ラ</sup>イ<sup>デ</sup> (雷で)友の家危急を聞きしより  
見舞の爲に馬に乗りて行く

RAJTO 権利

権利義務なきの法理に暗<sup>ラ</sup>イト  
法治國には立つて行けない

RAKET'O (一) 狼煙<sup>ラ</sup>, 打上花火 (二) ラケット (ローン  
テニスの)

そラケット(そら京都)變事があるに違ひない  
伏見の山に狼煙が土る

RAKONTO 物語

筆録者ラ(等)コ<sup>ラ</sup>ント(根<sup>ラ</sup>)智力を發揮して  
一句漏らさず物語記す

RAMN'O [植] 鼠李<sup>ラ</sup>属

英雄の兒<sup>ラ</sup>ムノ(等無能)の者ばかり  
鼠李属のやうな小膽

RAMPI 這ふ, 匍匐す, 爬行す

ラ<sup>ム</sup>ビ(濫費)をば節する爲に禿老翁  
夜な夜な下女の〇〇に這ふ

RAN'O [動] 蛙

う<sup>ラ</sup>ノ(裏の)田に蛙の奴が丸裸  
跣足の儘でガアガアを鳴く

RANC'A わる臭き (脂肪牛酪なきの)

牛酪や脂肪の腐<sup>ラ</sup>ンツ(らんとする)ものは  
一人わる臭き匂ひするなり

RAND'O 邊<sup>ラ</sup>, 縁<sup>ラ</sup>

邊緣も半ば破れし伽<sup>ラ</sup>ンド(藍堂)  
雨風の時は心もむなり

RANG'O 位, 階級, 身分, 上流

貴族院變<sup>ラ</sup>ンゴ(亂五)爵位記拜し  
歌辭を弄する上流階級

RANUNKOL'O (植) 毛茛<sup>ラ</sup>

毛茛名詞は<sup>ラ</sup>ヌンコーロ語で  
ラヌンコーロと稱呼するなり

RAP'O 蕪菁<sup>ラ</sup>, 大根

は<sup>ラ</sup>ポ(腹布)袋尾張大根天王寺  
蕪菁のやうに太つて居るなり

RAPID'A 速<sup>ラ</sup>

傳染の速<sup>ラ</sup>チブスに惱まされ  
は<sup>ラ</sup>ビーダらだら(腹びいだらだら)雪隠へお千度

RAPIR'O 試合刀, 稽古刀

試合刀持つて武術の勝負には  
野ば<sup>ラ</sup>ビーロ(原廣)場を取つておくなり

RAPORT'I 報告す, 復命す, 報道す

何事に由らず報告する名詞  
ラポールテにぞ<sup>ラ</sup>ポール語曰ふなり

RAS'O 人種, 民族, 種族

人種論いとも盛んに唱導し  
敵國の恨み晴<sup>ラ</sup>ソとす



RASP'I 擦りへらす, 擦す

がラースピン(硝子瓶)缺けら子供が弄び  
手水石鉢擦りへらすなり

RAST'I 搔く(熊手にて), 掻き寄す

熊手にて搔く枯松葉澤山に  
苔さへ減ラーステ(らす庭)の中まで

RATO 鼠

天井うラート(裏)表部屋との區別なく  
荒れまはりて困らす鼠

RAUK'A 嘔聲の

嘔聲の響ラーウカ(廊下)に聞えけり  
また高姫の來りしなるらん (靈界物語参照)

RAUP'O (昆) 蝶蛾などの幼蟲, 毛蟲, 青蟲, 芋蟲

ラーウボは蝶と蛾などの幼蟲の  
エスペラントの名詞なりけり

RAVI 夢中にす, 心を奪ふ, 恍惚たらしむ, 迷はす

荒ラービ(らび)たる行爲を夢中にする男  
是は鹿太郎殺人狂病

RAZI 剃る, 剃つてやる

頭剃る事は滅多にあラース  
覺悟して居た戀の自蓮

RE— [接頭] [再び, 復た, 元に戻る]の義

時節來て再び復た元に戻るの義  
覺りて喜び神にレ(禮)云ふ

REAL'A 眞の, 實の, 現實の

是レアーラば眞の經綸が判るだらう  
皆現實の神書なりせば

REBUS'O 判じ物, 判じ繪

判じ物町の角々に出してある  
いづレブーリ(何れ物騒)な事があるだろ

RECEPT'O 處方書, 獻立書, 仕様書

ドクトルの處方書又御馳走の  
獻立書をばレツェープト(列榮富登)と曰ふ

RECIPROK'A 互の, 相互の, 交互の

お互の爲にレツィプロカ(列位富老家)が  
合名會社を創立してゐる

REDAKCPO 編輯局, 編輯員(全體を曰ふ)

編輯局編輯員の全體を  
レダクツィオ(泥濁對汚)とエス語曰ふなり

REDAKTI (一) 編輯す (二) 記述す

レダークティ(泥濁智)三文々士が糊口のため  
我樂多文章を編輯するなり

REDAKTOR'O 編輯人, 記者

刊行物の編輯人はおしなべて  
レダクトーロ(泥濁頭顱)の人物多し

REF'O [海] 縮帆部(帆の), 帆部

眞帆片帆レーフ(冷風を)受けてバタバタと  
翻へりけり縮帆部まで



REFORMACTO [史] 宗教改革 (十六世紀歐洲に於ける)

十六世紀歐洲に於ける宗教の  
改革史をばレフ・ルマツィーオ(靈放流魔智汚)と曰ふ

REFUTI 辯駁す, 駁撃す, 抗論す

偏論を根本的に辯駁す  
レフーティ(靈富智偉)なる三五教主が

REG'I 治む, 支配す, 統治す

治むるも支配するの世の中は  
レーギ(禮義)守るを第一とす

REGALI 馳走す, 襲撃す

珍客を馳走するため和知川に  
大小無数のヒレガーリ(鯨狩)する

REGIMENTO 聯隊

聯隊の兵士はレギメーントー(禮義面倒)と  
思はず厚く上官に仕ゆ

REGIONO 地方, 界限, 部位

能ふ限り盡せるレギオーノ(禮義王の)前に  
拜跪してゐる地方長官

REGISTR'I 登録す, 登記す, 記入す

死生簿にレギーストリ(靈偽巢盜史)の幽籍を  
登録すべく記す守衛等

REGNO (一) 國, 國家 (二) [博] 界

露國より車夫を國家の干城と  
レーグノ(禮遇)の爲に年金送り來れり

REGOL'O [鳥] 鶴鷓鴒

日暮レゴロー(頃)庭の繁みに鶴鷓  
宿を求めてチヨンチヨンと鳴く

REGUL'O 規則, 正規, 法則

神界の規則に照らさレゲーロー(愚老)は  
恐れて居る高姫が曰ふ (靈界物語参照)

REG'O 王, 國王

小糸姫鬼熊別のレーヂ(令嬢)は  
一つ島にて王となりけり (靈界物語参照)

REKLAM'O 廣告

家も田も破レクラーモ(れ庫も)賣りますと  
家資分散の廣告をする

REKOMEND'I (一) 推舉す, 推薦す, 薦む (二) 書留にす

會長に推舉するに郵便を  
書留にすレコメーントー(靈狐面爺)さん (郵便)

REKOMPENC'I 酬ふ

神恩に酬ふと思ふ赤心を  
眞レコムベーンツ(靈魂辨知)し給ふ

REKRUT'O 新兵, 補充兵

満期終へ放たレクルート(れ來る)新兵も  
郷里に歸り酒色に耽る

REKT'A (一) 眞直なる (二) 直接の

眞直なる神の教を守りなば  
レークタ(レクタ)する(靈苦助る)直接の内流



REL'Ō レール, 軌條

二筋のレールの上を滑り行く

レロ(玲瓏)玉なす御召しの列車

RELIEF'Ō 浮彫, 浮出し, 盛上げ

浮彫の技術は優レリエーフ(鋭鋒)の

光は鏡像の色に見わける

RELIG'Ō 宗教

宗教の教義ゆ優レリギーオ(れり義意を)説く

三五教の靈妙の法

REM'Ō 漕ぐ

漕ぐ船のやつレーミ(れ見)にげり雨風は

曝され腹は筋斗りにて

REMBUR'Ō 詰め込む(毛藁なごを)

毛藁なご詰め込む夜具に横臥して

レムブーリ(戀風裏)中に悩む肺病

REMPAR'Ō [軍] 城壁, 堡壘

城壁に續くレムパーロ(煉馬路)しもしも

進む騎士の勇ましきかな

REN'Ō [解] 腎臓

またレーノ(例の)腎臓炎が續發し

醫者よ藥を狼狽にまはる

RENDEVU'Ō 會合, 會見, 出合

世を忍び會合してる團體を

レンデブーオ(戀尼無辻)にエス語曰ふなり

RENKONT'Ō 行き合ふ, 出遇ふ

三五の教の信徒幽齋場

レンコーンテ(煉魂地)の庭に行き合ふ

RENT'Ō 歳入(財産より生ずる), 地代, 小作料, 家賃等

歳入を殖し吳レント小作料

家賃を上げる人鬼の奴

RENVERS'Ō ひっくりかへす, 顛覆す

レンベールス(煉武選る師)弟子を手玉に取り乍ら

ひっくりかへす捕芝守高

REPERTUAR'Ō 目錄, 名簿

何レベルト, アーロ(減るごうあらう)共目錄は

規則通りに書きあげて置く

REPREZENT'Ō 代表す, 代理す

あらレプレゼンテ(霞降れ前庭)の松枝繁く

天然傘を代表するかな

REPUTAC'Ō 評判, 世評, 名聲, 令名

名聲と評判は是レプタツィーオ(二つ意を)

含む様だが矢張り同一

RESPEKT'Ō 尊敬す, 敬意を表す

三五のレスペクテ(靈主日榮九地位)を親となし

師匠となして常に尊敬す

RESPOND'Ō (一)答ふ(二)相應す, 相當す(三)責任を負ふ,

レスポーンデ(靈主本地偉)問ひにも答ふ相應する

御魂鎮めの責任を負ふ



RESPUBLIK'O 共和國

共和國大統領はレスプブリーコ(靈主風夫利巧)  
度量なければ選舉せられず

REST'I (一)留まる, 常にあり, 静止してあり (二)餘る

レーステ(靈主帝)高天原に神留まる  
世界に餘る神徳もちて

RESTORACTO 飲食店, 料理店

レストラツィーオ(隸司虎威を)籍りて飲食店に入り  
肩肱怒らし翳張る醜さ

RETO 網

網持ちて來レート(れと)魚師叫びつゝ  
鯛魚の群れを監視してゐる

RETORIK'O 修辭學

レトリコ(例と理意考)修辭學をばエス語にて  
稱呼しながら使用してゐる

RETORTO [化] レトルト (蒸溜用曲頸瓶)

レトルトは蒸溜用の曲頸瓶  
エスペラントでレトールトと云ふ

REVI 空想す, 夢想す, 幻想す

レービ(麗美)なる天國淨土を窺へば  
空想するより一入優れる

REVOLUCIO 革命

革命はレボルツィーオ(隸坊留陸横)根底より  
建直し行く行動なりけり

REVOLVER'O 回轉拳銃

現代の回轉拳銃エス語にて  
レボルペーロと稱呼するなり

REZED'O [植] 木犀草

木犀草名詞はエスペラント語で  
レゼードとこそ稱呼せらるる

REZERV'I 取り置く, のけ置く, 留保す, 豫備とす, 貯藏す

レゼールピ(麗贅流美)神の教を信じてゆ  
捨つるも惜しく倉に取り置く

REZIN'O やに, 樹脂

松檜杉の木のやに查ぶれば  
皆レズィーノ(靈水の)秉なりけり

REZON'I (一)論ず, 論究す, 推理す (二)理由を説く

レゾーニ(靈像に)向ひ理由を説く法師  
佛意を論ず信徒の前に

REZULTATO 結果, 効果, 成績

レズルタートかへして讀んだ其結果  
トータルズレとなるぞ可笑しき

RIB'O [植] あかすぐり, リベス

リーボとは日本植物あかすぐり  
その實物を瑞月は知らず

RIBEL'I 叛亂す, 叛く

ベリペーリと襖や袖をかみ破ぶり  
叛亂するなり夜の鼠奴



RICEV'I 受く, 受取る

リツェービ(利杖美)服をば受くる権右衛門  
古稀の祝ひの後と前とに

RICIN'O [植] 菟麻属

菟麻属を産婦に服用さす時は  
リツィーノ(理智の)勝つた子供生るゝ

RIC'A 富める, 有福の, 潤澤の

富めるものも時に由リーチ, 貧人の  
救ひ求めにやならぬことあり

RID'I 笑ふ

さもリーデ, 名畫をかいた又平を  
笑ふ馬鹿者世には尠ない

RIF'O 暗礁

大船のあやつリーフ, 覺りなば  
暗礁に悩む心配もなし

RIFUG'I 隠る, 避難す, 逃込む

リフ、ーチン(理不盡)な借金取りの聲聞いて  
留守を使つて奥に隠るゝ

RIFUZI 拒む, 謝絶す, 断はる

遙々と尋ね來りし貧友の  
面會拒むリフ、ーズィン(理不盡)な奴

RIGARD'I 視る, 眺む, 注目す, 注視す

借りガールデ(借りがある爺)の門口覗き視る  
途中で會ふかと注目するかな

RIGID'A 硬き, 強直の, 曲らぬ

リギーダ(理義だ)に知らぬ男が硬きこと  
口先ばかり言ふぞ可笑しき

RIGLI 門等にて閉す

やリーグリ(やりくり)の最中なれば債鬼をば  
避けて門をば門にて閉す

RIKOLTI 刈入る, 刈取る, 收穫す

晩稻を刈入る頃は雪來り  
見る影も無しコールテ(氷る庭)前

RILATI 關係す, 關聯す

關係する會社の権リ(利)ラーテ(持)良く  
人に譲つて老後を楽しむ

RIM'O [詩] 押韻

主義よりモ凡ての詩歌は押韻の  
整ひたるを最勝とす

RIMARK'I 氣付く, 認む

渡り切りマールキ(丸き)橋をかへりみて  
危険迫りて居たるに氣付く

RIMED'O 手段, 方法, 策

借金を免るゝ手段と吾ひとリ(一人)  
メード(冥土)の旅を企つる馬鹿

RIMEN'O 革紐, 革帶, [機] 調革

變りメーノ世の中なれば革紐の  
用意しておけまさかの時の



RING'O 環, 輪, 指環

艶の良きリングの如く見ゆる哉  
環指環の圓き姿は

RINOCER'O [動] 犀

犀の角煎じて飲めば熱去ると  
隣リノツェーロー(の杖老翁)教わて呉れる

RIP'O (一)[解] 肋骨 (二) 肋骨状物 (葉肋, 翅脈, 洋傘の骨  
肋材, 格縁等)

角力取リーボんと折れたる肋骨を  
治さんとして整骨醫招く

RIPAR'I 修繕す, なほす

ぱりぱーりに鼠の噛んだ什器類  
塗師屋に命じ修繕する妻

RIPET'I 繰返す, 再びす, 繰返し言ふ

世の中は繰返すなりペーティベチエチー  
古き歴史で今の世見れば

RIPOZI 休息す, 憩ふ

眞夜中にふたりポーズした朝は  
業務休息するものぞかし

RIPROČ'I 叱る, 咎む, 非難す

リブローチ(理無漏智)天保錢奴と禿老爺  
息子の馬鹿を叱る可笑しさ

RISK'I 危険を冒す, 賭す

金着切リースキ(隙)をねらつて金を奪り  
危険を冒す人の隣れさ

RISMO 一連 (印刷紙五百枚)

新聞紙一連ばかり使用しぬ  
はやリースモ(流行角力)の號外刷つて

RISORT'O ばね, 發條

餘リリゾート後へひつくり返ります  
この人力車ばねが強いぞ

RITM'O 音律, 律 (長短, 抑揚, 平仄等の) 拍節

音律は揃ひたリートモ何處やらに  
物足らぬなり婆の奏樂

RIVER'O 川, 河

箴の川のほとりペーロペロ舌を出し  
泳ぎ行くかも八岐の大蛇

RIVERENC'I 敬禮す

朝夕に神の御前に敬禮す  
リベレーンツィー(理歩榮廉耻)悟る信徒

RIZ'O 米, [植] 稻

今年の米の稔リーゾ豊ならん  
稲田の波の清くありせば

ROD'O 港湾, 錨地

ロード(艦道)具並べて數多の帆船が  
集り來たる港湾の中

ROJALIST'O 尊王家, 王黨員

尊王家世間に廣ロイ(ろい)アリーストート(哲學者の名)  
哲學論を甚たく嫌忌す



ROL'O [劇] 役, 役目, 任務

ローロー(浪々)の果は役者となり下り  
嫌な役目も泣いて勤める

ROMAN'O 傳奇小説, 稗史

露西亞國ローマノフ家族の惨めさは  
傳奇小説よりも散奇なり

ROMB'O [幾] 菱形, 斜方形

菱形の眼をむいて居るくロームホ(黒ン坊)  
夜具の袖なす厚き唇

ROMPI 壊す, 毀つ, 砕く, 破る

ロームビ(勞務日)を俄に休み労働者  
制規を破る風俗を壊す

ROND'O (一)圓, 圓形, 圓周 (二)一團, 社會

圓満に誠の道をロールド(論導)する  
或る一團を三五教と曰ふ

RONK'I 駢をかく

震災の眞最中に悠々  
駢をかくは無ロンキ(論氣)違ひ

ROS'O 露

玉露の宿れる野邊の草分けて  
杖つきながらローソー(老僧)行くなり

ROSMAR'O [動] 海象

海象をエスペラントの名詞には  
ロスマーローと稱呼するなり

RCSMAREN'O [植] 迷迭香

吹きおロスマレーノ(下す馬來の)山の涼風に  
つれて匂ひ來ぬ迷迭香の花

ROST'I (一)やく, 焙る (二)〔冶金〕煨焼す

ローステ(露助)ニコライスクの邦人を  
取り圍みつゝ無慘にもやく

ROSTR'O [動] (一)鼻(象類の) (二)吸嘴(昆虫なごの),  
(三)吻状突起

象類の鼻や昆虫の吸嘴を  
ローストローとエス語曰ふなり

ROTO [軍] 中隊

玄武門登ロートして中隊長と  
原日重吉敵弾に倒る

ROZO (一)〔植〕薔薇,〔花〕 (二)〔建〕菊形飾, 菊形窓飾

薔薇の花薫りも高く美はしく  
いローザ(色ぞ)妙なる庭の籬に

ROZAR'PO (羅馬教) 珠數, 念珠

くロザリーオ(黒砂利を)もちて作りし如く見ゆ  
羅馬教僧侶の手に持つ珠數は

RUB'O 屑, かけら, がらくた, こはれ

蝸坊主厄介坊主は僧の屑  
又の名ルーホ(流迂坊)と曰つて蔑すむ

RUBAND'O リボン, 紐

リボンをば若い男が買ひに来る  
是れ見ルバンド(番頭)舌を出して



RUBEN'O [鑲] 紅玉, ルビー

紅玉の帯締捲いて出る花見  
何處もはルベ—ノ(春邊の)光満ちぬる

RUBL'O ルーブル(露西亞貨幣凡一圓)

ルーブルは露西亞の凡一圓ぞ  
エス語は之をループロと曰ふ

RUBUS'O [植] 懸鉤木

衣かカルブ—リ(物騒)な山道心せよ  
懸鉤木の株繁りてあれば

RUG'A 赤き

最うはルーヂ—(春ぢや)赤き花の木遠近に  
蕾の唇開き初めてる

RUIN'O (一) 荒跡, 廢墟, 墟れ家, (二) 破滅, 零落, 瓦解

ルイ—ノ(類の)無い地震の荒跡破滅せし  
都を見れば涙こぼる

RUKTI 暖氣を出す

わルークテ—(悪口)言つてる奴があるだろ  
嫌が頻りに暖氣を出すも

RUL'I (一) 轉がす (二) ロールをかける (三) 圓める, まく

ルーリの玉轉がす様な美しい聲で  
義太夫うなる春子太夫さん

RUM'O ラム酒

よルーモひルーモ(夜も晝も)ラム酒ばかりを飲んでゐる  
やがて中風に悩むなるらむ

RUST'O 錆

ルースト(留守)のみ思ひ忍んで入り見れば  
主人が居たので錆刀抜く

RUTO (植) 芸香

パハイ教ルート女史こそ芸香に  
優る尊き匂ひある人

RUTIN'O 舊習, 舊慣, 経験のみの智識, 不進歩

舊習を打破すルテ—ノ(する底の)勇あらば  
進み行く世に落伍せざらん

RUZO 狡猾, 奸黠, 詐略

狡猾な奴は群衆に突はりて  
平素の敵をなぐルーゾ憎き

## S

SABAT'O 土曜日

土曜日の午後より漁船雇入れ  
天保山沖でサバ—ト(鯖獲)るなり

SABL'O 砂

大己貴神の教ねし靈泉の  
砂より湧くをサーブ—ロ(砂風呂)と云ふ

SABR'O サーベル, 刀

サーベルが行く先々に付き纏ふ  
危険と見られし下田サーブ—ロ(三郎)



SAFIR'O [礦] 青玉, サフヤ

青玉は麻邇の寶珠の一つなれば  
幾年経るもサフーロ(銷ろう)とせず

SAFRAN'O (一) 薔金粉(サフランより製せる)(二) [植] サフラン

サフランを以て製せる薔金粉を  
サフラーノとエス語曰ふなり

SAG'O 矢, 箭

高サーゴ(砂)の沖に浮べる神島は  
矢竹の茂る名所なりけり

SAGAC'A 伶俐なる, 慧敏なる, 悟りの速き

サガーツ(佐賀といふ)男は伶俐なるを以て  
神の出口の字知丸とする

SAG'O 聰明, 明智

サーヂ。(さあ嬢)様参りませうと聰明な  
姥が氣轉で観音へ行く

SAK'O 袋, 囊

陸奥の安達ヶ原の鬼婆は  
娘の兒袋サーゴ(裂かう)とぞする

SAKR'O [解] 薦骨

薦骨のあたり痛さによく見れば  
色あサークロイ(あさ黒い)根太出来てる

SAKRAMENT'O [宗] 聖禮, 聖餐禮

宗教の聖禮及び聖餐禮を  
サクラメントとエス語にて曰ふ

SAL'O 食鹽 [化] 鹽

鹽釜の神社の風光に憧憬れて  
何時サーロ(去ろう)ともせざる旅人

SALAJR'O 俸給, 給料

俸給を倍加されたる腰辨が  
サライロ(新ら色)涼しき洋服を着る

SALAMANDR'O [動] 蟻蝶

惚れ蟻蝶の黒焼振りかける  
サラマンドロ(新マント泥)の男と知らずに

SALAT'O サラダ(生菜料理)

サラダとは生菜料理した馳走  
舌障りさへサラートしてゐる

SALD'O [商] 差引残高

掛取りが差引残高受取りて  
いそいそ商店サールドー(去る道)具屋

SALIK'O [植] 楊柳屬, 柳

糸柳しサリーユ(枝垂り子)供がぶら下がり  
春の遊びを川端にする

SALIV'O 唾液, つば

吝嗇家腐サリーボ(さり棒)煙喰の過ごし  
氣持悪さに唾液吐き散らす

SALM'O [魚] 鮭

登り詰めサールモ(猿も)樹から墜つる如  
捕へられたり和知川の鮭



SALON'O 客室, 座敷

氏神の祭典日にてあサローノ(朝老農)  
人遊ぶも早くも客室座敷掃くなり

SALPETR'O 硝石

硝石は 에스ペラント の名詞にて  
サルベートロと稱呼するなり

SALT'I 躍る, 跳ぶ

大阪をサールテ(去る知)事が送別會  
酒宴の席で躍る跳ぶ舞ふ

SALUT'I 敬禮す, 辭儀す, 挨拶す

轉任で大東京をサルーテ(去る知)事  
内侍所に敬禮するなり

SALV'O [植] サルヒヤ, こまぢさう

こまぢさう英語の名詞サルヒヤ  
サルビーオはエス語なりけり

SAM'A 同じき, 同様の

サーマさまの人は顔してゐる如く  
心の同じきものは少し

SAMBUK'O [植] 接骨木

接骨木は解熱劑の隨一ぞ  
サムブーコ(山風効)の最大妙藥

SAN'A 健康なる, 壯健なる

健康なる身をば保つ人はあサーナさな(朝な朝な)  
冷水浴を怠らぬなり

SANDAL'O 鞋, 草履, 雪駄, 履

鞋草履澤山表門においてある  
丹波與作の息子サンダーオ

SANG'O 血, 血液

血の若いサーンゴ(産後)の婦人注意して  
芋のすいきを朝夕に食ふ

SANKC'O 認可, 裁可, 批准

サンクツ、ーオ(山區地を)市に作合す出願に  
認可與ふる内務當局

SANKT'A 神聖なる

神聖なる神の御前に誠心を  
こめて祈ればサークタす(慘苦助)かる

SANTAL'O [植] 梅檀, 白檀

梅檀は二葉の中より芳ばしい  
迷子のサンターオ(三太郎)出世するだらう

SAP'O 石鹼

石鹼や白粉チツクに身をやつし  
仕事サーホるなまくら青年

SARDEL'O サーデン(鰯魚の油漬)

サルデーロ是は鰯魚の油漬  
英吉利語ではサーデンと曰ふ

SARK'I [農] 草取りす, 除草す

轉宅を觸れて屋敷の草取りす  
老爺はサールキ(去る氣)が失せたのだらうか



SARKASM'O 鋭きいやみ, 酷嘲

サルカースモ(猿が角力)取つた横だにお轉婆が  
鋭きいやみ悪客に曰ふ

SATA 満腹せる, 食ひ足れる, 飽食せる

満腹せるまだ其上につまみ喰ひ  
するとは實にサータ(沙汰)の限りだ

SATAN'O 悪魔, 魔王

神の道開く真人を世人が  
悪魔視するはサターノ(沙汰の)限りよ

SATIR'O 諷刺, 諷詩, 落首

諷刺以て言靈別を救ひ出す  
司をサティエロ(幸半)番と曰ふ(靈界物器参照)

SATRAPO 州太守, (古波斯)暴主

古への波斯の暴主州太守  
サトラエボ(邪虎暴)王とエス語にて呼ぶ

SATUR'I [化] 飽和せしむ

争鬭は國家の損と皆サトエリ(悟り)  
大使を派して飽和せしむる

SAUC'O ソース

サーウツ(相當)の西洋料理はおしなべて  
ソース用ひぬ食品はなし

SAVI 救ふ

世の人の心のサービ(錆)を磨き上げ  
誠の道に救ふ真人

SCEN'O [劇] (一) 場, (二) 景, 場面, 観物, 活劇

場と景は皆演劇に關聯し  
エスベラントはスツエーノと呼ぶ

SCEPTR'O 笏 (王の權標として持ちしもの)

國王の權標として持つ笏を  
スツエプトロ(主杖武頭老)とエス語呼ぶなり

SCPI 知つてゐる

何事も皆知つてゐる聖賢を  
スツエーイ(須知偉)々々々と尊み敬ふ

SCIENC'O (一) 科學 (二) 學問, 學

科學とか學問とかを現代は  
スツエーンツ(須知意遠通)するに努むる

SCIUR'O [動] 栗鼠

栗鼠の名稱エスベラントに稱呼して  
スツエーロ(鼠知雨露)と曰ふぞ畏こき

SE [接] 若し……ならば, ……ならば

行つて見て若し○○ならば○○ならば  
せめて(急いで)來れと談判をせよ

SEB'O 脂肪 (特に反芻獸の), 羊脂, 牛脂

牛山羊の反芻獸の脂肪をば  
鮮肉に添へセーボ(薩魯)に贈る

SED [接] 然し, 然れども, 然しながら, でなく

セド(瀬戸)の海黒潮畏ひ來ると曰ふ  
然し心配するに及ばず



SEG'I 編る 編り 編組 編組 (二) 編 (一) [編] OZSTP

マイーストロ**セーギ**(正義)の及振りかざし  
 國に背きし奸邪**編る**かな

SEG'O 椅子 (の) 椅子 (の) 椅子 (の) 椅子 (の) 椅子 (の)

**セーチ**。(聖上)が椅子にもたれて朝夕に  
 萬機の政事みそなはし坐す

SEK'A 乾きたる, 乾燥せる, 早魁の, 乾燥無味の, 無愛想の

咽喉が俄に乾きたる**セーカ**(故か)  
 水を吞まねば咳が出て来る

SEKAL'O [植] 裸麥 裸麥 (二) 裸麥 (一) OZSTP

牛馬の**セカーロ**—(背帳う)輕うと裸麥  
 運び行くなり夏の田圃路

SEK'I 截る, 斷つ, 切斷す, 分割す

三四週間の努力で**歸神**  
 濟ま**セークツ**(口)を截る(切る)砂庭かな

SEKCO'O 部, 課, 篇, 章, 節, 派

**セクツィーオ**(性句對意應)正しく示す部と篇と  
 派とは著作の要義なりけり

SEKRECI [生理] 分泌す

分泌する生地の學語をエス語にて  
**セクレツィーイ**と稱呼するなり

SEKRETA 秘密の, 内證の

神界の秘密の鍵を握りたる  
**セクレータ**(聖九靈多)の真人求む

SEKRETARI'O 書記, 書記官, 秘書官, 幹事 (俱樂部などの)

俱樂部の書記や幹事は殊更に  
**セクレタリーオ**(聖九靈多利應)の材幹が要る

SEKS'O 性 (男女の別)

**セークリ**は性のエス語の名稱ぞ  
 男女の別を示す言靈

SEKUND'O (一) 秒 (二) [音] 一音調間

秒間をエス語は**セクーンド**と曰ふ  
 時計の針の一音調間

SEKUNDANT'O 決闘立合人

決闘の立合人をエス語にて  
**セクンダント**(勢窮斷刀)と稱呼するなり

SEKV'I (一) 従ふ, 陪従す, 次いで至る, 沿ひて行く (二) 倣ふ

**セークビ**(聖九美偉)その神人に神倣ふ  
 道に従ふ瑞の信徒

SEL'O 鞍

鞍早く馬に着**セーロ**と光秀が  
 命令下す妙心陣營

SELAKT'O 乳清, 乳漿

乳清を嬰兒に吞ま**セラクト**(略糖)を  
 與へて成人するを待つ親

SEM'I 播く, 播種す

稻種を播く百姓が田の代へ  
**セーミ**の小川の水を引くなり



SEMAJN'O 週, 一週間

蒲生野を一週せんぞ来て見れば  
餘りセマーイノ(狭いの)で呆然とする

SEMINARI'O 神學校, 僧侶學校

神學校生徒の唱ふる讚美歌に  
檜木のセミナリーオ(蟬鳴りを)鎮める

SEN [前] 無く, 無しにて, 有せずして

如何にセン術なく力なくなくも  
さゞのつまりは神様祈る

SENATO 元老院, 上院

元老院上院などは議論をば  
セナート(爲なご)云つた様にきめてる

SENC'O (一) 意味, 意義 (二) 意識, 分別, 常識 [理] 方, 方向

意味意義判然とした人々は  
セーンツ(扇頭)を何時も上にしてゐる

SENDI 送る, 遣はす, 使を送る

皇神のセーンディ(宣示)を以て某方へ  
使を送る電信送る

SENTI 感ず, 感覺す, …の心地す

セーンティ(戦地)へ到りて見れば無情をば  
感ず〇〇〇の心地す

SENTENC'O 格言, 金言

古への聖者の作りし格言は  
センテーンツ(先天通)の教なりけり

SEP [數] 七

七人の敵を案じて寝もやらぬ  
セブ(拙夫)下郎の夫の留守に

SEPI'O (一) 烏賊 (二) セビア (烏賊の黒汁より製したる顔料)

烏賊の黒汁以て製せる顔料を  
エスペラント語セビーオーと曰ふ

SEPTEMBR'O 九月

菊薫る九月をエスペラントにて  
セブテームプロと稱呼するなり

SERC'I 捜す, 尋ぬ, 搜索す

強盗が逃げたにあセールチか(かあせる近)場所に  
忍ぶならんと捜す刑事等

SERGENT'O [軍] 軍曹

軍曹が上等兵に殺さセル(せる)  
チェーン(前途)を案じ橋宗一を

SERPO 連続, 連鎖, 系, 組 [電] 直列 [化] 列 [數] 級數

連続しこの演劇が當る様と  
あセリーオ(あせり居)るかな田舎の定席

SERIOZA 眞面目の, 嚴肅の, 莊重の

釋迦牟尼は出家を爲セリオーザ(王座)をば  
見捨て眞面目の佛道に入る

SERPENT'O [動] 蛇

白蛇の捲セルペント(せる辨當)農婆喰ひ  
腹がふくれて畸形兒を産む



SERUR'O 錠

錠前を外セルロー(せる半)の番人が  
主義者逃がして免職となる

SERV'I (一) 仕ふ, 奉仕す, 勤務す, 給仕す (二) 役に立つ,  
用を爲す, 資す  
役に立つ人を選び分け使用セル(せる)  
ビ(美)人は神の化身と仕ふ

SERVICO 膳立, 食膳, 食器一式

膳立の名詞はエスペラントにて  
セルビーツと稱呼するなり

SERVUTO 賦役, 奴役

祝宴に招かれ爲セルブート(舞踏)さへ  
賦役の一と思ひ動むる

SES [數] 六

六々に固形食物通過せぬ  
スエス運河の咽喉が塞がり

SEVER'A (一) 嚴格の, 嚴重の, 苛酷の (二) ひきき, 烈しき

嚴格の家庭に生れたセペーラ(清兵衛等)の  
ひきき墮落をくやむ教祖

SEZON'O (一) 季(四季) (二) 時節, 季節

時節季(來)て益々現はれ至ひけり  
セザーノ(世象の)如く神の宣示は

SFER'O (一) [幾] 球(二) 範圍

幾何學上球の名詞はスフーロ(素平路)の  
範圍内にて稱呼するなり

SFINKS'O (希臘神話) (一) 獅身女面有翼の怪物, (二) 獅身  
人頭の巨像(埃及の)  
埃及の獅身人頭の巨像をば

スフィンクソミエス語呼ぶなり

SI [代] 彼, それ, 彼自ら(第三人稱の主語を反映する代名詞)

彼ス、て(好いて)吾は居る故彼自らも  
それ相當にス、て(好いて)居るだらう

SIBLI しょうしゅう鳴る, しーしー云ふ

久スィーブリ(久し振り)欄干木で釜焚けば  
湯氣立ち昇りしゆーしゆー鳴るなり

SID'I (一) 腰掛けてゐる, 着席してあり, 座にあり

怪スィーディ(しいで)木蔭をそつと窺へば  
ベンチに男女が腰掛けてゐる

SIEG'I [軍] 包圍す, 攻圍す

敵軍の駐屯箇所を採知して  
包圍するなりスィエーヂン(水營陣)をば

SIGEL'I 封印す, 封緘す

差スィゲリする資産さへ盡き果て  
執達吏諸道具封印す

SIGN'O 印し, 記號, 符號, 信號, 相圖, 兆, 徵候, 形跡

船頭がスィーグノ(水具の)印兆(調)査して  
波上豊かに航海をする

SIGNAL'O 信號, 信號装置, 信號器

信號手忙スィグナーロ(しくならう)是だけに人  
汽車の修復度數増しては



SIGNIF'O 意味

身一つ面四つありと云ふ意味は  
四面スィグニーフ、(四國を)表徴するなり

SILAB'O 〔文〕綴音, 音節

文法の綴音をばスィラーボ(知らぬ坊)主  
大藏經を棒讀みにする

SILENT'I 黙してゐる, 靜にしてゐる

肝腎の經綸がスィレーンティ(知れんで)問はれても  
黙して居るより仕方なきかな

SILIK'O 〔鑛〕燧石, 硅石

倭姫賊の様子を先にスィリー(知り)  
ココろ(心)を籠めし燧石が授くる

SILK'O 絹, 絹糸

絹帽はシルクハットと英語曰ふ  
絹はエス語のスィールコなりけり

SILUR'O 〔魚〕鯰

鯰鬚生やして官吏威張つてる  
道スィルーロー(知る老)人フフンと笑ふ

SILV'O 〔鳥〕籬雀

天の下良くスィルビーオ(知る日を)祝してか  
籬雀の聲も勇し

SIMBOL'O (一)象徴, 表號 (二)化學符號 (三)〔宗〕信條

奸人の企みの象徴見ね初めぬ  
私書スィムボロー(私印曝露)してより

SIMETR'O 鈞合, 均齊〔幾〕對稱

スィメトリーオ(シメ鷄を)暗夜に鳴かす過激武士  
言心行がよくも鈞合ふ

SIMFON'O 〔音〕合奏樂, 和樂

佛前に合奏樂をたてまつる  
スィムフ、ニーオ(新法尼を)迎へまつりて

SIMPO 〔動〕猿

桃の木に山猿數多集りて  
キヤツキヤ啼きつゝスィミーオ(酸い實を)喰ふ

SIMIL'A 類似の, 同様の, 似寄りたる

スィミーラない(濕み入らない)名物煎餅と云ひ乍ら  
類似の安菓子ひさぐ商店

SIMPAT'O 同情, 同感

西南の役に死したるスィムパティーオ(新八を)  
薩摩の武士は同情してゐる

SIMPL'A (一)單純の, 單一の (二)質素の, 簡單の (三)身

身分なき質素の生涯送る人を  
富者は單純のスィムプラ(眞浮浪)と云ふ

SINCER'A 誠意の, 眞實の, 眞誠の

スィンツェーラ(新寺)を建てた信者の功勞は  
實に誠意の表示なりけり

SINGULT'I 吃逆

突然に精スィンゲールティ(剛狂ふて)騒ぐ妻  
親父びつくり吃逆するかな



SINJOR'O (一)君,様,殿(男子一般の敬稱)(二)紳士,大人  
且那

紳士君様殿といふ敬稱は  
スィンヨーロ(神要朗)とエス語曰ふなり

SINKOP'O (一)[醫]卒倒,失神(二)[音]約調

スィンコーホ(新弘法)法會に群衆殺到し  
人波に酔ひ卒倒せんとす

SINOD'O [宗]宗教會議,宗教大會

眞言の宗教會議開かれぬ  
弘法大スィノード(師の堂)の中にて

SINONIMO [文]同義語,類語

二の四もスィノニーモ(四の二も)合せば六の数となる  
位置は代るも同義語と知れ

SINTAKS'O [文]文章法,文章構成論

文章法教ゆる先生が明日來たる  
早くスィンタークラー(新宅掃)除して置け

SIREN'O [神]羊人羊魚の妖婦(神)人魚,妖婦

神話にある羊人羊魚の妖婦こそ  
例れもスィレーノ(死靈の)變化なるらむ

SIRING'O [植]紫丁香花

甘い柿スィリーゴ(酸い林檎)をば菓子鉢に、  
床には紫丁香花を捜す

SIROP'O 糖水(果汁なき加へたる)[藥]舍利別

糖水に果實の汁なき加へたる  
ものをエス語はスィローホ(水露芳)と曰ふ

SISTEM'O (一)組織,仕掛(二)制度,方法,法式(三)系統  
次第,分類

聖會の組織制度や系統を  
調理するまでスィステーモ(死す共)止まじ

STTEL'O 手桶,バケツ

永年の奉仕の結果古手桶  
スィテロー(水底漏)出桶屋を履ふ

SITUACPO (一)地位,身分(二)境遇,局面,形勢

スィト、アツィーオ(一足を)先に進めた先覺者  
地位境遇を他と異にする

SKABI'O (一)[醫]疥癬(二)[工]金屬鈔

スカビーオ嗅され疥癬を傳染されて  
あた阿房臭いはがゆいと怒る

SKADR'O [軍]騎兵中隊

かスカードロ(春日道路)騎兵中隊進軍す  
近畿地方の陸軍演習

SKAL'O (一)[圖]比例尺,比例尺を示す線(二)目盛

面倒をたスカーク(助からう)と圖面師が  
力を頼む比例尺かな

SKAPOL'O [解]肩胛骨

肩胛骨地蔵の如く削れたる  
スカポーロ(素下坊侶)が乞食に巡る

SKARAB'O [昆]鍔蟲,一種の甲虫

鍔蟲木枯吹いて弱り果て  
生命絶えてスカラーボ(巢からつほ)と曰ふ



SKARLAT'O 緋, 猩々緋 (色又は染料)

緋衣を着るかお寺を出されるか  
スカララート(纏る壇徒)の膽王冷やす

SKARLATIN'O [醫] 猩紅熱

猩紅熱苦しさをスカララティーノ(助かる塔の)良い  
お供水呑んで全快するとは

SKARP'O 廣帯, 綬

たスカー(助る)ホんを膨れた子持腹  
廣帯除きしごきに代へて

SKATOL'O 小箱, 手匣, 文篋

今日かあスカト一口(明日か取らふ)を思ひ忍び入り  
小箱を抱ね逃ぐる泥棒

SKELET'O 骨酪, 骸骨, 骨組 (機械などの)

胃は弱く有りまスケレート(ますけれど)骨酪は  
人に勝れて頑丈だを曰ふ

SKEPTIK'A 懷疑の

スケプティーカ懷疑の動詞をエス語にて  
スケプティーカ(素怪不知異乎)を曰ふぞ怪しき

SKERC'O [音] 俗樂の一種

身の疲れたスケールツ(助ける強う)する音樂は  
俗樂の一種殊によるしき

SKERMPO 劍術

身の危急たスケールモのは劍術の  
奥義を知るに若くものは無し

SKISM'O [宗] 分離, 離勢, 分派

宗教派分離の厄に逢はんぞす  
スキースモー(好き角力)の僧の論争

SKIZ'O (一) 寫生 (二) 概略, 略圖 (三) 小品, 漫筆 (四)

下繪, 圖案, 草案  
概略は寫生小品下繪かき  
是が第一身のスキーズ(好きぞ)を曰ふ

SKLAV'O 奴隸

顔の色まつ黒助の奴隸をば  
スクラーポー(素暗坊)をエス語にて呼ぶ

SKOLOPO'O [鳥] 山鶺鴒

山鶺鴒の名詞はエスペラントにて  
スコローポーを稱呼するなり

SKORBUT'O [醫] 壞血病

壞血病全身病の中にも  
スコルブートの難症なりけり

SKORPT'O [動] さそり

さそりと云ふ小動物をエス語にて  
スコルビーオを稱呼して居る

SKRAPI 削る, 擦り剥ぐ, ひ搔く

スクラービこの言彙は削るてふ  
エスペラントの稱呼なりけり

SKRIB'I (一) 書く, 字を書く, 手紙を認む (二) 書を寄す,

交通す  
宗教の祖師の傳記を書く信者  
スクリービ(全部美)事を集めてぞおく



SKROFOL'O 〔醫〕 瘰癧, 腺病

瘰癧をスクロフォーロミエス語にて  
稱呼するなり萬國共通で

SKUPI 振る, 動かす, 揺る, 振り落す, 振り拂ふ

地が揺る火災が起る時もある  
スクーイ(救ひ)の神が大幣を振る

SKULPT'I 彫刻す(物像を)

物像を彫刻すべく山林の  
用材スクールプティ(選る打ち)倒す柚

SKURĜ'O 鞭(數條の革を附したる)

數條の革を附したる鞭を擧げ  
味方助スクールチ(助くる乗)馬隊列

SKVAM'O 〔動〕 鱗〔植〕 鱗片〔醫〕 鱗屑, 鱗脱皮

金鱗魚味ひ良ければ爺もスク(好く)  
パーモ(婆も)また好く虎猫の如くに

SMERALD'O 〔鑲〕 綠柱玉

綠柱玉エスペラントの名詞には  
スメラールドと稱呼するなり

SOBR'A 飲食を節せる, しらふの

飲食を節せるしらふの身ながらに  
リーブラブラミするぞ可笑しき

SOCIET'O 會, 團體, 結社, 連中

本堂へ行くはリツエート(其方へ)旗振つて  
お上り導く青年團體

SOCIOLOGIO 社會學

社會學リツオロギーオ(素地歐露議異應)振りかざし  
講師浴々革命を説く

SOD'O 〔化〕 曹達

曹達にて洗ひ落した古着物  
ソード(僧堂)坊主が喜んで着る

SOF'O 安樂椅子, ソース

瑞月が安樂椅子に横たはり  
三千世界のソーフ(總法)を説く

SOFISM'O 詭辯, 僻説, 曲論, 理屈

ソフィースモ(粗非統藤)詭辯を弄し我が持説  
立貫んて口角泡飛ぶ

SOFIST'O (一) 詭辯學者(古希臘の一派の哲學者) (二) 理

ソフィースト(庵非巢人)は理屈屋詭辯學者なり  
古希臘の哲學者の一派

SOIF'I 渴す, 渴してあり

渴すとも源泉の水吞ますとて  
禪僧ソーフ(粗衣布衣)着けて修業す

SOJLO (一) 敷居, 闕 (二) 〔鐵道〕 枕木

山門の敷居またげて入り來たる  
ソイロ(備色)いろの法衣まこひて

SOLA 孤獨の, 唯一の

ソラ見たか孤獨の淋しさ知つただろう  
人は無妻で世には立てまい



SOLDATO 兵士, 軍人

何故に其様にソルダート尋ねれば  
上等兵士になつたに感張る

SOLE'O [魚] 靴底魚, したびらめ

海底の沙を這ふ様におよぎる  
ソレーオ靴底魚とこそ曰ふなり

SOLEN'A 莊嚴なる, 盛大なる, 公式の

莊嚴なる大祭典に参加して  
最にソレーナ(莊麗な)る神姿拜しぬ

SOLIDAR'A [法] 連帯責任の, 連帯の

商法上連帯責任の譯知らぬ  
田舎の登記所ソリダーラ(粗吏だら)けなり

SOLV'I (一) 解く, 解決す, 解答す (二) [理] 溶解す

漢字以て綴れる書籍讀みなやみ  
ソールビ(總振假名)附け意味を解決す

SOMER'O 夏

夏の色深くなりリメーロー(初め老)人も  
漸く元氣加はりてけり

SOMNAMBUL'O [醫] 離魂病者

離魂病者エスペラントの稱呼には  
ソムナムブーロ(粗夢南無浮浪)と使用するなり

SON'I 鳴る, 音を發す, 聞ゆ

何事か急用突發したらしい  
鈴の鳴る音忙しソニーニ聞ゆ

SONATO [音] ソナタ, 琴樂

音曲のソナタはも上手に誤魔かしぬ  
ソナートせねば動らぬ故

SONETO [詩] 短詩, 十四行詩

ソネートはエスペラントの名詞にて  
短詩を指した稱呼なりけり

SONG'I 夢を見る

選まれし神の御船に乗せられて  
ソーンチ(尊兒)を産みし夢を見るかな

SONOR'I 鳴る(鐘, 鈴など)

鐘や鈴鳴るソノーリ(其の理)由は火と水の  
息の調和によるものぞかし

SOPIR'I 憧憬する, 慕ひ歎く, 忍ぶ, 思ひわぶ, 嘆息す

憧憬する人をし訪へば腹下だし  
くソビーリビリと響隱の音

SOPRAN'O [音] 最高音部

音樂上最高音部の名詞をば  
ソプラーノとエス語にて曰ふ

SORB'I 吸ふ, 吸収す

ソールビ(僧流美)衣纏ふて後家の巾着や  
迷信男女の膏血を吸ふ

SORC'I (一) 魔法を使ふ, 魔法にて變ぜしむ (二) 魅す, 惑はす

ソールチ(僧流痴)緋衣かざり人を魅す  
魔法を使ふ厄介な奴



SORIK'O [動] 地鼠

ソリーコほち黒き衣を着た坊主  
地鼠の如く地下線潜る

SORPO (一) [植] 清涼茶 (二) 清涼茶の質

茶人連寄り集りて清涼茶  
薄茶も立てるソールホ(僧侶房)かな

SORTO 運命, 天運

運命か將た天運の盡しか  
頭ソールト(剃る)隠棲勇士

SOVAG'A (一) 野生の (二) 野蠻の, 未開の, 粗野の

此馳走野生のリバーチ(蕎麥ぢや)まづけれど  
食つてお呉れよ野蠻の料理も

SPAC'O (一) 空間 (二) 場所, 場席, 餘地

スパーツ(素破ツ)抜き放ちたる空間の  
納むる場所なき秋水の波

SPAD'O 劔

大江山登れば酒呑童子奴が  
劔をスパード抜いて威嚇す

SPALIR'O [園藝] 壁に沿ひて植ゑ連ねたる果樹, 樹牆

壁に沿ひ植ゑ連ねたる果樹園樹  
スパリーロー(老)木までも伐り拂ふ

SPAT'O [鑛] 泥石, 方解石類の総稱

すばスパート泥石鑛の工夫等が  
萩くゆらして休息してる

SPEC'O 種類 [博] 種

色々々種類の多いはホトトギス  
ペーツ, 立て, 時鳥の聲

SPECIAL'A 特別の, 特殊の, 専門の

スペツィアラ(種別あら)じ神専門の我なれば  
また特別の秘密さへ無し

SPECIMEN'O 見本, 標本

赤青のスペツィメーノ(種別地瑪瑙)を陳列し  
博覽會に見本出品

SPEGUL'O 鏡

スベゲーロ(黒)い顔を鏡に寫し見て  
驚き直ちに白粉を塗る

SPEKTAKL'O 観物, 見世物, 興行物

観物をばエスペラントの名詞には  
スペクタークロと稱呼するなり

SPERT'A 巧なる, 熟練なる

巧なる牧童一人走り行く  
スペールタン(すべる田)圃の細畦道を

SPEZ'O 出納, 收入支出

物品の出納係りの役員を  
スペーザー(素閉藏)と商人罵る

SPICI 香料を加ふ, 薬味を入る

發囊スピーツィパーチと下痢病者  
雲隠の中に香料を加ふ



SPIK'O 穂〔植〕穂状花

稲の穂をねらつてからスピーコ(鳥ピーコ)ピーコを  
鳴子の上に揺られてゐる

SPIN'O 〔解〕脊骨, 脊柱

かスピーノ男の背骨曲みつゝ  
猫負ひ背でうつむいて行く

SPINAC'O 〔植〕菠薐草

副食の料理にはよき菠薐草  
さスピナーツ(刺す日夏を)守る薬草

SPION'O 間諜, 軍事探偵

スピオーノ(⊙非王の)敵の間諜忍び込み  
あらぬ嘘まで密告をする

SPIR'I 呼吸す

重患者今絶命スピーリビリを  
呼吸す手足が微動してゐる

SPIRAL'O 〔幾〕螺旋線(中心に近づくに従ひ漸次接近せ  
るもの)

螺旋線エスペラントの名詞にて  
スピラーローを稱呼するなり

SPIRIT'O (一)氣, 生氣(二)精神, 氣象, 心(三)靈, 神靈,  
靈魂

氣又は精神靈をエス語にて  
スピリット(⊙美恠意圖)をぞ稱呼するなり

SPIRITIST'O 降神家, 降神説信者

身も魂も清め澄ました降神家  
スピリティスト(⊙美恠智偉壽圖)をエス語云ふなり

SPITE 反して, 顧みず, 拘らず

年寄れば血しほも肉も干スピーテ  
面反して誰も顧みず

SPONG'O (一)海綿(二)〔動〕海綿類

スポンゴを抜け出したる白靴の  
少なくなりぬ海綿質棒

SPORT'O 運動, 屋外遊戯

ベスポールト運動會を組織して  
青年男女が遊び戯むる

SPRIT'A 頓智ある, 機智ある, 氣の利いた

頓智ある男は餘り燻スプリータ  
顔形なし風のまにまに

SPRON'O 拍車(騎者の靴踵に附する金具), (二)〔植〕距  
(花被の一部突出せるもの)

騎馬兵の靴の拍車に攻められて  
馬スプロノ(統武櫻の)郊外走る

SPUT'I 唾す, 痰唾を吐く, 吐く(血なご), 噴き出す

肛門の扉開いて唾する婆々  
スプーティを鳴り物で出る

STAB'O 〔軍〕幕僚, 參謀部, 本部

幕僚を従へ總理スターボ(スター歩)  
大震災の焼跡廻ぐる

STABL'O 仕事臺, 仕事板, 臺, 架

學校の椅スタープロ(椅子テーブル)も教員の  
一つは仕事臺となるなり



STACPO 停車場, 停留場, 驛

停車場へ息もすたスタツィーオ(地を)鳴らし  
乗り遅れじと走り行くかも

STADPO (一) 古希臘の里程(約百間)(二) 一日行程

古の希臘の里程百間を  
スタディーオとエス語曰ふなり

STALPO (一) 厩舎, 畜舎, (二) [劇] 別席, 棧敷

すたスターロ(驢)馬牧童に曳かれつゝ  
厩舎を指して歸り行くかな

STAMPPO 印, 極印, 消印

参拜の印に事務所に立ちよりて  
スタームホ押して貰ひ歸り來

STANPO 錫

錫の瓶神に奉納スターノむ(頼む)事  
聞いてお呉れと稻荷に藝妓

STANDARDPO 旗(團體なごの記標たる),

團體の記標となせる旗かざし  
スタンダード(數壇樽堂)々寺へねり行く

STANGPO 棒, 竿, 棹

十スターンゴ(數反吳)服物をば擔ぎ行く  
人夫の棒は三日月と撓む

STARI (一) 立つてゐる (二) 靜止してゐる(水なご)

世の中のスターリ(捨り)ものゝ乞食は  
朝夕人の門戸に立つてゐる

STATPO 有様, 状態

すたスタート宣傳歌をば歌ひつゝ  
行く有様の勇ましきかな

STATISTIKPO 統計, 統計學

統計と曰へる名詞はエス語にて  
スタティステーコと稱呼するなり

STATUPO 像, 彫像, 鑄像

スタト、ーオ(數多塔を)並べた墓に六地藏  
石に像をばほられて交はる

STATURPO 身長

身長の短き人は床のスタ(下)  
ロート、ーロ(通路)となして自由に往來す

STEARINPO [化] ステアリン(脂肪素), 硬脂

ステアリン脂肪素をばエス語にて  
ステアリーノと稱呼するなり

STEBI 刺縫す, 重ね縫ひす

刺縫する女の業務を早くステ(捨て)  
ビ(美)服纏ふて高等賣淫する

STELPO (一) 星, [天] 恒星 (二) 星章, 星標

ステーロ(統天明)の空に星最とキラキラと  
輝き渡り世の状を示す

STEPPO [地] 荒原

現し世に身をステーホの旅僧が  
鬼婆住める荒原に行く



STERK'O 肥料

道端にステールコ(捨てる木)の葉を掻きあつめ  
 稲田に入れて肥料とぞする

STERLED'O [魚] 小蝶鮫詩

小蝶鮫腸腐り臭くして  
 止むなくステルレード(泥土)の中へ

STERN'I 敷く, 敷き延べる, 擴げる, 塗る (漆喰など)

主人をば尻に敷くやうな女房は  
 早くステールニ(捨てるに)若くは無からん

STERTOR'O 喘音 (瀕死者などの呼吸と共に發する嘶音)

喘音が段々怪しくなつて來た  
 喉啖ステル(すてる)トーロ(頭顱)冷やす

STILO 體裁, 様式, 風, 流儀, 文體, 建築風

そんなもの携わて居るに体裁が  
 餘り良くない早くステーロ(捨てる)

STIP'O [植] 金雀花

金雀花の花咲き匂ふ神園を  
 ステーパー(ステツキ)ついて散歩するかな

STOFO 露西亞の擲目 ((1)536 (2)102) (一)

ストーフ(數斗法)は露西亞の擲目一五三六  
 リオボルゴをこそモス語云ふなり

STOMAK'O [解] 胃

ストマーコ(酸と飯子)納るに胃の腑を大切に  
 守るは長壽の基なりけり

STRAB'A 顰睨<sup>2</sup>の, 斜視の

ストラーバ(數等戀)の熱も醒めけり顰睨の  
 美人を今や覺りし土は

STRANG'A 風變りの, 奇異の, 變なる

風變りの万年青の鉢よりいやまさり  
 ストランガ(數等蘭香)珍重せらるゝ

STRATO 街, 市街, 通り

ペスト菌撲滅せんと警察へ  
 街人ストラート(數等鼠)を持ち行く

STRECI (一) 引伸す, 張る, 張り擴ぐ, 緊張す (二) 捲く (時

眞人の寫眞を廣く引伸す計を) (三) 氣を張る, 奮力す  
 ストレチ(數等麗緻)な小照となる

STREK'I (一) 線を書く, 棒を引く (二) 棒を引きて消す

秋と冬の天候線を書く時は  
 ストレキ(數等冷氣)加はり來る

STRIPO 縞, 線, 條文

龍宮縞賣り出す大正の呉服店は  
 他よりストリーオ(數等利を)得るなり

STRIG'O [鳥] 梟<sup>2</sup>屬

からストリーゴ(烏鳥午)後の六時になりぬれば  
 梟族の鳥に惱まされて啼く

STRIGLI 手入れす (馬に)

馬丁が塵かストリーグリ(柏取り栗)毛なる  
 馬に朝夕手入れするなり



STRIK'O 同盟罷工, ストライキ  
職工の同盟罷工の張本を  
ポリストリーコ(ポリス捕虜)にして歸署する

STROF'O [詩] 節 (一律全体の詩の)  
エス語にて一律全体の詩の節は  
ストローフの稱呼なりけり

STRUKTUR'O 構造, 結構, 組織, 組立  
構造はエスペラントの名詞にて  
ストルクトゥーロと稱呼するなり

STRUT'O [鳥] 駝鳥  
背の荷を降ろスト・ルート(取る)喜んで  
羽ばたきしつゝ啼く駝鳥かな

STUDI 専門に研究す, 學問に従事す, 研學す  
ストゥーディ(◎統治)世界平和を來さんと  
爲政者は専門に研究するなり

STUDENT'O 學生 (大學, 大學院等の)  
大學の學生信ずるキリスト(キリスト)  
デーン(傳統的)に日曜を守る

STUK'O 漆喰, 化粧漆喰  
漆喰を庭の表に施スト  
コリ固まつて堅庭となる

STUP'O 麻屑, 屑麻  
麻屑の捨場に困り止むを得ず  
廢物利用をスト・ホ(ストーブ)に投げる

STURGO (魚) てふざめ  
てふざめをストールゴ(數頭留御)發送願ひます  
食道樂の會がある故

STURN'O [鳥] 椋鳥  
ビストールノ(ストルノ)聲に驚き椋鳥の  
飛び散る見れば木の葉の如し

SUB [前] の下に  
諒解の下に縁をば結スブ人  
出雲の神の恵みなるらむ

SUBITA 俄かの, 急の, 突然の, 不意の  
角力取り俄かの病に犯されて  
スピータリけり全身の肉

SUBJEKT'O 目的物, 題主, 論件 [文] 主語 [哲] 主観 [論] 主位  
青年の目的物は愛人を  
スブエクト(結ぶ永苦)知らずに

SUBLIMAT'O [化] (一) 昇汞 (二) 昇華物  
昇汞の瓶を壊はして治療室  
スプリマート(燐りマート)驚く書生

SUBSTANTIVO [文] 名詞  
名詞なる名詞はエスペラントにて  
スブスタンティーボと稱呼する

SUBTIL'A (一) 精微なる, 繊細なる, 微妙なる (二) 緻密なる, 鋭敏なる  
精微なる智者を集めて一切の  
學術をスブテ・ラ(統ぶ智偉羅)列して



SUC'I (一) 乳を吸ふ (二) 吸ふ, 嘔る, しやぶる

スーチ(吸ふ乳)なき嬰兒が乳母の乳を吸ふ  
乳母は毎日焼鯛しやぶる

SUD'O 南, 南國, 南地

赤道のズード(赤道)南の南國に  
發展すべく出稼に行く

SUFERI 苦しむ, 悩む, 難澁す, 害を受く, 難に遭ふ

うスフェーリ(薄壁)破れ田舎の家の内  
表替する金に苦しむ

SUFIC'A 十分の, 満足の, 程よき, 可なり

十分の女の誠意見んば  
スフェーリ(好い)にいけない男の方から

SUFIKS'O (【文】接尾語) 接尾語をスフェーリと稱ふる

接尾語をスフェーリと稱ふる  
矢張りお尻に縁があるゆへ

SUFLO'R'O 黒坊(舞台にて陰かに俳優に助言する者)

黒坊は舞台にかくれて俳優に  
スフロローロ(數符券老)の助言するなり

SUFOK'I 窒息せしむ, 息を塞ぐ

朝夕にスフーキ(吸ふ腐汚氣)は田舎人を  
もろくも窒息せびなるは足る

SUK'O (液, 漿, 汁) (少)しの精液にてもスミーダが

スミーダ(少)しの精液にてもスミーダが  
存在すれば妊娠はする

SUKCEN'O (鑲) 琥珀

貴婦人が咽を鳴らしてスクツェーノ(好く底の)  
琥珀の帯止め高價なりけり

SUKCES'F 成功す, 好結果を得, 高き

先生のスクツェース(好く弟子)は成功す  
何に付けても按月なければ

SUKER'O 砂糖

砂糖過ぎた牡丹餅あまりむついでへス  
ちとスケーロに下女に呉れてる

SULFU'R'O (鑲) 硫黄

疥癬の病に利く聞きむよりス  
硫黄投入スルフェーロ(風呂)かな

SULK'O (一) 畦 (二) 皺

田の畦に皺のよつたる老農が  
耕作をスールコし(する腰)を屈めて

SULTAN'O 土耳其帝の尊稱

謝絶スルターノむ(頼む)で先生は止めてくれ  
土耳其帝の尊稱の様なこと

SUM'O (一) 和, 合計, 高, 總額 (二) 金高, 金額

スーモ(角力)取合計二百和解した  
席料金高千圓を越す

SUN'O 太陽

太陽は天に一体がいるより  
スーノ(数の)一とぞ定稱するなり



SUP'O スープ, 肉汁

スープをばスープでまぼと吸ふて居る  
西洋料理に初めて着いて

SUPER [前] ……より高く……より上に……の上方に

御空より高く坐ひます神の柱  
宇宙をスーベル(統べる)力まします

SUPERLATIV'O [文] 最上級

天界をスペルラターボ(統べる良智偉實)の皇神は  
最上級の神に坐もけり

SUPERSTIC'O 迷信

迷信も人の心をスペルステイ(統べる素地)  
ち(ちよ)つは爲になる事もあり

SUPOZI 想像す, 假定す

想像する人の力はスポーツ(素實治)  
國と家とを富まさんがため

SUPRE 上方に, 高く

上方に押スーブレ(無禮)を知らずして  
席をすいめる田舎の紳士

SUR [前] の上に, の表面に, の上にある

スルが(駿河)富士山の上に積む夏の雪  
仰ぎ見るさへ心清けき

SURD'A 聾の

いやなことを聞かされ聾の眞似事を  
スールダけ心辛きものなり

SURPRIZ'O (一) 不意打, 不意の出會 (二) 意外なる事  
(三) 驚愕, びっくり  
不意打を喰つてびづくスルプリーゾ(する風姿ぞ)  
實に滑稽の極みなりけり

SURTUTO 上衣, フロックコート

上衣をば裁縫スルトート呉服屋が  
直ぐ持ち歸り店に陳列す

SUSPEKT'I 疑ふ, 怪しむ, 嫌疑をかく

ススペクテ(酢々尻口)何時も頼りのない話  
する故又か三人は疑ふ

SUTAN'O 教服, 法衣

五六七殿スターノ(數多の)教服身にまじひ  
神前奉仕の勤務役員

SVARM'I 雲集す, 群り動く, うちやうぢす, たかる

エス語會四方の國より雲集す  
御空の星のスパールミ(スバル星み)る様に

SVATI 媒妁す

媒妁す仲人の前に御馳走が  
スパーテ(數鉢)並んで勇しく見ゆ

SVEN'I 氣絶す, 失神す, 卒倒す

高田馬場堀部やスベニ(安兵衛に)惱まされ  
敵は驚き氣絶するかな

SVING'I 振る, 振り動かす, 揮り廻はす

水薬の中味を忘れて醫家書生  
薬種調べてスビーンキ(數爆器)振る



罪の本代償(三) 會出の意不、注意不(一) O'NIRIPIU  
 (三) 注意(三)  
 (三) 注意(三) せりてハス S のひアの意不  
 (三) 注意(三) 注意(三)

ŜAF'O [動] 羊

キリストが神の兒羊導きてイハス御用がハス  
 シーフ、(謝報)の誠を説明しする

ŜAJNI に見ゆ、と思はる、の如し、に似たり

珍らしき品を澤山廻り來ぬ  
 神恩シ、イニ(謝意に)献りしに見ゆ

ŜAK'OJ 西洋將棋

シ、コイニ捻鉢巻の隠居さんガ、モス理十六五  
 椅子によりつつ西洋將棋打つ

ŜAKAL'O [動] 豪狗吠

豪狗の吠わたりける聲聞こはけり  
 牝犬探してシ、カーロー(突尾ろう)とするか

ŜAL'O 肩掛, ショール

白首が人力車上で眠つたが  
 絹の肩掛シ、ーロ(車路)に落ちてる

ŜALMO (一) 牧笛, 麥笛 (二) 火吹, 吹管

牧笛の聲に羊の寄り來たる  
 シ、ールモ(猿も)樹から驚き墜ちる

ŜAMO 羚羊皮

羚羊皮痔を病まぬまで俳優も  
 シ、ーモ(者も)寝て尻に敷くなり

ŜANCO 機會, 機運, 運

ちミシ、ーンツ(チャンス)せなくちやならぬ此機會  
 外づして何時か活動やせむ

ŜANCELI 揺る, 揺り動かす

ゴロツキが富豪を揺る樓文付  
 シ、ンツ、ーリ(思案底裡)に警察へ訴ふ

ŜANG'I 變ず, 改む, 更ふ

十二時の出發なれど汽車に遅れ  
 是非なくシ、ーンチ(三時)と時間を變ず

ŜANKR'O [醫] 下疳, 硬性下疳

玉の肌花の顔したるシ、ヤン(美人)  
 タロ(苦勞)するのにも下疳のために

ŜARAD'O 謎の一種

シ、ラードとは謎の一種も聞きしなご  
 餘りしやれると分らなくなる

ŜARG'I 彈藥をこめる, 装填す [寫] 種板を裝置す

彈藥をこめるは良けれ危険ぞ  
 常に仰シ、ールギ(義)母の教訓

ŜARG'I 積む(荷物を), 載す, [電] 充電す

人力車に荷物を積むは不都合  
 仰シ、ールチ(爺)の禿頭光る

ŜARK'O [魚] 鱧, 鮫

色鱧き男は容易に眼威ない  
 親の仰シ、ールコ(水)音も尻で聞く